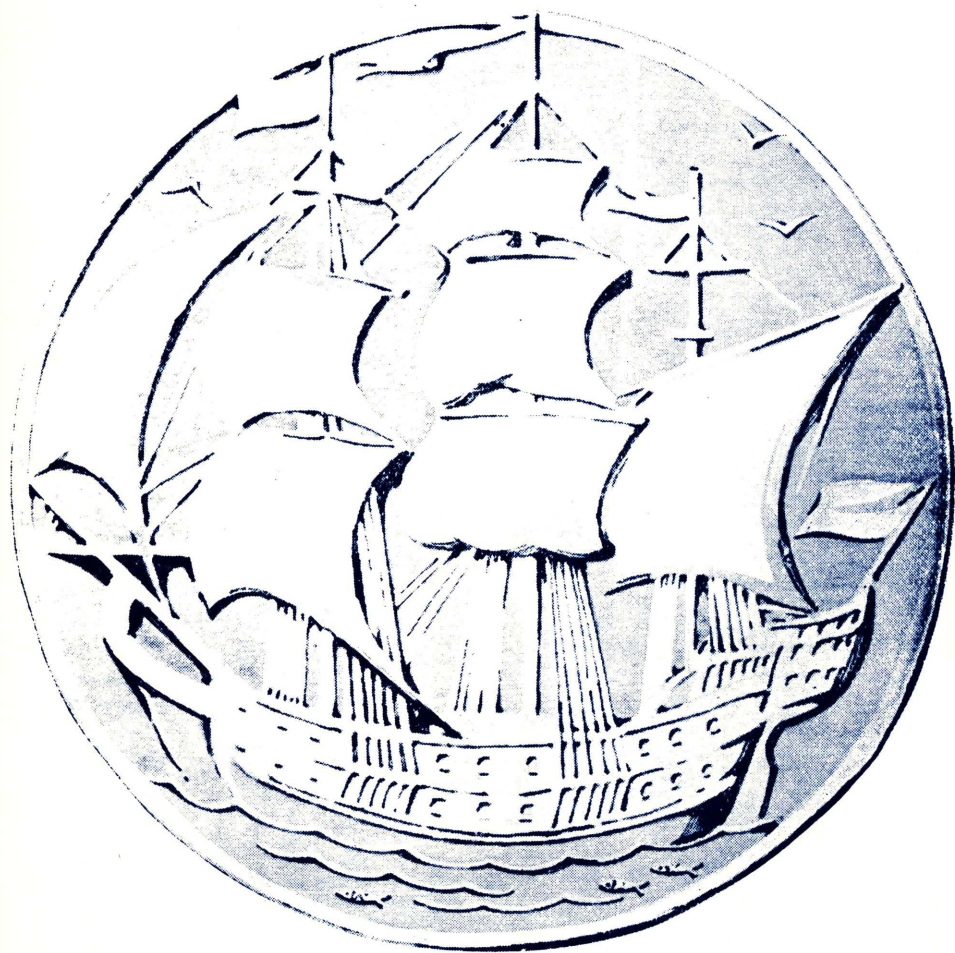


幼の教育

第九・八第 號 月 九 卷六十三第



東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

文學士 寺田精一著

兒童の惡癖

◆重版!! 菊判洋綴全一冊紙數五百頁
定價金三圓五拾錢送料廿二錢

兒童惡癖の初期診斷と其治療
矯正の實際的研究書!!

教養者が特に注意してゐる問題であるに拘らず
兒童の惡癖はその處遇に關して頗る曖昧な態度が
取られてゐるのは、畢竟、惡癖の由つて來る所が複
雜であるのと、教育家にその方面の餘裕なき爲で
あり、従つて兒童の生活に對する周密な觀察や、懇
切な注意も届かず、往々にして絶望的態度が先入
してゐることすら決して稀ではない。本書は教養
上より觀た主なる惡癖を選び、心理學的見地より
深く童心に立入つて考察したもので、これ等に最
も肝要な條件たる諸原因及び其の性質の何たるか
は勿論、癖となる虞あるもの、癖となるべき初期の
程度にあるもの、判斷と、その矯正法を詳述した
通俗且實際的な兒童教養書である。各小學校、幼稚
園の常備書として、教育家各位の御精讀を望む。

發兌
東京市牛込區
辨天町一七四
振替東京三八四二七
中文館書店

東京高等師範學校教授
文學博士 小野島右左雄著

四版 最近心理學概說

本書の最も特色すべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に満ちた本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青年心理學・發達心理學・個性性心理學・社會心理學・異常心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般の智識を獲得すべきは勿論、學科學の方法論、生活論、生活論の理論と教育の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は人間の具象的心的に立ち、此思想困難の打開に資す。

文部省高等師範學校衛生部醫學博士 吉田章信著
定價一圓二十錢送料廿二錢

新刊 新式學校衛生評價

本書は學校衛生施設の評価を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を計り、其一部の施設に於て得たる効果を他の一部に於て失はざる様終始連絡を取り、更に在學中に得たる効果を生涯を通じて保存せしめ、以て強健な國民を養成すべきを力説す、而して學校長の自校の衛生施設に對する態度と各擔任の定めかた、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價に關する、實習の必要等にも言及し、一、健康保持、二、疾病異常矯正と缺陷者の保健、三、健康増進の三大綱目に別ち、以て當局者の採るべき道を巨細に及び評説し、斯界最進の指針とす。之を要す。

東京帝國大學
助教授 文學士 青木誠四郎著
定價三圓八十錢送料廿二錢

五版 劣等兒心理と其教育

劣等兒と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はな、今假に兒童の天分を學的に分類して天才、最上智平均、下智、愚鈍、精神薄弱、低能、白痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約一%を占め、それ以下、愚鈍等の総ての低能兒を合すれば二十%に及ぶと約一%。著者は只管に之等低能むべき人達の幸福を少しも増す爲に、より完全な教育を感懐する爲に本書を世に問ふたのである。

上卷 定價三圓二十錢
下卷 定價三圓二十錢
合輯 定價五圓八十錢
送料 三十三錢

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りたいけば幸です。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料

一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御注文下さい。

最近幼稚園兒中虛弱兒童が著しく増加し全兒童の半数以上に達して居る統計は一驚に價する訴で實に歎はしき次第でありますが然し之れが矯正、健康法については事柄が醫術のみでなく専門の學問である爲め何人も容易に行はれない現状であります。

當研究所は國民體質向上のため聊かながら貢獻をしつゝあるものであります。が今回當所社會部の主催で各地縣立中等學校の招聘により本問題について學界の權威者たる松村義雄先生を關西各地へ派遣する事になりました。そして此の機界を利用して幼稚園兒の母の會へも出張され兒童の健康法について講習されることになりました。

先生の學識、御經歷については兒童保健に志す方はよく御承知の事で今更ら暇々する必要もありませんが今日まで幼稚園では機界のないため其の御高説を聴く事が稀でありましたが今回は幸ひかうした好機界でありますから成るべく速く御申込の上先優權を御確得相成るよう御すゝめ申上げます。

社團 國民保健研究所

園兒保健法母之會講習會

最も効果ある虛弱兒童の健康法ニ體質撰定法

社團 榮養研究所 講師醫學士 松村義雄先生

申請資格 園兒三十名以上を收容する公私立幼稚園にして相當教養ある會員の母の會
無料講習 區域大阪以西、即ち關西、近畿、四國、中國、九州の各地(朝鮮、滿洲、臺灣も區域内に
することあるべし)

會期 九月中旬より十二月中旬までの午後(詳細は申込者と打合せ決定)

特典 今回の巡回講習は費用一切研究所社會部にて支出のため會費、謝禮等一切不用

締切 期間中の全部決定と同時に〆切

申込 講習希望時日、甲、乙二案作成の上御申込次第詳細回答す。(不明の點は照會を乞ふ)

昭和十一年九月

福岡市新大工町五十五

申込場所

社團 國民保健研究所

最 も 効果ある 虚弱兒童の健康法

近時國家の重大問題とされてゐる事は言ふまでもなく我國民の體質が漸次惡質低下の傾向を辿り、虚弱兒童の數は著しく増加し全兒童の實に半數に達せんとしつゝあることで、此虚弱兒童を今に於て矯正せずんば將來由々しき結果を生ずる事は必然の道理であるが、現今我々が特に注意しなければならぬ本問題に對し研究の餘裕なきためか輕々に學校醫に委ね或は體育獎勵、スポーツ振興等のスローガンに傾き虚弱兒童の原因を研察せず、其の結果益々虚弱兒童の數を増加せしめる感なきに非ず。本書は著者が長年研究に研究を重ねし虚弱兒童の生きた矯正法、健康法を通俗的に然も整然たる學理と卓越せる經驗に基き通俗的出版書として詳述せる良書にして必らずや教育家各位の期待に沿ふ所、多大ならんと肯て推薦す。

簡明榮養學

定價 壹圓
送料 六錢

最近榮養問題が喧ましく叫ばれるやうになつて教育者としても常識的に榮養と疾病との關係を知つて置く必要に迫られてゐるが多くの著書はあまりに専門的に傾き榮養學の大意を知るに難き感あり。本書は榮養の大意と著書の臨床上の體験とを併合し通俗的に榮養の大意を知り得る書にして然も附録には榮養缺陷によつて生ずる諸病を詳述しあれば兒童衛生に拂はるものゝ必讀を要する書なりと信す。

【部 一次目 容 内】

榮養素の機能（有機養素其他）
胃腸の消化吸收作用
胃腸病の症狀
大食と小食の胃に及ぼす影響
血壓亢進と蛋白質の過剩
運動量とエネルギー
有窒なる脂肪のコレステリン
スポーツマンの榮養
スポーツ激しければ肺は弱る
最も多い肋膜炎
スポーツ病を驅逐せよ（其他）

【部 一次目 容 内】

何故虚弱兒童が出来るか
兒童の腺病質増加は當然
腺病質と其の矯正法
胃腸虚弱の矯正法
水分不足の虚弱兒童
偏食兒童と其の矯正法
傳染病と自家中毒
兒童の不足せる榮養分
齒の弱いの榮養不良
消化吸收とは何ぞ
都會と農村の虚弱兒童（其他）

定價 八拾五錢
送料 六錢

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りたいけば幸です。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料

一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替 東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御注文下さい。

最近幼稚園兒中虛弱兒童が著しく増加し全兒童の半数以上に達して居る統計は一驚に價する訴で實に歎はしき次第でありますが然し之れが矯正、健康法については事柄が醫術のみでなく専門の學問である爲め何人も容易に行はれない現状であります。

當研究所は國民體質向上のため聊かながら貢獻をしつゝあるものであります。が今回當所社會部の主催で各地縣立中等學校の招聘により本問題について學界の權威者たる松村義雄先生を關西各地へ派遣する事になりました。そして此の機界を利用して幼稚園兒の母の會へも出張され兒童の健康法について講習されることになりました。

先生の學識、御經歷については兒童保健に志す方はよく御承知の事で今更ら暇々する必要もありませんが今日まで幼稚園では機界のないため其の御高説を聴く事が稀でありましたが今回は幸ひかうした好機界でありますから成るべく速く御申込の上先優權を御確得相成るよう御すゝめ申上げます。

社團 國民保健研究所

園兒保健法母之會講習會

最も效果ある虛弱兒童の健康法ニ體質撰定法

社團 榮養研究所 講師醫學士 松村義雄先生

申請資格 園兒三十名以上を收容する公私立幼稚園にして相當教養ある會員の母の會
無料講習 區域大阪以西、即ち關西、近畿、四國、中國、九州の各地(朝鮮、滿洲、臺灣も區域内に
することあるべし)

會期 九月中旬より十二月中旬までの午後(詳細は申込者と打合せ決定)

特典 今回の巡回講習は費用一切研究所社會部にて支出のため會費、謝禮等一切不用

締切 期間中の全部決定と同時に〆切

申請 講習希望時日、甲、乙二案作成の上御申込次第詳細回答す。(不明の點は照會を乞ふ)

昭和十一年九月

福岡市新大工町五十五

申込場所

社團 國民保健研究所

最 も 効 果 有 る 虚 弱 兒 童 の 健 康 法

近時國家の重大問題とされてゐる事は言ふまでもなく我國民の體質が漸次惡質低下の傾向を辿り、虚弱兒童の數は著しく増加し全兒童の實に半數に達せんとしつゝあることで、此虚弱兒童を今に於て矯正せずんば將來由々しき結果を生ずる事は必然の道理であるが、現今我々が特に注意しなければならぬ本問題に對し研究の餘裕なきためか輕々に學校醫に委ね或は體育獎勵、スポーツ振興等のスローガンに傾き虚弱兒童の原因を研察せず、其の結果益々虚弱兒童の數を増加せしめる感なきに非ず。本書は著者が長年研究に研究を重ねし虚弱兒童の生きた矯正法、健康法を通俗的に然も整然たる學理と卓越せる經驗に基き通俗的出版書として詳述せる良書にして必らずや教育家各位の期待に沿ふ所、多大ならんと背て推薦す。

簡 明 榮 養 學

定 價 壹 圓
 送 料 六 錢

最近榮養問題が喧ましく叫ばれるやうになつて教育者としても常識的に榮養と疾病との關係を知つて置く必要に迫られてゐるが多くの著書はあまりに専門的に傾き榮養學の大意を知るに難き感あり。本書は榮養の大意と著書の臨床上の體験とを併合し通俗的に榮養の大意を知り得る書にして然も附録には榮養缺陷によつて生ずる諸病を詳述しあれば兒童衛生に拂はるものゝ必讀を要する書なりと信す。

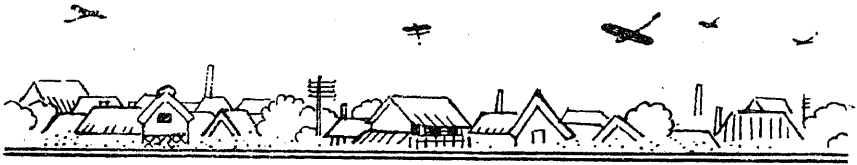
【部 一 次 目 容 内】

榮養素の機能（有機養素其他）
 胃腸の消化吸收作用
 胃腸病の症狀
 大食と小食の胃に及ぼす影響
 血壓亢進と蛋白質の過剩
 運動量とエネルギー
 有窒なる脂肪のコレステリン
 スポーツマンの榮養
 スポーツ激しければ肺は弱る
 最も多い肋膜炎
 スポーツ病を驅逐せよ（其他）

【部 一 次 目 容 内】

何故虚弱兒童が出来るか
 兒童の腺病質増加は當然
 腺病質と其の矯正法
 胃腸虚弱の矯正法
 水分不足の虚弱兒童
 偏食兒童と其の矯正法
 傳染病と自家中毒
 兒童の不足せる榮養分
 齒の弱いの榮養不良
 消化吸收とは何ぞ
 都會と農村の虚弱兒童（其他）

定 價 八 拾 五 錢
 送 料 六 錢



第 九 八 號 幼 兒 教 育 第 三 十 六 卷

— (次 目) —

| | |
|--------------|----------|
| 口 繪 | 倉橋惣三(一) |
| 卷 頭(九 月) | 倉橋惣三(一) |
| まごころ | 曾 根 保(二) |
| 舌切雀の展開(二) | 小池藤五郎(六) |
| 歐米幼兒教育視察記(二) | 高市慶雄(三) |
| 旅を考へる | 菅原教造(三) |
| 兒童心理學文獻抄(二十) | 牛島義友(五) |
| なた豆 | (六) |
| 系統的保育案の實際解説 | (六) |
| 生活訓練 | 倉橋惣三 |
| 誘導保育 | 菊池ふじの |
| 唱歌遊戯 | 村上露子の |
| 談 話 | 小島 |
| 觀 察 | 新庄よしこ |
| 手 技 | 小島光子 |
| 保 育 案 | 及川ふみ |
| | 倉橋惣三(九) |

婦人の友
主筆 羽仁もと子先生
序詞・上澤謙二先生著

四六判美装
函入三五〇頁
總振假名付

價一圓五十錢
送別十四錢

甲子さん上太郎さん物語

子供の生活を良くする爲の
新しい工夫と創意に成る此
物語は全國に甲子上太郎會
を生み臺灣放送局だけでも
四十回の放送記録を持つ！

三人の男の兄と三人の女の兄と併せて六人の兄妹が朝起きるとから夜寝る迄六人六様な事をするよい兄から順に男の方は上太郎中太郎下太郎、女の方は甲子乙子丙子。讀む子供にさう點を付けさすすべて廿四話、廿四回の探點はどんな結果を齎すか？子供は自らの生活を反省し忽ち向上する

羽仁もと子先生主
宰子供之友廿年連
載試験済の良讀物
今此中より最良の
もの廿四篇を選ぶ
★各家庭に圖書館
に學校文庫に必備

・二十四篇一つ一つが興味豊かな讀み物であると同時に教育的な問題を提供してある。だから子供に鑑賞的な喜びを與へると同時に、自發的な思考作用を發動させる。
・每篇末に必ず「あなたはこの中に誰に似てゐますか？」「あなたは誰になりたいと思ひますか？」の問がついてゐる。これは子供の自己發見を促す暗示となり、子供に實行を促す動機を作り出す。
・附録に以上の觀察と批判力と探點の結果に興味を與へる爲に、成績表と、一人別探點表と甲子上太郎の心理學を附す。子供の生きた生活讀本！

新幼兒ばなし三百六十五日

上澤謙二先生著
春・夏・秋・冬の卷
各價二二〇送各二四

何時もインソップやグリムでは物足らぬ人達に！
本書は主に現代歐米作家から話材を採りこれを附
著者の創意を加ふ。日語の話の目的と取扱ひ方を附
した懇切な本だ。

大谷恒郎先生著

價一八〇送料二四

先生から知らせていただきます

生きた教育實話

少年國史文庫

（全十二冊）西龜正次先生著
價各冊一〇〇送各二四

少年日本地理文庫

（全十二冊）橋本賢康先生著
價各冊一〇〇送各二四

少年世界地理文庫

（全十二冊）西龜正次先生著
價各冊一〇〇送各二四

幼兒に読んでお話

長尾豊先生著 四六版美装
函入 價一・五〇送二四

東京・麹町・六下番町
厚生閣

振替東京五九六〇〇番
電話九段三二八番

先生としての
北崎永榮先生著
價一・〇〇送二四
お父さんお母さん

花の
数、
花の
色。



幼 兒 の 教 育

昭 和 十 一 年 九 月

九 月

潮日日光で灼きつけられた子ぎもの顔の黒さがだんくにはげて、その下から快よい健康味がつややかな色にあらはれて来る。その一方、夏に負けてぎこかすきくしく蒼白くたるんでるた子ぎもの頬が一日々々赤味ざして、いつものふくよかき弾力ある表情にもぎつて来る。結果にせよ恢復にせよ、ぎつちにしても、九月は子ぎものに健康を盛りあがらせてくれる嬉しい月である。

強くなれく。ふきれく。はりきれく。先生なんか負かして仕舞ふほぎ元氣になれ。いよ。少し位の亂暴もいたづらも。おちさんがついてる。なあと先生だつて、みんなの内に充實してゐる九月の健康元氣に對して、美しい目をみはつて感嘆し、心から嬉んでゐられるのだよ。

それにしても、子ぎものこの健康元氣に對して、先生の健康元氣をこの上にも願はずにゐられない。もしそうでないき、九月の幼稚園は下が克つて上が負けるものになつたりする。

まことごころ

— 詩の世界に就いて —

東京女高師教授 曾 根 保

お恥しいことに、私はまだ詩に就いて多くの人の前でお話するほご組織立つた理論を持つてゐない。まして詩に就いて議論をするさいふやうなこゝ、即ち卑見を提出して人を説服するさいふやうなこゝは到底望めない。たゞ何さなく詩が好きで、自分でも作つて悦に入り、又他人の優れた作品に接して嬉しがる程度に過ぎない。私は、わが國の詩歌に心惹かれるのは云ふまでもないが、イギリスの詩にも非常に良いものがあるので日頃愛誦してゐる。わが國では英語を教へても散文に限り、詩は難解であり、又入學試験にも無いさいふ理由で殆んご無用視されてゐるが、詩を知らなくて眞の散文を味はふこゝは不可能である。又英語の本質がアクセントに在るさいふこゝを知つてゐながら、リズムは詩からはいれるのが近道ださいふ事實を忘れてゐる觀がある。實際、良い詩を教へて貰つたならば忘れられるものではない。詩は言葉の藝術なのだから、之に親しめば言葉に對するあらゆる認識を深めて鑑賞が出来るやうになるばかりでなく、自ら創作するこゝにも興味を覺えるやうになる。繪畫や彫刻、又音樂のやうに媒介物や器具に對する習練さいふものを要しないので、詩こそ藝術の中で萬人の物言つて過言でない。しかし、私は今、詩を作るこゝを奨励しようとするのではない。良い詩、美しい詩、偉大な詩に接するこゝは、即ち自己を高め、美化するこゝに外ならぬから、若し私に機會が與へられるならば、今後折にふれ、イギリスの良い詩、美しい詩をこゝに紹介して、お互に嬉しがつてみたいと願ふだけである。それで先づ初

めに序論を以て、廣い意味でいふ詩の世界、人生と詩との關係、詩の效用をいつたやうな、極く大まかなお話をしてみよう。

* * * * *

現代イギリス詩壇に、本年六十六歳の老齡ではあるが、今日尙盛に活躍してゐる詩人にウィリアム・ヘンリ・デイヴィスといふ人がある。小學生の頃、少年ギャング團を組織して町を荒らし、放校處分を受けた程の末怖ろしい人物で、後アメリカに渡り、放浪者の群に投じて所謂ナラズ者の生活をしてゐたが、貨車のタゞ乗りに足を這らし、文字通り失脚し、已むなく初志を翻して本國に歸つて來た。そして詩を書いて生活の資を得ようとした。三十歳の頃である。千九百三年に「魂の破壊者」といふ詩集を出して知名の士に送り、若し不用なら送り返して呉れ、入用なら代金を、といふ甚だ蟲のいゝ販賣法を試みた。ところが例のバーナド・ショーの御氣に召して、もう何部か送れといふことになり、遂に詩壇にデビューしたのである。その後幾多の詩集を公にし、今日では押しも押されぬ詩人として多くの讀者を有してゐる。この人は今云つたやうに學校教育を殆んど受けてゐないばかりでなく、ひどい境遇に身を置いたのだが、それにも拘らず、彼の詩には野卑なところなぞ少しも無く、又イギリス詩人にあり勝ちなベダンティックなところも無い。洵に素朴單純な氣持のいゝ抒情詩を書く人である。こゝに彼の「閑暇」を題する詩を掲げる。

この生は一體何だらう、若し心遣ひばかり多くて

佇んで、じつと物を視る暇も無いとしたら、

羊や牛のやうに、いつまでも木蔭に佇んで

じつと物を視る暇も無いとしたら、

森を通つても、栗鼠が木の實を

草の中に隠すのを見る暇も無いとしたら

眞晝間、夜空の星のやうに
きら／＼閃く流れを見る暇も無いとしたら

「美」が閃くとき、振り向いて、

その足の踊るのを見る暇も無いとしたら

その眼もこの微笑ほえみが口許に

ほころびるのを待つ暇も無いとしたら

ほんさうに惨めな生だ、若し心遣ひばかり多くて

佇んで、じつミ物を視る暇も無いとしたら

尤もこの翻譯では原詩の持つリズムも何もかも消えてしまつて、たゞ意味だけが傳へられてゐる程度であるから、この詩の美しさを十分に味はつていたゞくわけにゆかぬのは残念であるが、私の今から申上げてみたいと思ふことを卒直に、しかも詩的に言ひ表してゐるので引用したのである。デイヴィスは、この世の美しさを、しかも吾々の周圍に充滿してゐる美をエンジヨイする心の餘裕をこよなきものとして歌つてゐる。實際、吾々はこの世の中が如何に住みにくいものであるかを十分に知つてゐる。知つてゐるだけではない、苦しんでゐる、泣いてゐるのである。『明日のこゝを思ひ煩ふ勿れ、一日の苦勞は一日にて足れり』を教へられても、之を素直に受け容れることはむづかしい。吾々は苦勞の坩堝にゐるのだ。何の苦しみも、執著もない幼い頃は懐しいに違ひないが、懐しいさいふのも吾々が苦しみを知つて始めて言へる。こゝである。イギリスの偉大な自然詩人ワーズワスはかう言つて居る――

吾々は故里ふるさと、神から

榮光の雲を曳いて來る。

天は、嬰兒の時には身邊を圍んでゐるが、

獄屋ひじやの影は

生なまひ立ち行く少年せうねんに迫り始める。

けれども少年は尙光明を認め、その本質を知り、歡喜してそれを見る。

青年は日一日いちにち東から遠ざからねばならぬが、尙自然に仕へる祭司で、

壯嚴な幻がその行く手につき纏うてゐる、

終に大人おとなになつては、その幻の光は消え失せ、

唯平凡な生活の光ひかりなるのを知る。

吾々成人の生活は洵に絶望ぜつぼうといつてよい。人生は平凡なばかりでなく、實際果敢ないこと夥しい。シェイクスピアに言はせるごとく――

明日あしたそして明日あした、又明日あした、

時は忍び足で、小刻みに、

記録された最後の一分まで經つて行く。

昨日きのういふ日はすべて、阿呆共が死んで土になりゆく道を

照したのだ、消えろ、消えろ、束の間の燭火！

人生は歩いてゐる影に過ぎない。

唯自分の時間だけ、舞臺の上で威張つて歩いたり、悩んだりして、

その後は、もう音沙汰のなくなる惨めな役者だ。

騒ぎや、當りは激しいが、

たあいもない、馬鹿者が話す話だ。

かうなるま生きて行くのも馬鹿らしい。だが、人生はたゞそれきりだらうか。ワーズワースが「人間苦から生ずる慰めの想ひの中に、又死を通して見る信念の中に、吾々は力を認める」ま言つてゐるが、その悟りの境地に達する希望を吾々は捨てたくない。人間苦を嘆いてばかりゐるのは愚いこゝであらう。和樂の世界が必ずある。富士谷御杖大人は「眞言辨」に次のやうな意味のこゝを言つてゐる――

『人間は生れながらにして執著が深く、欲が深い。正しいこゝにも執著し、邪ごゝにも執著す。全く執著する價値の無いこゝを知りつゝも猶執著して、欲をかまく。人間のもつてゐるかういふ情意をひきへごゝろこいふ。極めて稀には實にあつさりして、何ごゝにも少しの執著ももたないま云ふ人があるが、それも又やはり一種の執著である。ひきへごゝろは時には猛然まいきり立つてひたぶるごゝろなる。手におへないで困つてゐるのを見て道學の人々は道義心に隨へばいゝのだ。道義心まいふものがひきへごゝろやひたぶる心の外にある。それに隨へま言つてそれを高調する。なる程人間にはさういふ道々しい情意がある。おほやけごゝろまでもいへばいゝであらう。おほやけまいふこゝは理がつんでゐるが、理がつんでゐるまいふこゝま、時のよろしきにかなふこゝは必ず一致するま斷言するこゝは出来ぬ。ひたぶる心をおほやけごゝろで抑制しようましてもうまはできぬ。しからば吾々は如何すればいゝのか。その答はかうだ。詩歌の世界に入ればよい。神韻漂渺たる心境に入るのである。これをまごゝろこいふ。ひきへごゝろを捨て去らず、ひたぶるごゝろを咎めだてせず、おほやけごゝろをけむたがらず、總てを殺さないで、總てをうまく止揚するごゝろで

ある。神も最上無二のころを以てこれを尊びたまふのである。』

何處を向いて見ても人間が皆惻口になつて、執著のないやうな顔をして、そのくせひこへころを燃やしてゐる。このやうな厭世世の中が會つてあつたであらうかこさへ嘆かれる。尤も辭世に『此の世をばりやおいこまにせん香の煙こもに灰さやうなら』なきこ茶化したり、『浮世の月見過しにけり末二年』なきこ如何にも執著のないやうな言葉を残した一九や西鶴も、否、その時代の人々も案外今日の人のやうだつたかも知れぬ。それにしても五十二歳を『浮世の月見過しにけり』こは『人間五十の極り』を餘りにも正直に考へたものである。學校を退いても研究は可能であるものを、六十歳の停年制をさへ短か過ぎるやうに言ひ勝ちなのが今の世の中である。

「まごころ」こ「おほやけ」こ「こ」に就いて、もう少し考へてみよう。英語の形容詞に二種類あるこは御存じこ思ふ。即ち blue sky や red rose に於ける blue や red のやうに論理的、理智的なもの、my little girl や old John の little や old のやうに「小さい」こ「年こつた」こ「いふだけの意味でなく、何こなく親しみの情合を漂はせてゐる情緒的なもの」こである。翻譯の場合には前者は言葉そのまゝを日本語に移せば用は足りるが、後者の場合はさう簡單にゆかない。形容詞なしで文章が書けないここもないだらうが、やはり二種類の形容詞を生かして使用することが望ましい。理論的、理智的方面だけで片づけては固くなつてしまふであらう。「おほやけ」こ「こ」即ち理で押して行つては露ひが無い。夏目漱石の「草枕」は次の名文で始まつてゐる――

『山路を登りながら、かう考へた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮窟だ。兎角に人の世は住みにくい。住みにくさが昂じるこ、心安い所へ引き越したくなる。ここへ越しても住みにくいこ悟つた時、詩が生れ畫が出来る。

人の世を作つたものは神でもなければ鬼でもない。矢張向う三軒兩隣にちらくする唯の人である。唯の人が作つた人の世が住みにくいからきて越す國はあるまい。あれば人でなしの國へ行く計りだ。人でなしの國は人の世よりも猶住みにくからう。

越すここのならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をざればさか寛容げて束の間の命を束の間でも住みよくせねばならぬ。こゝに詩人さいふ天職が出来て、こゝに畫家さいふ使命が降る。あらゆる藝術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊い。

住みにくき世から、住みにくき煩ひを引き抜いて、ありがたい世界をまのあたりに寫すのが詩である、畫である。あゝるは音楽さ彫刻である。こまかに云へば寫さないでもよい。唯まのあたりに見れば、そこに詩も生き、歌も痛ぐ。着想を紙に落さずとも響鏘の音は胸裏に起る。丹青は畫架に向つて塗抹せんでも五彩の絢爛は自ら心眼に映る。唯おのが住む世を、かく観じて得て、靈臺方寸のカメラに澆李瀾濁の俗界を沾くうらゝかに收め得れば足る。この故に無聲の詩人には一句なく、無色の畫家には尺縑なきも、かく人世を観じて得るの點に於て、かく煩惱を解脱するの點に於て、かく清淨界に出入し得るの點に於て、又この不同不二の乾坤を建立し得るの點に於て、我利私慾の羈絆を掃蕩するの點に於て——千金の子よりも、萬乗の君よりも、あらゆる俗界の寵兒よりも幸福である。

世に住むこゝ二十年にして、住むに甲斐ある世さ知つた。二十五年にして明暗は表裏の如く、日のあたる所には屹し影がさすこゝ悟つた。三十の今日はかう思うて居る。——喜びの深きさ憂ひ愈深く、楽しみの大なる程、苦しみも大きい。之を切り離さうとするこ身が持てぬ、片附けようとするれば世が立たぬ』。

この中に文豪の人生觀、藝術觀が窺はれる。苦しみの現實から「ありがたい世界」を観る時、人は始めて現實に生きる價

値を見出すのである。

二十世紀に足りないものは睡眠だと言はれてゐる。子供にさへも睡眠が足りない。近頃の都會の子供はパッチリ目を開けてゐるながら、その眼の底には澄み切つた深みがない。よく見えさうな眼をしてゐても、遙か彼方を映す清澄さがない。近眼は現代人の特色である。自分の子供のこころをお話しては相濟まぬが、いつぞやこんなこころがあつた。尤も私の子供も睡眠不足の連中の一人であるこころは申す迄もない。或る朝、私が起しに行くこころ、駄目だよ、駄目だよと言つて枕にしがみついてゐる。肩をゆすぶつてやるこころ、駄目だつたら、今夢みてるんだから。そんなにしちやばらくに壊れてしまふぢやないの、と言ふので、私も手の下しやうがなくて引き退つた。子供は夢で遊んでゐるのである。しかし現實はなかく夢に假借しない。夢を丁度鏡でも粉碎するやうに壊してしまふ。恐しいこころではあるが、現實の世に生きてゐる子供は仕方がない。起きて學校へ急がなければならぬ。又それがこの世の眞の相である。いくら子供でも夢ばかりに浸つてゐるこころは許されない。それにしても現代は餘りに睡眠が、夢が足りない。「まごころ」が不足してゐる。

漱石の所謂「ありがたい世界」、即ち藝術の世界は又「無用の用」の世界を呼ぶこころも出来る。無用の用はたゞ趣味の問題だなどと言つてしまつてはいけぬ。それは認識不十分である。眞の詩の世界は「無用の用」の世界、即ち無用のものがある用となる世界である。或る詩人はかう叫んでゐる——「詩は神祕な道を辿つてその獨特な絶對價に高潮して來る刹那、見よ、不思議にも無用は忽にして有用に變る。人若し無用なものが場合が違ふと最も有用になる(例をあげる)小流の岸に捨てられた小石だ。その小石から教訓を聽くに於ては最も重要なものとなる如くこころを知らば、詩歌に於ける無用の姿が二重にも價の有るのを知つて來るであらう。有用の一面がその無用の姿の裡から恰も暗い夜の胸から眞晝が生れる如く、常に生れ出るのである。人生の大部分は非現實の上に建てられ、非現實そのもの、力に依つて現實が充満され、又緊張され

て来る」云。洵に真理である。ゲーテが「世を逃れるに藝術程たしかな道はない、又世を關係を結ぶに藝術程適當な道はないであらう」云言つたのは、やはりこの邊のことを説いたもので、意味深遠である。昔から「人生の爲の藝術」、「藝術の爲の藝術」といふ二つの問題が論議されて來たが、人生の爲ならざる藝術は存在し得ないし、又藝術の爲に作られない藝術も眞の藝術ではない。

現實から非現實に進む時、藝術の國に入る。岡倉天心先生の「茶の木」に、『原始人が愛する處女に花環を捧げるを始めて野獸の域を超越した。かくて自然の實用を超えて人間となつた。玄妙な無用の用を知つた時藝術の世界にはいつた』云ある。又藝術の境地は究局に於て宗教や道德の境地も一味相通するものがある。右肺を全部失ひ、左肺も既に第三肋骨のあたりまで侵されてゐる病牀の一婦人が「魂の憩場」と題して次の如く書いてゐるのを私は新聞で讀んだ。現實に生きて之を超えた世界を認める。即ち「まごころ」を持つまは幸福の極みである。

『私は未完成な一個の凡人に過ぎない。時に不平もあり、時に不安もある。癩癩も起きる。だが、それでよい。喜びや、悲しみや、怒りや、それらのものがあつてこそ、人の世は美しく楽しい。大自然にも風雨あり、雷雨あり、時に氷雨のあるやうに、人の心も晴明な天氣ばかりはつゞかない。時に曇り、時に時雨れ、而して時に沛然として驟雨至る。しかしそれらは、表面に浮動する一時の現象に過ぎない。雲の彼方に巖然として動かぬ太陽の照る如く、吾等の心の底には、何物にも侵されぬ神の榮光がある。佛陀の般若がある。眞如の世界がある。深夜靜かに眼を閉ざし、想ひを秘めて、内なる人に見參する時私の魂は躍動する。そこには、憂き悩み、譏り、詔ひ、諸々の俗界を超えた寂境がある。俗界を拒否するのではなくて、これを容して、これを超えた世界がある。こゝでは神と人が相擁して、共に語り共に呼吸づく。これこそ「まごころ」の世界、又漱石の言ふ「ありがたい世界」である。實際「あはれあの月も我が爲の月なり、あの

山、あの水も我が爲の山に水なり』を觀するところ、「まことごころ」の働くところに詩の世界がある。「徒然草」第三十一段に――

『雪のおもしろう降りたりし朝、人のがりいふべき事有りて、文をやるにて、雪の事何ともいはざりし返事に、かへりて「此雪いかに見るに一筆のたまはせぬほどの、ひがひがしからん人の仰せらるゝ事、聞きいるべきかは。かへすかへす口惜しき御心なり」といひたりしこそ、をかしかりしか。』

とある。非常に面白い話である。このやうなゆかしい心の人が今日も多くあつてほしいものである。このゆかしい心こそ無用の用を知つた心である。巧利の世界、理づめの世界にあつて「まことごころ」を持つ心である。ゆかしい心の世界は誰もが持ち得る世界である。人間が強いといふのは、單に腕力や智力が人に優れてゐるといふのではない。「おほやけごころ」は尊重すべきであるのは勿論だが、ゆかしい人情ほご強みのあるものはない。高きもの、美しきものに親しみ、それを不斷に意識に浸透させること、即ち「まことごころ」を養ふことが情操教育でなくてはならないと思ふ。安價なセンチメントに混同してはいけない。夢の世界はたゞへ現實が絶えず破壊の斧を振ふにしても、決して捨つべきではない。現實に押し流されて生きるだけなら、人生は憂鬱にきまつてゐる。それこそ『ほんまうに惨めな生だ、心遣ひばかり多くて、佇んで、じつと物を視る暇もないとしたら。』

イギリスの神祕詩人ウィリアム・ブレイクは一粒の砂にも、又一もこの草花にも天國を見てゐる。

一粒の砂に世界を、

野の花に天國を見、

君が掌に無限を、

一時ひとときのうちに永劫を擲め、

詩人の深い思念の世界から放たれた神祕な言葉、私はその暗示の中に限りない愉悅を感じる。又アメリカの詩人ホイットマンも

私は信ずる、一枚の草の葉も詩の仕事に劣らないことを、

また、生ひのびる鈎かぎ懸けん子こは天國の客間を飾るに足ることを。

ミ歌つてゐるが、吾々は詩の世界にはいり得るが故に、有限の現實の世界も無限に連ることを知り、この住みにくい世もありがたい和樂の世界を觀ずるこゝが出来るのである。

* * * * *

さてこゝに一匹の蠅を捕へて來る。實に厭はしい存在であるが、これを詩の世界に住む人がぎのやうに觀てゐるか、さのやうに歌つてゐるか、考へてみよう。始めに散文を掲げる。これはイギリスの閨秀作家マンスフィールド女史の短篇『蠅』の中の一節で、「彼」ミいふのは歐洲大戰で獨り息子を失つた實業家である。戦死した當時は諦めが肝要だミ踏みこたへてゐるが、最近ベルギーで息子の墓地に詣で、歸つて來た友人の話を聞いて急に憂鬱に閉ざられ、今息子の寫眞の前で獨りむしやくしやしてゐるこゝろである。

『彼は一匹の蠅が、口の廣いインク壺の中に落つこちて、よぢ登らうとして、か弱いが必死の努力をしてゐるのに氣がついた。

「助けてくれ、助けてくれ」ミいふやうに脚をもがいてゐる。でもインク壺の内側は濡れてつる／＼してゐて蠅は又落ちてインクに漬かつた。彼はペンを取り上げて蠅をすくひ出し、吸取紙の上へ抛り出した。一寸の間蠅は黒くしみが出

來た中にちつこしてゐた。やがて蠅は前脚を動かし突立つて、びしょく／＼になつた小さな身體を起し、翅についたインクを落すさいふ大仕事に取りかゝつた。砥石が大鎌を研ぐ時のやうに上下、上下ミ脚で翅を撫でた。しばらくするミ爪先で立ち上るやうな様子で、最初片方の翅を擴げ、次いでもう一方のを擴げた。さう／＼成し遂げた。今度は腰を下して、小さな猫の様に顔を撫で始めた。小さな前脚を軽々嬉しさうに擦り合せてゐる様子がわかるではないか、危難は過ぎた。助かつた。生命が再び廻つて來た。

ところが、その時彼はある事を思ひついた。ペンをインク壺に突込み、吸取紙の上に頑丈な手首を置いて飛ばうこしてゐる蠅の翅の上にぼこり／＼一滴大きな雫を落した。蠅はさう思つたであらう。本當にちびさんはすつかりおぢけて、目がくらんでしまひ、この先さうなる事かこ恐れて動きもしなかつた。が少しするこ苦しさに身體を前に動かし、前脚を動かし突立つて、今度はゆつくりではあるが大仕事を又初めからやり出した。

實に勇敢なちびだなこ思つて、彼は蠅の勇氣に全く感嘆してしまつた。物事にぶつかるとはかうでなくつちやいけな。偉いものだ。悲觀するなよ。そんなこを問題にするのは唯……。

ところが、蠅がその大仕事を再び完成した時、彼は又ペンをインクをつけて綺麗になつたばかりの蠅の身體の上に堂々さもう一滴振り落した。さうなるだらう。痛ましい氣懸りな幾秒かは過ぎた。然し何さまあ、前脚は又動き出したのだ。彼は急にほつこした氣持になつた。彼は蠅の方に身體を寄せて優しく言つた。「ずるい奴……」さうして實際に息を吹きかけて蠅の乾燥工作を手傳つてやらうこいふ素晴らしい思付を抱くのだつた。やはり、今度の努力にはここかおきおぎした氣弱さが見えた。そして彼は今度はお陀佛にしてやらうこ思ひながらペンをインク壺に突込んだ。

その通りだつた。前後の一滴が濡れた吸取紙の上に落ちた時、蠅はだらしなくなつて動かなかつた。後脚は身體にく

つゝいて居り、前脚は見えなかつた。

「さあ、しつかりしろ」を彼は言つた。さうしてペンで動かして見たがもう駄目だつた。蠅はさうもしなかつたし、する風もなかつた。蠅は死んでしまつた。

彼はペイバ・ナイフの端に死骸をのせ、紙層籠に抛り込んだ。しかし可哀さうださういふ重苦しい氣持がこみあげて來て遂にはさうも恐ろしくなつて來た。彼は立ち上つてベルを押してメイシーを呼んだ。

『新しい吸取紙を持つて來てくれ』を彼はきびしく言ひつけた。ぐづくするんぢやないぞ。』

ブレイクは『蠅』をいふ題で次のやうに歌つてゐる――

ちつちやい夏の蠅よ、

お前が遊んでゐるころを

なにげなくこの手が

拂ひのけてしまつた。

自分もお前も同じ

蠅ではないのか、

それさもお前は俺と同じ

人ではないのか。

さういふのは、俺も踊り、

飲み、且つ歌ふ。

運命の手が誰彼の用捨なく

俺の羽根を拂ひのける日まで。

物を思ふさいふのが生きてをり、

力があり、呼吸をしてゐる證據で、

思はなくなれば

死ださいふのなら

それぢや、俺は

仕合せな一匹の蠅だ、

生きるにしても、

死ぬるにしても、こもかく。

原詩の持つ蠅そのものゝやうな輕快な調子は譯文には全然出てゐない。よろしく原詩について味讀していただきたい。
次に、石川啄木の歌——

ひさしぶりに

ふみ聲を出して笑ひてみぬ

蠅の兩手を揉むが可笑しさに

最後に一番短い言葉數で歌つたもの、我が一茶の句、

やれ打つな蠅が手をする足をする

十七文字の中に蠅が躍動してゐるばかりでなく作者の溫情が溢れてゐて、吾々は微笑を禁じ得ない。やはり『得たる者の作は、何ごもを言ひ出したるも、ひみふし興ありて面白き也』である。

「舌切雀」の展開 (二)

東京高等學校教授 小池藤五郎

「舌切雀」の話は、始は隣合つて住む婆さん二人の間の話で有つたが、時代が経過するにつれて、一家庭内の出来事に變化して來る。この變化に注意する時、前號(七月號)の「宇治拾遺物語」の「雀恩に報ゆる事」や寛延版「したきれ雀」の如く、二家庭間の出来事とする話を第一系統の説話とし、一家庭内の出来事とする話を第二系統の説話とする事が研究上に便利である。

第二系統に屬する話では、寶曆二年の序文がある「桃太郎物語」(讀本)^{ヨキホン}の筋の中に「舌切雀」が挿話となつてゐる事は注意すべきである。それは、

山陰祐太夫の一家庭内の事件で、祐太夫が救つて娘の花世に飼はせて置いた雀が、衣服に附ける糊を嘗めた爲に、花世の乳母が雀の舌を切つて逃がした。

と言ふ筋である。この説話の形は寛延版「したきれ雀」に近く、當時は大體に斯かる形をもつて語られてゐたものかも知れない。

第一第二兩系統の話の結尾を注意するに、婆が悪行を後悔して善人になつたミする話ミ、化物に苦しめられて死んだミする話ミ、それ〴〵二様に話されてゐる。

瑞鳥園齋守翁士(賀茂規清)の隨筆「雜廻宇計木」(文化頃の隨筆、帝國圖書館藏本)も第二系統の説話である。

昔々或處に年寄の夫婦が住んでゐた。爺は正直であるが婆は慳貪邪見であつた。山で鷹に追はれ、爺の懷に逃げ込んだ雀の子を家へ持つて来て、爺は可愛がつて育てた。或時爺の留守に、洗濯物に附ける糊を雀がすつかり嘗めたので、婆は雀の舌を切つて逃がした。爺は歸つて事情を聞いて悲しみ、「舌切雀のお宿は何方ぢや」を尋ね歩いた。するに或竹藪の中から子雀の親が出て来て爺に御禮を言ひ、立派な構への家に案内して酒肴でもてなし、雀踊を踊つて爺を喜ばせた。土産には重い葛籠と軽い葛籠を出した。爺には慾がないので軽い方を貰つて歸り、開けば中には澤山の寶物が入れてあつた。婆は事情を聞いて、爺が重い方の葛籠を貰はなかつた事を残念に思ひ、爺の止めるのも聞かずに、やつこの事で雀の宿を尋ねあて、御馳走になり、土産物を要求した。重いのも軽いのも二個の葛籠を雀が出したので、重い方を貰つて歸つた。中からは化物が出て来て婆を氣絶させたが、婆は爺の異見で改心し、家は富み、良い處から養子を貰ひ嫁をも取つて榮えた。

次には、家藏の年代不明の黒本『舌切すゞめ』を記さう。

昔々或處に爺と婆とが住んでゐた。爺は正直、婆は慳貪邪見で慾深である。或時羽根を痛めた一羽の子雀を、爺さんが拾つて歸り、可愛がつて育てた。爺の留守に婆の洗濯物に附ける糊を嘗めたので舌を切つて逃がした。爺は子雀を尋ねて廻るに、或竹藪から子雀が出て来て、爺を我家へ案内し、色々馳走し、雀踊をして喜ばせた。爺は二種の葛籠の内で軽い方を貰つて歸つた。婆は事情を聞いて雀の家へ尋ねて行き、重い葛籠を貰つて歸り、開けば色々な化物が出て来て婆を苦しめた。爺は「それみた事か」を婆の日頃の貪慾邪見を意見した。婆は心を改めて榮えた。

次に「童話長編」(黒澤翁滿の隨筆、安政四年刊)は童話を歌に詠じた物で珍らしい。

.....

かく老いぬれど

我はもや

重きにあへん

つゞらこの 軽きはららずで あへぐく 岩根さくみて
 なづみつゝ 家にかへりて かき數ふ ふたを取れゝば
 はふ 蟲の わざはひ出でゝ むかでさし あむかきつき
 谷ぐらは 眼マナコにゆまり へみさへに うなじまこひて
 おむなは つひに死にけり ねじけ人の 物のむくいは
 いちしばの いちじろきかも すむやけきかも

いさゝかの糊いへぎも庭すゞめくはずば舌もきられざらまし
 は其の終の部分である。

斯うした文献中で、最も優れた作品であり、注意すべき史料は、井上淑蔭ヨシカゲウシ大人が文政十年五月に武藏國川越城に近い石井の里の櫻亭ていていで書いた「竹の栖物語」である。この原稿は版下は吾人が所藏してゐる。この書は明治二十八年に「かくれ里」に書名を變更して岡野竹園が出版した。

昔オウナ媼オウナ翁オウナが井田舎に貧しく住んでゐた。翁は情深い人であつたが、子供が無いので、雀を籠で飼つてゐた。媼は性質が悪く、いつも翁が雀を大事に飼ふのを憎んでゐた。或日翁が山へ行つた留守に、媼が槽まつて置いた糊を雀が少し嘗めたので舌を切つてしまつた。雀は、

からき世はうしほの中にのがれ入りてまたきうむぎこなるべかりしを
 詠じ、美しい少女オウナなり、翁に手紙を認め、

いでゝいなば君より外にさふ人もあらし吹まく吳竹のおく

の歌を遺して何處にも知れず去つてしまつた。翁はひきく悲しみ、旅の支度をして尋ねあるき、不思議な里に尋ね入つた。其處には乙姫の様に美しい少女が上座にゐて、翁に盃を賜はり、舞姫の舞踊で興が一入加はつた頃、少女は翁のそばへ寄つて来て、「我は君の家にやしなはれつる雀になん。刀自君のあさましきみ心におぢて、みもきをのがれ出、今かくふるさきにかへり住はべり」言ひ、此處まで翁が尋ねて来てくれた恩を謝した。そして、自分の家に代々傳はつてゐる二個の皮籠があるが、その一個は軽く、他の一個は重い。いつれも御心にまかせて差上げよう言ふ。翁は軽い方を望んだので、主人の少女は、

いにしへのおもき恵にむくいてんおくる皮籠はよしかろくも
み詠じた。翁は答へて、

淺からぬこれの皮籠のそこばくにこむるなさけや君がたまもの

み詠んだ。家へ歸つて皮籠を開くミ、中には七種の寶、綾錦なごが多く入れてあつた。媼はこれを見るミ、直ぐに不思議の里に行つて少女に對面し、自ら皮籠を欲しいミ申出たところ、少女は既に軽い方の皮籠を翁に差上げたからきて、重い皮籠を贈つた。家に歸つて開けば、寶物を翁にも分配しなくてはならないので、良い品物を早く自分の物にしようとして、媼は途中で葛籠を開けて見るミ、中から大蛇の様に首の長い法師、一ツ目小僧其の他の化物が出て来て媼を苦しめた。媼は、

うるはしき心をちゞの寶ミぞかねて知りせばかゝらましやは

み詠じて死んだ。翁は末長く富み榮えた。すべて人は直き心を持つべきである。この話は自分が幼少の折に八十餘歳の翁から聞いた話である。

以上述べた外に六首の和歌が挿入されてゐる。文章は、

「むかしおうなおきな山かたつけるわたりに住けり云々」

の擬古文で、國學者の淑蔭大人の筆である故、「舌切雀」の文獻中第一の名文である。

轉じて第一系統の説話を一瞥しよう。既に述べた元祿版の「したきれ雀」があり、ついで曲亭馬琴の『燕石雜志』(隨筆、文化八年刊)が注意される。その筋は、

腹の黒い老女オウナが鹽の中に入れて置いた糊グを、其の隣家の女房が飼つてゐた雀が嘗めたので、立腹して舌を切つて逃がした。雀を飼つてゐた女房は、夫と共に雀の住家を尋ねて行き、大變に御馳走になり、雀踊を見物した。土産の葛籠は老人の事であるから、特に軽い方を貰つて歸り、開いて見るに、中には金・銀・珠玉・卷絹などが澤山入れてあり、いくら取つても盡きず、家はこれが爲に富み榮えた。雀の舌を切つた老婆はこれを羨み、隣の女房に道順を良く聞いた後、雀の家を訪れた。雀は又重いのに軽いのに二種の葛籠を出したので、重い方には寶物が澤山入れてあると思ひ、やつこの事で重い方を背負つて家に戻つた。蓋を開くに、中から恐ろしい鬼共が多く現れて老女オウナを喰ひ殺した。

の如くである。更に年代不明の「舌切すゞめ」(家藏)には、

昔々或爺さんが雀を可愛がつて飼つて置いたところ、爺さんの留守の間に、隣家の慳食婆の糊を雀が嘗めたので、婆は怒り、舌を切つて放してしまつた。爺は「舌切雀お宿はきこだ」を尋ねて歩き、大變に御馳走になつた上、寶物の入れてある葛籠を貰つて歸り、非常に喜んだ。隣の婆はこれを見て羨み、雀のありかを尋ねて重い葛籠を貰つて歸り、開いて見るに中から化物が出て來た。化物は婆を驚かしたので、ひきく恐れて悪い心を改めた。

の様な話が記されてゐる。

明治になつて巖谷小波山人の「舌切雀」(日本昔噺、第七編)が現れ、明治の「舌切雀」を代表する。これには初版の單行本「改訂 日本昔噺」(明治四十一年發行)の改訂合本ミ、「お伽夜話」(大正九年發行)中の話ミがある。三者それらに差違があるが小波山人ミしては、明治四十一年發行の改訂版をもつて後世に貽さうとするものらしい。この「舌切雀」は第二系統の說話に屬し、結尾は婆の改心で終つてゐる。さりながら、婆が葛籠を貰つて歸る際に、早く中味を見たくてたまらず、途中で蓋を開く事は注意すべき特色である。此の點のみならず、一體にこの話は「竹の栖物語」に據る處が多い様である。そして重い葛籠からは、三つ目小僧・蝦蟇の入道・蝮・毛蟲・螳螂等が出て來る。これが「お伽夜話」になるミ、三つ目小僧・一つ目・蝦蟇入道・青大將・蜘蛛のお化等に變じてゐるが、いづれも蟲類ミ化物ミの混合である。

外國語にも早くから翻譯されてゐる。デビッドタムソン譯の *Shita Kiri Suzume* (内題は *The Taung Cut Sparrow*) である。明治十八年發行)は第二系統の話の翻譯であつて、繪も文章も中々上出來の物である。終の方は、

Then when she took off the lid and looked in, a whole troop of frightful devils came bouncing out from the inside and at once tore the old woman to pieces.

の様に、惡魔共デビルイェスが葛籠から現れて來て、婆さんをすたくに引き裂いた事になつてゐる。林弘之譯の *The Old Story of Stakiri Suzume* (明治四十一年再版)は第二系統の話の翻譯であつて、挿繪なきは前者より劣り、終の方は爺の忠告によつて貪ウンスンツワイヤス慾な心を變じて良い人になつたミしてある。其の外にも明治三十五年頃に東京通信學院から發行した「英文お伽噺」の第六編が「舌切雀」である。これ等の翻譯書は、一方には日本の昔話を外國に傳へる目的を持つてゐるミ共に、他方には外國語を學ぶ初歩の人が、外國の話を書いた物で學ぶよりは、善く馴れてゐる日本昔噺に據つて學べば、記憶もよく、意味も理解し易いミ言ふ當時の教育的の主張から來たものミ考へられる。國民童話が、この様な目的に利用された事は、

寧ろ國民童話の根本的の價値の再認識も吾人には考へられて誠に面白く感じられる。

以上で「舌切雀」の文獻中の注意すべき物に大體觸れたつもりである。この外には、江戸時代の黄表紙中に取入れられた「舌切雀」がある。それには吾人の言ふ「茶の脚色」・「黄表的乖離」にて滑稽的の脚色を加へられてゐる。其の代表的作品に就いては次號に述べるつもりである。其の他にも小さな史料はあるが、本論文では割愛する。

兎に角「舌切雀」の説話は、大きく、

一 家庭の關係

二 結 末

等に着眼すれば差異があるが、其の他の部分に於て大した變化は認められない。勿論それは、「舌切雀」を脚色した文藝作品を除外しての事である。

洵に國民童話に於て其の展開の跡を見來る時は、童話それ自身に於て成長があり、

たのもしやてんつるてんの初給

は、決して童話の聞き手のみの事ではない。

(以下次號)

歐米幼兒教育視察記 (一)

フレーベル館副社長
法學士、文學士
高市慶雄

(本稿は本年七月二十六日、日本幼稚園協會講習會課外講演として、東京女高師講堂に於てなされた講演の概要であります)

私は文部省の依頼によりまして、昨夏英國オックスフォードに開催せられた第六回世界教育會議に出席、旁々滿一ヶ年に亙り歐米の幼兒教育情況を視察致し、最近歸朝した者で御座います。往路は同じく世界教育會議へ出席の帝大の大島教授、文部省の佐野督學官と同道、シベリヤ經由で参りました。途中滿洲の新京、ハルビン、蘇府モスコ、波府ワルソー、伯林、オランダのアムステルダム、倫敦に立寄り、各數泊しましたが、それらの地の教育關係者、在外公官、同窓諸君等の非常なる歡迎お世話を受けました事は感謝の至りであります。目的地オックスフォードに着いたのは開會の三日前、即ち八月七日で、直ちに宿舍こして割當てられたハートフォード・カレッジに入つたのであります。祖國を出で、三旬、其間白樺の林と漠々たるツンドラの大草原の他殆んど眼を遮るものもないシベリヤの大平原を、八日七夜停止する所なく、ひたむきに西へ西へ走り續けた其の印象は、今度の世界旅行中何ものにも較ぶものなき深いものであります。また僅かな滞在期間中乍ら、蘇府モスコで見聞したロシヤの政治、社會、並びに教育の種々相は驚異に値するものが多かつたのであります。

世界教育會議に就いて

この世界教育會議、詳しく言へば列國教育會聯盟世界大會 World Conference of the World Federation of Education



(左)者筆と(右)表代席主島大てに驛ーリュチンマ境國滿露夏昨

Associations は、毎二年毎に世界の何れかの地點に開催せらるゝ各國教育會の聯合會で、討議の範圍は教育の一切の部門を包含する事になつて居ります。今回のオックスフォードの大會では、上は大學教育より幼兒教育に至る一切の部門、更に放送教育、映畫教育、成人教育、社會教育等十九の部門に分たれ、我々日本代表十名は、夫々手分けして會議に列席、私は其の幼兒教育部會に我國を代表して出席したのであります。

さてこのオックスフォードは、ロンドンより北の方、汽車で三時間位で達する大學町でありまして、伊太利のサレルノ、チェッコスロヴァキヤのブラーグ等と共に、歐洲最古の大學の所在地で、其の建物などは何れも古色蒼然、頗る落付いた感じのする町であります。またクラシックミ申しますか、アカデミックミ申しますか、私は獨逸のミュンスター市を除いては、かくの如き好まじき都市を他に見ないのであります。此所の大學教育は、我國の之れをば全然趣を異にし、寄宿舎を主體とし、レクチュアは從とし、所謂寺小屋式の個人々格教育を施して居ります。この寄宿舎こそ同時に教室であり、生活の場所であり、また人格の修養鍛鍊の場所でもあるのであります。私共は、暑中休暇で學生の歸つたすぐ跡に宿つたので、机の抽斗には學生のインキや



世界教育會議代表團之一部昨夏スコッフォード市長
招待園遊會 右端筆者、左端野野監督

ペン、書棚には學生の書物、洋服箆笥には學生の洋服が其の儘入つて居りました。學生の寢臺に眠り、學生の食堂で食事をして、會期十日間を學生に立歸つた様な心持になつて、カレッジ・ライフを楽しみました。寄宿舎に申すに何か貧弱粗末な様にお感じかも知れませんが、事實は其の反對で、私共が是迄に宿りました如何なるホテルの部屋よりも堂々たるものであります。學生一人に三室宛あてがはれ、寢室、居間、應接室等完備してゐます。聞く所によるに其の舍費、驚く勿れ月額八十磅、即ち邦貨凡そ壹千五百圓に相當する由であります。即ちこの大學は、英國の貴族の子弟を教育する所で、法文學部を主體とし、史學の研究は就中力を入れて居ります。將來大英帝國の運命を雙肩に擔ふが如き大政治家を養成するのが主旨である相で、私も大政治家の卵になつた様な心持で、十日間の夢を過しました(哄笑)。序乍ら、英國に於きましては、幼稚園小學校時代から、貴族と庶民との教育機關は

全然別個で、イートン、ハロー等の學校の卒業生が此のオックスフォードの大學に入學するのであります。貴族富豪の子弟といへば輕兆浮薄又は凡庸であるかといふも、英國に關する限り決してさうでなく、オックスフォードの大學生活の如

き、實に嚴格勤勉、且つ崇高なる學風が支配して居ります。總じて英國の貴族は、其の子供丈は實によく教育する由でありまして、英國の貴族が少數であり乍ら、かくも永く其の勢力を維持し得る所以は、子弟の教育に熱心であるといふ一事に歸すのではないかを感じたのであります。

扱て今回の大會は、如上世界教育會議の他に、國際教員協會 International Federation of Teachers' Associations 及び國際中等教員協會 International Federation of Associations of Secondary Teachers 並びに三つの大會を同時に開催した關係上、オックスフォードに會するもの約五千人、それは非常なる盛會であると同時にまた頗る混雜を呈したのであります。従つて宿泊の場所も容易に得られぬといふ有様でしたが、私共日本代表十名は、遠來の客を遇するといふ意味に於てゞありますか、特に壯麗な宿所を割宛てゝ呉れました。私共の宿つたハートフォード・カレッジの隣屋は有名なるモードレン・カレッジで、畏多くも先年秩父の宮殿下が二ヶ年間オックスフォードに御遊學遊ばされました時の御宿舎で、私共も親しく殿下の御居室を拜觀して感慨を深くした次第であります。

幼兒教育部會の盛況

オックスフォード第六回世界教育會議の幼兒教育部會 Pre-school Section は、オックスフォードのカーフアックス・アッセンブリー・ルームで七日間開催せられました。此の部會に會する者、約二百五十人、アメリカのミス・シン、英國のミス・オーウン 兩女史が夫々議長、副議長となり、各國代表のリポート演説に始つたのであります。會議の用語は英語に一定されました。大島主席代表より、次回世界教育會議の東京招致の關係もあるから、成るべく日本の事をよく紹介して貰ひ度いといふ特別の御注文もあつたので、私は、「日本の幼兒教育の發達の現状」The Present State of the Development of the Child's Education in Japan といふ題目で、我國の幼兒教育界の組織、人、設備、理想等に就いて、約四十分間



第六回世界教育界會議日本代表團全體昨日
日本會樂部に紀念撮影

講演をなし、質問に應答致しました。幸にして列國リポート中最大なる注意を喚起し、質問百出といふ有様で、乍不及誤解され勝ちな我國の幼兒教育の實際と眞價とを多少なりとも歐米人に紹介するを得た事をひそかに喜んで居る次第であります。

各國代表の演説が了つてから、特別講演に移り、伊太利モンテッソリー女史の「學令前兒童に就いて」[The Pre-school Child]及びロンドン大學スーザン・アイザック教授の「初五歳迄の兒童心理學に於ける最近の發達」[Recent Advances in the First Five Years]といふ題目の御講話があり、何れも頗る有益且つ示唆に富むお話し伺つたのであります。中にもモンテッソリー女史に親しく面接し、其の御意見を仰ぐを得ました事は私に取り洵に幸ひであつたのであります。何となれば、後に申述べます通り、後日私が伊太利ローマ市に同女史を訪問致しました時には、ある事情の爲めに女史は既にローマに居住せられず、半永久的に目下動亂の渦中に在るスペインのバルセローナへ移住された後であつたので、此

の機會を逸しては、遂に女史の聲咳に接し、其の思想を探る折を得られなかつたのであります。次に、「變化しつつある世界の兒童に就いて」[Children in a Changing World]といふ題目で盛なる討論會が開かれ、了

つてから、委員會を開き、次の如き決議文を可決し、之を大會の當局に提示したのであります。「幼児期兒童の教育の絶大廣汎なる重要性に鑑み、學齡前兒童の教育は、各國教育當局の義務にして責任なる事を承認す」Having regard to the

great and far-reaching importance of education in the early days of childhood, the education of all young children of pre-school and kindergarten age should be the duty and responsibility of the Education Authority in every country.

以上を以て簡單ながら、幼児教育部會のお話を了りますが、會期七日間を通じて、主催地英國當局の吾々に對する歡待振は、之亦至れり盡せりでありまして、英國皇帝(昨秋崩御せられた先帝ジョージ五世陛下)は、私共を離宮ハンプトン・コートに御招待あらせられ、またオックスフォード市長、同大學々長、其他有力者のレセプション、ガーデン・パーティー等、殆んど寧日なしといふ有様、また最後の日には、オックスフォードから數十哩隔つたストラットフォードに案内せられました。こゝは英國民の誇りであり、また世界的の文豪たるシェクスピアの遺跡のある所で、圖らずも作品をのみ通じて觀て居つた巨人の足跡をこ



・ントブンハ待招帝皇國英夏昨者表代國各議會育教界世
會遊園るけにトーコ

むらふを得た事は望外の幸でありました。

世界教育會議の東京招致

此の大會を東京に招致するこいふ計畫は相當以前からあつたのですが、滿洲事變其他に妨げられて實現を見なかつたのであります。次回、即ち一九三七年の會議地を東京にするこいふ事は、朝野を擧げて希望する所で、先づ當時の駐英松平大使より正式に文書を以て申込をなした上、我々代表に於ても夫々手分けをして列國委員を歴訪、猛運動を致しました結果、コッペンハーゲン以下四ヶ所程あつた、他の候補地を一蹴して、遂に東京招致に確定を見たのであります。これ一に皆々様教育者の絶大なる御後援の賜であるミ深く感謝する次第であります。目下大島教授を事務總長として次期（來年夏）の會議の爲めに諸般の準備が進められて居る由に承ります。次回オリンピック大會も日本開催に決りました事御存知の如くで、かくの如き國際的の大會合が續々ミして我國に行はるゝに至つた事は、未だ充分には理解されてない日本を正しく歐米人に紹介する意味に於ても洵に喜ばしい事ミ存じます。

旅を考へる

—九州旅行から—

菅原 教造

旅の共同社會

旅の動きと心の動きと、それは一つのものです。九州の旅は、一つ心の旅でした。眼に見える形から言へば、四十三の個體人でせうけれども、實は私達は、旅と言ふ見聞の世界に生きる一如の「體驗の共同社會」を作つてゐたのです。體驗の共同社會だけではありません、同時に又、分け隔てのない「家族の共同社會」を作つてゐたのです。私達の何時の何處の生活を考へて見ても、仲の良い親子の間柄でした。私は、「おーい、子供達！」と、何遍呼びかけた事でせう。その子供達は、「おやぢ様」「おふくろ様」と、口に出しては呼びませんでしたが、さう思つてゐるに違ひありません。互の氣持で、一つ心で、よくそれがわかるのです。

私達は、福岡・長崎・鹿児島・宮崎・岡山で、櫻蔭會と言ふ「同學の共同社會」の友情と好意に包まれて、今更のやうに、六十年の傳統を持つ七千人の生活團體の偉大さに驚嘆しました。これも、旅でなければ得られない強い感激です。各地で、私達は何もして差上げないで、たゞ過分のものを受けてばかりゐると言ふ氣持でいっぱいでした。これは、一方、母校が櫻蔭會支部員の方々を通して私達に賤いで下さる恩恵に對する感謝の氣持であり、そして他方、この感謝を、私達は直接に切實に、支部員の方々に捧げてゐるのです。

あゝもしたい、かうもしたいとお思ひになる事が多すぎて、何を省くかについて苦心してゐられる事が、よく私達にわかりました。又私達は、雨がはれるやうにミ、心から祈つて下さるお姿をも見ました。又長い旅に勞れてゐはしないかと言ふ同情から、なさりたい事を控え目にして、心の中でいろいろ思ひやりをして下さる……このお現はしに出来ない御好意を、私達はしみじみありがたき思ひました。このやうに互に往復し循環してゐる氣持のまごまりが、旅に於て體驗される同學の共同社會の生活感ミ言ふものでせう。

このやうに、私達は今度の九州旅行で、移り變つて行く旅のいろいろの生活場面に沿うて、一つ、心を味つて來たのです。別の言葉で言ひ換へれば、その場その時の旅の體驗的、共同社會に即して、それよりもつミ内的な、旅の家族的、共同社會や、旅の同學的、共同社會の生活をして來たのです。

若い人達はよく永遠の友情ミ言ふ事を考へるでせう。それは、理念の世界に住む、言はず真空の中に住む純粹思惟です。この純粹思惟としての永遠の友情を、真空から空氣の中へ導き、生活の中に宿らせようとする所に、やはり私達人間のブレ・ダンの氣持が動くのでせう。

今、思惟ミ人ミの關係を考へて見ませう。思惟の方を不動のものミ考へれば、人は動いて思惟に觸れたり遠ざかつたりします。人の方を動かさずにおけば、思惟は動いて人に即いたり離れたります。人も思惟も共に動くものミすれば、その兩方の通りすがりに起つた重大なモーメント、千載一遇ミ言ふやうな觸れ方が、兩方の間に起るでせう。

人ミ思惟ミが共に動くやうに、旅では旅人も動き旅の對象も變ります。その互の通りすがりの間に、一生に一度ミ言ふやうな、たごへば、結晶した寶玉のやうな觸れ合ひ方があるでせう。それが永遠の友情の閃きの一つの例です。

觀光記錄

今度の九州旅行では、耶馬溪ヤマノタニを省きましたが、それでも、博多灣の風光、長崎の唐八景カラハチケイ、雲仙・霧島・瀬戸内海の國立公園の景觀、鹿兒島の史跡・景勝、青島の熱國の潮シボ植物、別府の溫泉郷ニハツノ、かうして思ひ出して見るミ、浮み上つて来る一々の風景場面が多過ぎて、それが入り亂れたり重なり合つたり、流れたり消えたりするものですから、記録は容易な事ではありません。

觀光の記録にも、代用記録ダイヨウキョクと補充記録ホクジョウキョクがあります。代用記録は物語りのやうなものであり、補充記録はトーカーの言葉の部分のやうなものです。旅人が旅の印象を話し又は書き、それを、その體驗をしなかつた人が聞き又は讀む場合が代用記録です。旅人が、自分の旅の體驗そのものゝ代りに、體驗の記録を人に示すシ考へてもよし、讀者又は聞き手が、自分で體驗をする代りに、旅人の記録に接するシ考へてもいゝでせう。次に、觀光案内人ガイドが、名勝や舊跡を旅人に解説して聽かせるのが、補充記録ホクジョウキョクです。案内人も旅人も共同の體驗をしてゐるのですが、「この森は……、あの海は……」、と言ふ案内人の解説が、旅人の直接の印象を補充して、それを深めるわけです。

バス・ガールの説明は、この補充記録です。これは、出来栄デキザマはさもなくともシして、筋から言へば、現場報告の觀光記録の文學ガクとも見る事が出来、又ラヂオ文化になじみのある現代女性ガクの話し方の一つの例タ見る事も出来ますから、次に各地で集めたレコードのテキストを再録します。文學ガクとしての又は話し方ガクとしての價値の問題は措いて、私達旅の體驗者は、少くとも、これによつて思ひ出を鮮かにする事が出来るでせう。前に話し方の様式を述べたやうに、バス・ガールの觀光説明は、七五調の文語ガクで話す加留多讀み調ガク、口語ガクで話す講演調ガクに分れて居ります。つまり舊派ガクと新派ガクです。次に再録した觀光記録は、テキストの句點ガクを改訂して、話す人の息の継ぎ目の所に打つてあります。

A 加留多讀み調

④『大阿蘇登山案内』 大河蘇登山バス

バス・ガール 東みさを 玉木末香

(上) おらが^{おほ}大阿蘇、男の胸よ、

さんさくくく、大地ゆるがす地の底までも、

やんれ、^{おほ}大阿蘇、男の胸よ。

お待ち遠さま、これから阿蘇登山でございます、御案内いたします。

こゝは世界に第一さ、呼ばるゝ火山大阿蘇の、火口丘への登山口、海拔一千七百餘尺、坊中驛に申します。

こゝの裾野の森林を、くぐりつゝ約一哩、ドライブすればこのバスは、眼界廣き山腹の、草野の原に登ります。

斜左の空高く、鋸の齒に似た根子岳は、五岳の一つに數へられ、高さ四千七百餘尺、右は高岳の鷲ヶ峰、形いづれも嚴

めしく、奇しき眺めでございます。

斜右手の目平らに、頂きの見ゆるあの山は、名も米塚に呼びなして、寄生火山に數へられ、下り道にて見下ろせば、山の形の整ひて、いさ美しく愛らしく、その傍らに牛馬の、つぎひ遊べる有様は、平和な眺めでございます。

向うかなたに聳ゆるは、今日御登山の目的地、阿蘇の五岳の一つなる、その中岳の噴火口、火口のまわり約一里、中には火口が又七つ、外輪山に火口原、共にそれぐ備はりて、この名山大阿蘇の、複成火山と言ふこゝが、いさ明らかに知られます。

次は山上の終點でございます。これから噴火口へは約十町でございます。御ゆつくり御覽遊ばしませ。

(下)お勞れさま、これから下山致します。

こゝは海拔三千ミ、八百餘尺大阿蘇の、西一帯を見渡すに、眺望第一の所にて、昭和六年秋深き、十一月に畏くも、今上陛下の御觀賞、あらせ給ひし御野立所、その御跡でございます。

遙かに遠く西の方、霞の中に聳ゆるは、雲仙ヶ岳その左、雲か山かま續けるは、殉教戦に知られたる、風光絶佳繪の如き、げに水天鬚髯の、天草島でございます。

北外輪きたぐわいりんの右の方、久住山の東遙かなる、名だゝる別府温泉も、この阿蘇山の火の脈に、續いてゐる言ふならば、蘆花先生の殘されし、

肥後三豊後は、兄弟仲よ、

脈が通へば、血も通ふ。

阿蘇の煙に、別府のいで湯、

燃ゆる生命の、火は一つ。

唄の心はいわれある、地理關係を面白く、説かれしものでございます。

この偉大なる阿蘇は又、國立公園の一つにて、我が九州を横切れる、國際遊覽幹線に、中樞たるの位置を占め、西に雲仙東に別府、中に火を吐く阿蘇の山、九州景勝地帯中、王者じやの觀あり言はれます。

今火口原の坊中に、おりて登山はすみました、つきぬ名殘を惜みつゝ、謹んで皆様の、御健康を祝します。

終點坊中驛でんてんぼくちやういんでございます。お勞れさまでございました。

②『別府温泉地獄巡り』 龜の井遊覽バス

バス・ガール 森山富美子 唄 小濱登代子

(一)お待遠さまこれから龜の井バスの地獄巡りでございます。

「こゝは名高い流れ川、情もあつゝい湯の町の、メインストリートの大通り、旅館商店軒ならび、夜は不夜城でございます。

四季の氣候は快き、心つくしの九州に、山ミ海ミの眺めよく、いで湯溢るゝ別府市は、戸數一萬人口の、五萬餘人を數へられ、東西より南より、北より來る内外の、客はひこせ百餘萬、外つ國までも知られたる、温泉都市でございます。

龜の井前でございます。小唄をうたひます。

地獄巡りは、龜の井バスよ

乗ればにつこり、ささ乙女の車掌、

名所解説、節面白う、

唄ふ車内の、さささいさいなごやかさ。

正面高く仰ぎ見る、乙原山の高臺に、ケーブルカーを走らせば、中國四國の涯てまでも、遙か一ミ目に見られ又、山の上には乃木神社、高野寺なごがございませう。

次の各所は鶴見園、園の中には温泉も、歌劇もあれば九州の、寶塚も申します。

次は觀海寺、又その次は八幡の、地獄地帯でございます。

八幡でございませ、御見物遊ばしませ。

(二) 發車致します。

この一帯は古戰場、慶長五年の秋九月、南軍大友義統は、黒田如水の北軍を、五日に互りて激戦し、武運つたなく南軍の、主將吉弘統幸が「あすはたが、草の屍や照らすらん、石垣原のけふの月影」を、辭世の歌を詠み捨て、あたら陣頭の露を消え、忠烈の名を後の世に、残せし所でございませ。

この天恵豊かなる、温泉地帯の中央に、左の空を見あげれば、火を吐きやめし鶴見嶽、右の彼方を見おろせば、霞たなびく豊後灘、この一帯を彩れる、いで湯の原さ山さ海、百景萬勝たてよこに、錦織りなす景觀は、神の繪筆に描かれし、生きた名畫を申します。

小唄をうたひませ。

鶴見八幡、石垣原を、

行く手樂しき、ささ遊覽コース、

動く野山の、景色に見これ、

バスの小揺れの、ここささいさい乗り心地。

次の名所は海地獄、緑滴る絶壁を、背景させる谷間に、深く湛えし熱湯は、色紺碧の海に似て、そのもの凄さ美しさ、嘗て今上陛下には、まだ東宮に在す時、そこに台臨遊ばせし、別府名所でございませ。

海地獄でございませ、御見物遊ばしませ。

(三) 發車致します。遙か向うに美しく、ちようぎ湖水のそれに似て、鏡あざむくあの海は、新渡戸博士もナボリなき、

遠く及ばぬ絶景さ、感嘆されし別府灣、その全貌でございます。

すぐこの下の湯の里は、昔一廻上人が、熱の湯蒸し湯を築き又、時宗の一派を開かれし、名高い鐵輪溫泉場、今十萬の浴客を、迎へ送るご申します。

小唄をうたひます。

お湯の鐵輪、朝日に映えて、

踊る湯煙、ささ渦巻くいで湯、

海の見晴らし、見あかぬ山に、

色はコバルト、ごこさいさい海地獄。

このトンネルを過ぎ行けば、別府八景柴石の、いご閑靜な溫泉場、昔朱雀天皇の、太子親仁親王が、そこに御湯治遊ばせし、尊き遺跡ご申します。

次の地獄の血の池は、赤く湛えし大地獄、血の湧くやうな熱泥の、そのもの凄い紅は、海の地獄の紺碧さ、思ひ合せて不可思議な、コントラストでございます。

行く手に見ゆる市街地は、人口五千戸數千、海に面して山を負ひ、景色もいご麗しく、溫泉地帯の北端に、いで湯豊かな龜川の、溫泉場でございます。

龜川でございます。

(四)これから別府へ直行いたします。

これより南へ南へさ、見ゆる景色は走馬燈、右に山々左海、坦々たる道五キロ餘の、速見が浦をなつかしい、別府へ下

ライブ致します。

左の灣の右の方、遙に續く山脈の、東の涯は佐賀の關、關の東の沖遠く、霞のヴェール被れるは、乙姫ならぬ愛媛縣、浦島太郎の龍宮を、惚ぶ眺めを申します。

小唄をうたひます。

燃ゆる情の、胸の火よりも、

赤い血の池、ささ煮え立つ釜戸、

巡りくつて、速見が浦に、

關の煙を、さこさいさい見て歸る。

斜右手は大佛像、あの煙突の右の方、林の中にまるく、圓い頭を現はすは、奈良の大佛より高く、高さは二十四メートル、その前方の煙突を、大佛像に供へたる、さても大きな線香こ、見るは如何でございます。

左濱邊の浴場は、海の底からいで湯湧き、砂にうもりて浴みする、誠に天下第一品の、天然砂湯でございます。

次は海岸流れ川、つきぬ名残を惜まれて、地獄巡りはすみました、龜の井バスは謹んで、皆様の御健康を祝します。終點でございます、お勞れさまお忘れ物のないやうに。

B 講演調

(一)皆様、お待たせ致しました。今から雲仙登山でございます。出發致します。

皆様、只今登つて居ります坂道が、雲仙の西登山口でございます。これより山腹を縫うて雲仙温泉まで、三里二十二丁、自動車で約四十分の行程となつて居ります。この道路は、今から四十年前以前、雲仙に登山する外國人のために開かれた、國際觀光道路でございます。他の温泉場も、風物も、情緒もすっかり異なる、雲仙國立公園のアウトラインを、簡單に御説明申し上げます。暫らくの間皆様は、右側の、美しい眺望を心ゆくまで味ひながらお聞き下さいませ。

ちようご今から、百四十年前、寛政四年の正月十八日、普賢岳から一筋の火焰が揚り、日夜鳴動し二月下旬には、島原の背面にある眉山から、普賢岳の十倍の高さもあらうかと思はれる火焰が天に沖し、三月一日には全山鳴動して、島原半島の大地震となり、それから一月あまり、日夜震動を續け、四月一日、萬雷の一時に爆裂したやうな大音響と共に、眉山は二つに分れ、山汐を冲天高く噴き出し、前面の海上に落下し、忽ち數十の島を造り、對岸の、天草沿岸には大海嘯を起して、天草領、島原領、肥後領を合せ、六萬餘人の死者を出し、家屋、土地、其他財寶の被害殆んど測り知れず、當時の慘狀、名狀すべからざるものでございました。今日人々が嘆賞する、島原九十九島の景勝は、實にこの當時のもの凄い記念物でございます。

こうした歴史を持つ雲仙岳は、日本も、支那との間に貿易が開かれるや、長崎に入港する唐人船の目標となり、日本山を唱へられ、先づ國際的な存在を示すに至りました。

お慰みに、小唄を一つうたはして頂きます。

普賢妙見、國見を越えて、

優し絹笠、來れば手招く、

紅つゝじ。(村田吉邦詩、近藤十九二曲、雲仙新小唄)

(二)皆様、雲仙岳が他の山に優つてゐる所は、高山としてあらゆる要素を備へ、大なる展望も、變化に富んだ山岳美を有する點に、その價値がございます。

山頂に平地あり、池あり、瀧あり、内外人の宿泊に適する多數のホテル、旅館を備へ、ゴルフ場、娛樂場の設備を持つ、雲仙温泉がございます。春は雲仙の裾野、約六萬坪のゴルフ場から山頂にかけて、若々しい縁が山容を彩り、海拔四千四百八十七尺の普賢岳は、西九州一帯の連山、天草の群島を指呼の間に眺め、有明海あかりの海波を見下ろして旅の疲れを忘れさせます。馬に乗つて登山するのも面白く、昔風の駕籠に揺られて山頂を極めるのも、旅の一興だも存じます。

初夏はこの山特有の山躑躅が、裾野から峠に、途中到る所に紅の美しいお花畑を見せ、小鳥は縦横に空を飛び交うて、晴れた空に、囀つてゐます。山躑躅は、仁田峠、野岳ののげあたりに一番多く、五月初旬から、六月中旬までが見頃で、全山燃ゆるばかりでございます。

夏は避暑に適し、空氣は清涼、樹木は鬱々として繁茂し、實に黃鹿を避けた樂天地として、二十餘ヶ國の異國人ひがこが來遊されます。

秋は紅葉の名所として日本一と稱せられ、全山を包む紅葉の壯觀は、雄大なる眺望に拍車をかけ、平山蘆江先生のお作りになつた唄にも、「雲仙よかばい地獄の中に、普賢紅葉の錦籠」唄はれて居ります。紅葉見物には、十月の下旬がよろしうございます。

冬は他國に類のない霧氷見物に、遠く諸外國からまで見られます。霧氷を申しますのは、落葉した全山の樹木が、寒

氣のために氷結してゐる所に、さん／＼と降り注ぐ太陽に、この世ながらの水晶宮を現出することで、二月三月が見頃だとされて居ります。

又雲仙公園は、非常に高山植物の種類に富む處で、天然記念物として政府の指定をうけた處で、五ヶ所あまりもございませう。かやうに、四季さり／＼の異なる景色を有する高山は、世界中にその比を見ずには、この地に遊ばれた内外人が、異口同音に申されて居ります。

(三)皆様、雲仙岳は、普賢、妙見、國見野岳のだけなどの諸峰からなり、普賢は雲仙岳を代表する名山で、高さ四千四百八十七尺ございませう。そして温泉地帯には、學術上貴重な泥火山を始め、瓦斯を噴き出す噴氣孔あり、無限、叫喚けうかん、お糸浦七地獄など、三十餘ヶ所の多數に及び、日夜轟々地響をして濛々白煙をあげ、噂に聞く焦熱地獄を目のあたりに見るとやうで、肌寒さを覺えます。

皆様、切支丹が邪宗として、厳しい禁制を受けてゐた、徳川三代將軍家光の頃、役人はいろ／＼の手段を用ゐて、切支丹を佛教に轉向させようと思ひましたが、しかし鐵の如き信仰心を有し、十字架の慈愛を絶対に信じてゐる彼等は、如何なる刑罰を加へられやうとも、その意思を打げませんでしたので、役人達は數多くの切支丹宗徒の男女を雲仙地獄に送り、彼等を悉く荒縄を以て手足を縛り、白烟あげて沸騰してゐる傍に押し倒し、熱湯を浴せて苦めました。が、轉宗する者は數少く、我慢強い信者は、肉も骨も焼け爛れ、息も絶え絶えになり、役人から地獄の谷底に投げ込まれ、無限の恨を雲仙に残したと言ひ傳へられます。

皆様、右手の白い杭は、雲仙國立公園西入口の境界杭でございませう。皆様の左手、山の中腹に、鏡の如く光つて見えますのは、諏訪の池に申しまして、島原半島最大の湖でございませう。湖面はあたかも鏡の如く靜かに、年中深く水を湛え、

鯉や鮒を養殖して居ります。向うの方に帯の如く海上に浮んでゐます島は、天草の富岡でございます。その海は天草灘
 でございます。

皆様、正面左手に出張つて居りますのは、籠立場展望所でございます。昔、舊藩主がお通りになる折に、必ず駕籠をこ
 めて御休憩遊ばされたので、この名稱が生れたと言はれて居ります。

御覽の通り、後ろには峨々たる峻嶮を負ひ、前には千々石海の青砂を眺め、また不知火で知られた有明海の雄大さを眺
 め得る、誠に小濱雲仙間の道中、第一の景勝地でございます。

(四) 皆様、向うに見えますあの高い山は高岩山さん申します。南は島原、天草諸島を見下ろす、極めて雄大な景勝を持つ、
 明るく朗らかな感じのする山でございます。昔から切支丹教徒が密かに、祈りの場所としてゐたと言はれて居ります。あ
 の山の左下が、有名な寶原ほうはらの躑躅の名所であります。

皆様、左に見えます廣い原は、もこ瀬戸石原いしはら申してゐましたが、元祿の頃から明治初年まで、躑躅の枝取り禁止、そ
 の他の制札場さつじやうになりましたので、札の原さつ呼ぶやうになりました。

今から三百年ほご前、雲仙に満明寺みんみやうがある頃までは、雲仙一千坊せんいちせんぼく言はれ、北側の別所べつじよ申す所に七百坊の僧坊があり、
 こゝに三百坊さんひゃくぼくございました。當時は、女人禁制、高野山たかのやま以上の權威けんいを謳はれてゐましたが、寛永十五年島原の
 亂に僧坊は全滅し、それからすつち放任されてゐましたが、只今では百五十町歩ぼくあまりの面積に、アメリカ式天然放牧を
 行ひ、數百頭の綿羊を飼育してございます。

すぐ右手の別れ道は、小地獄に向つて居ります。小地獄は、享保十六年の創始にかゝる、雲仙でも一番古い温泉場おんせんじやうでござ
 います。

いよく雲仙温泉場に近づいて参りました。今暫くで、皆様にお別れ致さなければならぬかと思ひます。甚だお名残り惜しく存じます。お別れのしるしに、小唄を一つ唄はして頂きます。

月の有明、思ひに曇りや、

沖は不知火、九十九島に、

火が燃える。(村田吉邦詩、近藤十九二曲、雲仙新小唄)

皆様、こゝより天下の名勝地雲仙温泉場でございます。雲仙國立公園中心地でございます。御滞在時間に御餘裕のあらせられます方は、地獄巡りの外、さうぞ天下の名勝雲仙岳に御登山なさいますやうお願いして、今日の御案内を終らせて頂きます。お疲れさまでございました。ありがとうございました。

④『鹿兒島市遊覧案内』 鹿兒島・市營バス

バス・ガール 中村 松江

(一)私達は鹿兒島市營の遊覧バスでございます。ようこそ鹿兒島へお出で下さいました。これから御案内申し上げます。

皆様、こちらは島津氏第二十八代の英主、島津齊彬公なりあきらをお祀り申す、別格官幣社照國神社しやでございます。齊彬公は、徳川幕末の世、内外多事多端の時代に封をお繼ぎになり、島津氏七百年來、第一の明君と仰がれる方でございます。

嘉永六年六月三日、アメリカの水師提督、ペリーが浦賀に参りまして、通商を請ひました際、國論大いに沸騰致しました。ここは、皆様既に御承知のこゝに存じます。幕府は處置に窮して、諸侯の意見を求めたのでございましたが、中にも、

公の御建言は、極めて重きをなしたま承つて居ります。

齊彬公は、早くから開國進取の論を唱へられ、或は洋書機械類を西洋に求めて、あちらの文物制度を御研究になり、兵制を改めて、泰西の新式をこられ、和漢の方法を参照なさいまして、製鐵業を起され、大砲を鑄造なさいましたり、寫眞術、電信機、瓦斯燈の實驗、紅硝子などの製造を致され、又、木綿紡績の有利なこみに着眼せられて、機織り器械を輸入され、帆木綿其他の製造を盛んになさいまして、大いに民業を御奨勵になりました。これが、日本に於ける、洋式紡績業の端緒であるご申されて居ります。更に、齊彬公は、大義名分を明らかになさいまして、尊王の大方針を樹てられ、士風を練り、藩學を奨め、人材を養成され、殊に、國旗制定に對する御功績なご、近世諸侯中、その識見一世に卓越された英主でございましたが、惜しいかな、齡五十にして薨ぜられたのでございます。

畏きあたりに於かせられましたは、明治三十四年五月二十六日、特に正一位を御追贈あらせられ、この日、鹿兒島縣知事を策命使として、公の墓前に御差遣になりました。かくの如く、無上の光榮に浴されましたのは、誠に公の御忠誠、御在世中の、かすくの御偉績は申すまでもなく、實に國家の大計を遺訓され、聖業を翼賛し奉らしめられました御勳功に由るのでございます。

(二)これから、明治十年の役最後の激戦地岩崎谷へ御案内致しませう。

こゝが、西郷南洲先生が、明治十年西南役の際暫し御起居なさいました洞窟でございまして、この小さな洞窟が、明治維新の大業に輝かしい勳功を樹てられました、大偉人の最後の御居所かご考へますと、英雄の末路、誠においたわしく存ぜられます。

明治十年九月二十四日の曉、官軍の總攻撃が始まりました。先生は、かねての御覺悟の通り、部下の諸將士と共に、こ

の洞窟をあきになされ、こゝ岩崎谷の細道を下られたのでございます。官軍の總攻撃城山の草木を震はし、彈丸雨霰を飛び散るなかで、先生は遂に流れ弾にお倒れになりましたが、負傷に屈せず、天子様のまします、東のみ空を御遙拜になり、やがて、「晋さんく、こゝでよか」、ミ申されましたので、傍の別府晋介氏は、「先生、お許し下さい」と、涙を拂つて介錯致されました。

かうして、明治十年九月二十四日の曉、城山おろしの秋風と共に、いたましい御最期を遂げられ、英魂再び還る日はなかつたのでございます。時に、御年五十一でございました。桐野、村田の諸將をはじめとし、其他の勇士の方々も、悉く勇ましい最期を遂げられました。誠にこの地を訪れますと、薩摩琵琶『城山』の一節

『昨日までは陸軍大將を仰がれて、君の寵遇世の覺え、たぐひなかりし、英雄も、今日は敢へなく岩崎の、山下露を消え果て、遷れば變る世の中の、無情を深く感じつゝ……』、歌の心も偲ばれまして感慨ひしきを深いものがございます。

ではこれから、英雄偉人輩出の地加治屋町の方へ御案内致しませう。

(三) 右手は鹿兒島縣立病院でございます、明治六年陸軍大將參議、西郷隆盛先生は、征韓の論容れられず、辭表を提出致されまして、鹿兒島へお歸りになり、故山に悠々自適の生活をおくられ、薩南子弟教育のため、私學校をおたてになりましたが、こゝがその私學校の跡でございます。石堀には、今なほ、明治十年、西南の役當時の彈丸の痕が、鮮やかに残り激戦のもの凄さを物語つて居ります。皆様、石垣をよく御覽下さいませ。

加治屋町に参りました。こちらが、西郷南洲先生の誕生地でございます。このほか常町には、維新の元勳大久保甲東先生や、日露戦役、陸の總司令官大山元帥、海の司令官東郷元帥、それに黒木大將、そのほか名士の方々の誕生地、或は居宅あきがございます、英雄偉人搖籃の聖地として、不朽の誇りに輝いて居ります。

ではこれから、風光明媚山紫水明の地磯濱へ御案内致しませう。

右手、紺碧の錦江灣に、色鮮かなる櫻島は、海拔一千百十八メートル、朝夕色彩の妙を示して、鹿兒島の景觀に變化の趣を添え、鹿兒島山水の生命を以て有名であるばかりでなく、又大正三年の大爆發や、櫻島大根、枇杷なきの産地として有名でございます。

この湖のやうな錦江灣は、文久三年、薩英戦争の際、忠勇義氣に燃ゆる薩摩武士の奮闘に、英國の軍艦は、錨を切つて敗走致しました激戦のあとでございます。しかし、のちほご薩摩と英國の間は、この戦争を楔として、大變仲よくなり、薩摩から留學生を送り、日本文化の開発、國運の進展に多大の貢獻をするこゝになつたのでございます。

(四) 錦江灣を隔て、彼方に遠く連りますは、紀元節に唱はれます、「雲に聳ゆる高千穂の、高嶺おろしに草も木も、なびきふしけむ大御代を、仰ぐ今日こそ樂しけれ」、その天祖御建國の靈地、天孫御降臨の靈峰、高千穂の峰も、韓國岳を併せ有する、國立公園の霧島山でございます。

この磯濱から、海上約一キロ位東北の方が、抜山蓋世の英雄、西郷南洲先生も、勤王の僧月照上人が、幕府の追及に堪へず、安政五年十一月十六日、寒月冴え渡る夜、遂に相抱いて入水されました、三船沖に當ります。

曇りなき心の月の薩摩潟、おきの波間にやがて入りぬる。

大君のためには何か惜しからむ、薩摩の瀬戸に身は沈むとも。

月照上人のお残しなされました辭世でございます。この國道に沿うた、海岸の花倉に申す所に、南洲先生も月照上人を救ひ上げ、介抱致しました漁師の家が、今なほ昔のまゝ残されて居ります。幸南洲先生は、その家で蘇生致されましたが、月照上人は既においたはしい御最期でございます。

御覽の通りの美しい眺め、ザボンの實のなる南の國は、空も、水も、野も山も、全く一幅の錦繪、清く澄み渡る緑の色も鮮かで、ひこしほ名高うございます。この麗しの海濱をドライブしながら、鹿兒島の民謠でも一つ二つ御紹介さして戴きませう。

花は霧島煙草は國分

燃えて上るはおはらは—櫻島。

皆様、もう暫らくでお別れでございます。當地の名所舊蹟は、つたない私では、皆様の御満足遊ばすやうには御紹介致しかねました。このほか、まだく珍らしいお話、勇ましい物語が、當市の隨所に秘められて、史ミ景の國鹿兒島は、觀光都市として、誠に興味深いものが澤山ございます。お別れに臨み、謹んで、皆様の御健康をお祈り致しまして盡きぬお別れを申し上げます。お疲れでございましたせう。ありがとうございました。

⑤『宮崎名所遊覧案内』 宮崎バス株式会社

バス・ガール 松岡八重子 河野久子 小川内久子

(一)大變お待たせ致しました。では唯今から御案内申し上げます。不來者でございますが、さうぞよろしくお願ひいたします。

宮崎市は、最も古い町で、又最も新しい町ださよく申します。我が日本の、そもくの始まりでございますから、これより古い町はない譯でございまして、いろく古跡がございまして。

ちようぎ、市の真中を流れてゐる川が、大淀川でございますが、その大淀川の川下は、神代の物語や、お祓ひの祝詞で

有名な、筑紫の日向の、小戸の橘の阿波岐ヶ原でございます。この阿波岐ヶ原に申しますのは、伊弉諾尊が、黄泉の國からお歸りになつて、禊祓を遊ばした處でございます。又天照大神や、月讀命、須佐之男命がたのお生れになりました靈地でございます。

又、これから參拜致します宮崎神宮は、神武天皇御宮居のあきでございます。この宮崎市の一帶は、一木一草、悉くに、ゆかしい神代の香りが漂つてゐるに申してもよろしい程に、由緒ある尊い土地柄でございます。しかし神武天皇御東征の後には、年々共に中央から離れることになりました。遂には日向の山國まで言はれる程になつてしまつたのでございますが、最近になりました、再び非常に進歩致しまして、市内到る所新興の氣に充ち溢れて居ります。さうぞ皆様には、古い宮崎を御覽下さいませと同時に、新しい宮崎、いやこれから發展しようとする宮崎をも、併せて御覽下さいませやうお願ひ致します。

この川が、大淀川でございます。只今私共の通つて居りますこの橋は、橘橋に申します。右手の橋は、本町橋に申します。本町橋と、橘橋の間は、旅館町で、川に臨んだ部屋の眺めは、よく皆様から、天下一品だにお賞めを戴いて居ります。橋を渡りまして、この通りは、橘通りに申します。橘通りは、一丁目から六丁目までございまして、市内第一の目貫でございます。

(二)皆様、いよく宮崎神宮でございます。では御一緒に御參拜致しませう。このお社は、宮幣大社、宮崎神宮に申上げます。神皇第一代神武天皇を御祭神に致しまして、東の相殿には、御父君鷄茅草葺不合尊、西の相殿には、御母君玉依比賣の命をお祀りしております。

神武天皇は、鷄茅草葺不合尊の、第四番目の皇子でございまして、天照大神から申せば、五代目の御孫に當らせられま

す。御幼名は、狭野の命、後の御名は、神倭盤余彦命と申し上げます。御生れつき、誠に御英明に渡らせられ、御年十五にして、皇太子の御位に御即き遊ばされまして、この宮崎の宮で、天下の政を御執り遊ばしたのでございます。御年四十五に在らせられました時に、皇兄群臣と、東征の軍議を御諮りになりまして、紀元前七年、この宮崎の地を御出發になりましたが、それから、ちやうど七ヶ年の間、申すも恐れ多い事でございますが、天皇には幾多の艱難と御戦ひ遊ばされ、遂に、凡ての荒ぶる悪者共を御平定になり、御年五十二歳にして、始めて、大和國橿原の宮に、第一代の天皇の御位に御即き遊ばしますのでございます。

建國、こゝに二千五百九十五年、皇統連綿萬邦に比類なき我が日本帝國の礎は、實にこの神武天皇御創業の御稜威によつて定まるのでございまして、誠に、吾々國民の、齊しく仰ぎ尊むべき所でございます。宮崎市民が、この御社を尊敬致しますことは、申すまでもない事でございますが、事、苟も皇室に關します場合と、又は、國家の一大事とに際會致しますれば、市民は直ちにこの神前に馳き來りまして、徹宵神前に額いて、皇運の無窮と國運の隆盛を御祈願致しますのでございます。其他、何事によりませず、先づ、神宮にお詣りしてからと申しますが、市民一般の慣はしみなつて居ります。

(三)この坂を戰場坂と申します。坂を越ゆれば、もう市外でございまして、生目村でございまして、これから參拜致します生目神社は、左手向うの、山の中でございまして、少し先きから左に曲つて參ります。

生目神社は、生目八幡と申しまして、譽田別の命と、惡七兵衛景清をお祀りしてございます。景清は平家の武士で、名高い勇士でございましたが、壇の浦の戦で、平氏が亡んでしまつた後、生き残つて、源頼朝をつけねらうのでございますが、遂に捕へられ、盲人になつて、この日向の國へ下向して參るのでございます。

景清が、如何に強かつたかご申す事は、有名な屋島の戦、景清鏖引きの話でよくわかります。那須の與市の扇の的で、すつかり平氏の荒膽を挫いた源氏方は、何か又、平氏方を苦しめる方法はないかと言ふわけで、有名な源氏の勇士、三保の谷四郎を出して、平家方に一騎打の戦を挑ませます。その時平家方から出たのがこの景清で、兩軍環視の中での、華々しい一騎打でございますが、景清の力や勝りけん、三保の谷四郎逃げかけます。それを、逃ぐるは卑怯で、後から兜の鏝を掴みます。逃げようとする逃がすまいとする、力餘つて、さうさう鐵の鏝が引きち切れてしまひます。兩軍、やんやん賞めたゝえる中に、ちぎれた鏝を振り上げて、大音聲、鬼と呼ばれし島山重忠はなきか、熊谷平山は居らざるか、出でよ出でよ呼び立てる景清の武者振りは、誠に胸のすくほご勇ましい物語でございます。亡び行く平氏のために、萬丈の氣焰を吐くもの言つて、よろしいかと思ふのでございます。

それほごの勇士でございましたので、頼朝は景清が生き残つて、自分をつけ狙つてゐるさわかるさ、安心が出来ない。それで、いろいろ手を廻して、景清の居所を探させますが、さうさう景清の馴染の遊女、阿古屋を責めて、景清の居所を白状させます。これは、お芝居で有名な、阿古屋琴責めでございます。もうこの森が、鏡山、山の上が生目神社でございます。

(四) 皆様、すつこ左手を御覽戴きます。あの向うの岬を廻つて参りましたのでございます。誠にいゝ景色でございます。今日では、かうして立派な自動車道路が通じて居りまして、笑ひつ興じつ見物が出来るのでございますが、以前は先刻のあの内海から鶴戸神宮まで、山を越えては海岸に下り、又山を越えると言ふた具合でございました。かうして、ローマンスカーの遊覽バスで、面白くをかくしく鶴戸詣りの出来ます今日とは、全く雲泥の相違でございますが、昔は又昔で、格別の趣もあつたさうでございます。

ここに、新婚旅行としてこの鵜戸詣りは、七浦七峠の昔を語る、美しいロマンスでございます。官崎地方では、結婚を致しますと、是非一度は鵜戸詣りをする習慣だつたさうでございます。あの人は、自分の嫁を、鵜戸詣りにも連れて行かぬ噂されることは、夫としての、大變な恥辱であつたさう申します。それで、結婚を致す、なるべく早く鵜戸詣りの新婚旅行を致します。尤も、新婚旅行に申しましても、何しろこの七浦七峠でございますから、新夫婦も、草鞋脚脛に身を固めての徒歩かちあるきでございますが、或は鶯の聲に耳をすまし、峠の松風に白帆を數へたり、或は桃の花咲く浦傳ひ、浮かるゝ蝴蝶に行く道を尋ねたり、手に手を取り合ひ、曳き合つての新婚旅行は、とても嬉しい思ひ出であつたさうでございます。

新夫婦が鵜戸詣りを致しますと、親族はその歸りを馬を曳いて途中まで出迎へます。そしてそこで花嫁には盛装をさせ、赤毛布を敷き、鈴を着けたしゃんく馬に乗せまして、花婿さんが手綱をこり、喜び迎へる親族達と一緒に、家路へこたさるのでございますが、何と言ふ美しい、繪のやうなロマンスでございます。眼を閉ぢますと、しゃんくくく、馬の鈴が聞えるやうでございます。文明は、ロマンスを破壊するさか申しますが、こんな美しい習慣は、さうかして、何時までも残しておきたかつたさ存じます次第でございます。いよく、鵜戸神宮でございます。では御一緒に參拜致しませう。

④「別府温泉地獄巡り」 大橋遊覽バス

バス・ガール 佐藤 文子

皆様、お待ちごう様でございます。只今から、別府温泉地獄巡りの、楽しいドライブでございます。

右手の海は別府灣、波打際を掘ります。砂の下からお湯が湧き、そこへ體を横たへて、ほかく春の夢見つゝ、大海原から、寄せては返すいで湯の波を身に受けて、青空に舞ふ鷗を眺めながら、半日を暮す長閑けさは、忘れられぬ申します。

速見ヶ浦の一筋路、濱の真砂の白妙や、磯馴松いそなほの常磐の色も、興趣は盡きぬドライブも、こゝ龜川温泉より左に折れて、地獄巡りのコースへ入ります。いよゝゝ血の池地獄でございます。こゝは眞赤なお湯の池、地獄の粘土で、若い娘が絞りの鹿の子、可愛い子供はハンケチで、日の丸の旗を染物遊びは、何ぞ變つた情景ではございせんか。

次は坊主地獄でございます。ぶくりくゝ煮える坩堝の泥地獄、この地獄には、その昔慾深坊主が居りました。貪慾因果の天罰からお寺の下が爆發して、お寺も、坊主も、諸共に地獄の底に落ちました。今では、正直婆さんが地獄の蒸氣を利用して、坊主饅頭をふかゝゝふかして居ります。皆様如何御覽遊ばします。

又、その下は有名な海地獄でございます。畏くも今上陛下の東宮に在します御時、御臺臨あらせられました光榮の地獄でございます。

右に仰がれますは、一名を豊後富士とも申しまして、高さは四千五百尺、昔は盛に煙を噴いて居りましたが、今は、靜かに眠る英雄を思はせる鶴見獄でございます。左の一廓は、たゞへ世界が何ぞ申しましても我が帝國の生命線、赤い夕陽ゆうひの滿洲の滿鐵療養所、こゝは櫻の名所でございます。

おひゝ皆様もお別れの、お名残り惜い流れ川大通でございます。別府市は、三四十年前まではほんの小さい漁師村でございますが、別府村から別府町、市政を布かれてはや一昔、世界一周觀光船も、毎年幾隻もなく入港し、國際觀光コースに加へられ、遊覽都市では世界一と稱せられて居ります。

皆様、これで一周十三哩約二時間の、楽しい地獄巡りはお済みになりました。私共は、謹んで皆様の御健康をお祈り申し上げます。

九州の民謡

各地に昔から傳はつてゐる美しい言ふよりも尊い言ひたいほごな民謡は、いくらもありません。しかし、かう言ふ、權威のある民謡は、音階や發聲法が違ふものですから、學校の唱歌から出發した今の若い人達には、さうもうまく歌へないやうです。かうして、おひくくに、封建時代の良いものが顧みられなくなり、その代りに、新時代のたゞ歌ひ易いものが、急に殖えて來るのです。旅に出て一番惱まされるのは、全く地方色のない何處で聽いても千遍一律の感じのする新民謡を強いられる事です。

各地にある唄のレコードの中で、福岡の「黒田武士」も「博多節」を裏表にした一枚なきは、優秀なものでせう。越え天てん樂らく今様の「黒田武士」は、傳統から言へば、唐の太宗時代に遡る雅量の旋律です。又「博多節」は正調博多節とも呼ばれるもので、所謂博多節を、芝派の哥澤に變曲したと思はれるほごの澁い凝つたものです。

バス・ガールの觀光説明の間に插まれる新民謡・新小唄・歌謡曲の中で、作曲も面白く歌ひ方もいゝと思はれるのは、右のテキストの中では、大阿蘇登山案内の「おらが大阿蘇男の胸よ」も言ふ男聲の唄も、雲仙登山案内の雲仙新小唄「普賢妙見國見を越えて」月の有明思ひに曇りや」も言ふ女聲の唄も、二つ位のもんです。

次にこの雲仙新小唄を譜にして、その旋律を動かして、私達の巡歴の歌、「九州旅情」を歌ふ事にしませうか。

行こよ行かうよ、南の國へ、遠い思ひは、

雲仙新小唄

フゲン 妙 — ケ — シ クニ ミ ラ コ エ — テ
 ヤ サ シ キ ヌ — ガ — サ ク レ バ テ マ — ネ タ ベ ニ —
 ツ ツ — シ —

通ふ黒潮、夢枕。

博多人形、水たき料理、昔なつかし、

槍の譽れは、黒田武士。

旅の乙女は、出島のあきで、描く幻影、

紅い帆あげた、異國船。

胸にしみ入る、御堂の沈黙、榮光に輝く、

サンタ・マリヤよ、わが聖女。

山で燃えるは、焔の躑躅、知らぬ思ひは、

沖の不知火、夜燃える。

バスの乙女は、偉人を語る、時代を率ゐるし、

人の力や、夢のあき。

バナナ・ピロウ樹、茂みの蔭の、いこふ乙女に、

何を囁く、南風。

深い思ひは、縁たさぎり、若い血も湧く、

湯氣のまぼろし、湯の都。

逢ふて別れて、逢ふ島々は、しんせんころりき、

滑り流れる、瀬戸の海。

旅でほごれて、結んでまけて、九州なつかし、

一つ心の、スヅニール。

兒童心理學文獻抄 二〇

牛 島 義 友

反抗の心理

云ふ事を聞かない生徒、親に逆らふ子供、之程世の親たる者、教師たる者の手を焼き、根を盡きさす者はない。あんなに素直だつた子供が如何してこんなにいけなくなつたのでせうと母親をいぶからせる三、四歳の小兒、之を第一反抗期と云ふ。次に青年期の始め、中等學校の二、三年頃に第二反抗期と云はれる一層強い反抗期が現はれる。

ロックは此の反抗心はあくまで打ちこはさねばならぬ、此の爲には子供を鞭打つ事も辭してはならぬと云つてゐる。之に對しルッソーは反抗は外界の影響殊に教師の誤まつた取扱ひに對する反動であるからむしろ教師の側に責任があり、教師は努めて消極的態度を取り、即ち反抗の起ら

ぬ様に干渉をしない事が必要であるを主張してゐる。反抗は果して、鞭打つて矯正すべきものか、或ひは退いて靜まるのを待つのが賢策であらうか。此の教育手段を決定するにはまつ反抗の原因を追求して見なければならぬ。

ウィンクラー・反抗 H. Winkler: Der Trotz 1929

反抗には二つの意志が對立してゐる。即ち自我と此の自我に働らきかけんとする他のものと、此の二つの意志が對立した時に反抗が生ずるのである。自我意識が生ぜず、只親の配慮、意志のみが働らいてゐる嬰兒期には反抗といふ現象はない。漸く自分の考へ、自分の欲望を意識する様になつた時(三、四歳)に最初の反抗が現はれる。又自我意識に強く醒めて來る青年期に前述の如き第二の反抗期が現はれる譯である。

次に一度反抗状態になるに非理性的な感情に支配される。即ち反抗者には一種のフィルターがかげられ反抗をなだめる様なものは皆吸収してしまひ、それを高めるもののみを通過さす。之は反抗する子供のみなならず、それに對する、教師の側にも生じ、生徒が云ふ事を聞かなければ教師は一層腹を立てその爲に反抗状態は一層激しい鬭争状態となり、云ひ聞かせて納得さす事が出来ず、理窟で解決する事が出来なくなつて来る。

又反抗状態になるに反抗がはじめの反抗対象から他の対象に移つて行く。一人の教師に對する反抗が全教師に對する反抗に擴がり、更に家に歸つては両親への反抗、更にあらゆる權威に對する反抗にまで發展して来る。

次に此の反抗に服従は全然對立するものではなくて非常に深い關係に立つてゐるものである。自分に他人の意志が働らきかけた場合には服従に反抗の二つの傾向が同時に現はれて来るものである。此の云ひ付けに従はうか、逆はうか云ふ選擇状態が現はれ、やがてその場の空氣をかその人の氣質によつていづれか一方に傾向いて行く、服従す

る程親しくない者に對しては反抗も現はれない。反抗は最も親しい母親、先生に對して先づ現はれるものである。反抗に服従は紙一重の關係である。故に反抗に對する一般的對策としてはまづ此の選擇状態の時に子供の意志を自分の方に引き付けてしまはねばならない。反抗的状态に進んでしまつては子供は自分の周りに高い垣を廻らしてしまふ故にいくらこちらから善意に働らきかけても必ず悪意にさらされ反抗を一層激しくさせる。

次に反抗には色々の種類がある。此の種類に應じて對策もそれ／＼異ならねばならぬ。

1、自己主張の爲の反抗、之は主に青年期の終頃に現はれて来る反抗であるが、強い自我意識を持ち自己の立場を主張し自己の信念の爲に戦はんことを反抗であつて彼等青年にまつては周圍の社會をいふものは自己の權利を侵害し人格を毀損する虚偽に満ちたものを感じられ激しく反抗する。

所謂今日の青年將校の問題、或ひは昨日の青年の思想問題云はれたものは皆此の種の青年の反抗である。青年は

非常に考へ方が純真云はうか、一本調子でラヂカルである。現實に妥協して行くといふ態度は全然許されない。此の爲に社會人から見ると突飛な行動を深い信念を以て行ふ。

2、自己維持の爲の反抗、之に對して自我意識の弱い場合には、此の弱い自我を強い他我から保護せんとして反抗が現はれる。アドラーの云ふ劣弱感情を持つてゐるもの、例へばごもりであるとか、髪の毛が赤茶けてゐるとか、縮れてゐるとか、チビであるとか、學校の成績が悪いとか、或ひは貧乏であるとか、特殊部落の者であるとか云ふ劣弱感情を持つてゐる子供は之を補償せんとしてひねくれた反抗をする。即ち彼等は自分の弱點を正面から克服する事は出来ないので對手のゐない所で蔭口をき、他人をけなす事によつて自分を高く見せ様とする。又は對手を象徴化した事物をぶちこはして見たり、對手が弱いと見る(分使、妹)積極的に反抗して行く。

反抗すれば當然所罰される譯であるが、前者のものは堂堂に受け、如何な肉體的苦しみもしのぎ通し自分の正義の

主張の爲に犠牲になるといふ英雄的な氣持を感じて来る。

故に之を英雄的反抗といふ事も出来る。之に對して後者は所罰を極力避けんとする。表面は大人しくしてゐて裏で策動する。併しもし所罰が避け得ざる時には思ひ切つた自棄的な行動をとり極端な反抗をなし、時に大事を仕出す事がある。彼の一世の英雄アレキサンダー大王の出生した同じ年に只自分の名前を史上に残さんが爲にエペソのアルテミスの神殿に放火したヘロストラトスの如き行動をこる事がある。で此の種の反抗をヘロストラトスの反抗云ふ。青年期初期の反抗には此の種のものが多い。

或る貧困な家庭から上京してゐた青年が段々不良化し教師に對し反抗的になつてゐたが、ある時友達と一緒に旅行の途中生家を訪れた時にいそぐとして愛兒を迎へる母親に對し目に餘る反抗を示して皆を驚ろかせた例がある。之は彼が常日頃最も弱點を感じてゐた貧困を東京の富裕な學友達に見抜かれた爲に、斯かる反抗をなしたのである。此の青年は平生は服装なき特に注意して富裕な家庭の子の樣に見せかけんとしてゐたのである。

3、暗示から来る反抗、まだ反抗した事のない幼児でも他の子供が反抗してゐるのを屢々見るに自分も眞似して反抗する事がある。最初は純模倣から來たものでも度重なるに本當の反抗となる事がある。次に以前に反抗した場面の一部分を同一の條件の下におかれるにそれが暗示になつて反抗を起す事がある。幼児が醫者の白い服を見た事でむづかるのは、痛い手術の場面に似てゐる條件に置かれたからであり、一定の色の飲物は如何しても厭がるのは苦い藥を想出すからである。

4、引出された反抗、絶えず叱つたり、小言を云つたり、かうしなさいあゝしなさい云ひ付けてばかりゐるにそれが反對暗示になつて子供に反抗的な氣持を起させ今迄従順だつた子供が突然に反抗する様になる。之は云ふまでもなく不當な取扱ひから起つた反抗である。教師が何氣なく叱つてもそれが子供に非常に大きな影響を與へる事が非常に多い。殊に自分が正しいと思つてゐる事で叱られたりするにその先生が非常に嫌ひになり、先生に話もせず手も舉げなくなつてしまふ事がある。叱る時は努めて慎重に的確に

せねばならぬ。輕々しく叱るに常にならぬ氣持で子供に接する事は最もいけない。

5、適應しない動機からの反抗、子供にある計畫を方針又は遊びの規則といふ様なある原則が出来てゐる場合に此の原則に矛盾するものを要求するに反抗する。ビュラー夫人の子供の最初の反抗は子供が三歳の時の或る日、乳母車に乗せて散歩して歸つた所門の中に入るに急に激しく泣き出した。今迄愉快に機嫌よくしてゐたので、又遊び足らない譯でもなく全く何の爲にこんな無理を云ふのかに當惑したが、實は子供には無理はないので、子供の理に反したから反抗したのである。即ち子供は毎日散歩からの歸りに家の門の所まで來るに乳母車から降りて自分で歩いて玄関に入る習慣であつた。従つて今日も之から車を降りて自分で歩くのだと思つてゐた時に、今日に限つてそのまゝ玄関まで乗入れられたので此の不當な待遇違反に對して憤慨した譯である。此の種類の反抗はその原因を知る事が困難で母親の最も當惑するものであるが、すべて子供の身になつて子供の考へに即して處置してやらなければならぬ。

6、偽りの反抗、反抗によつて自分の意志を通す事が出来たり、或ひは他の子供が無理に我意を貫いて成功したのを見るにわざと反抗する風をして自分の思つてゐる事を實現させやうとする。おごかしの反抗である。此の場合教師や親が此の偽りを見抜く事が出来ないで、斯る偽りの反抗が子供の常習手段となる。斯るくせが出来た爲に急に事情が變つて此の手段が效かなくなるにひきかゝり悪結果をもたらす事がある。例へば新たに小學校に入る様になつて今迄の口で先生を自由にする事が出来ないで學校に行くのを厭がつてしふやうな事がある。

以上の様に反抗には色々の種類がある故にそれに對する處置もそれ／＼異なつて來なければならぬ。第一の自我主張のものに對してはその正しい動機は認めてやらねばならぬ。併し反抗は誤まつた方法であり、その報ひは高價である事を分らせる必要がある。他面意志の訓練が自制力を養つて軽々しく行動しない様にさせねばならない。又斯る者はさか／＼一人よがりの獨尊主義に陥る傾向がある故に適當な友達を持たす事、例へば幼稚園、小學校、青年團等

に入れて自分以外にも同様な意志を持つた者があるといふ事を知らしめる必要がある。

次に第二の自己維持の反抗に對してはその原因たる劣弱感情を問題させねばならぬ。その劣弱な部分を直してやるか、或ひは他の物によつて代償を與へてやる事が必要である。即ち體が小さくても勉強が出来ればよいか勉強が出来なくても性質が善良であればよい云ふ風に人生の目標を正しく明示してやればよい。

暗示型のものに對しては獨立心を養ひ自己の考へ方、判断を強く持つやうに教育して行く。

引き出された反抗は教師、親の責任である。偽りの反抗に對してはそれを無視し、構はないでおく方がよい。適應しない動機からのものに對しては子供の計畫、原則を尊重すると共に子供自身でそれを發展向上させる様に導いて行かねばならない。

な た 豆

草花や野菜の苗を、手押車に一ぱい積んで賣つてゐるのを大塚驛で見かけた。コスモス、きうり、茄子等と、手作りを樂しむ人々のために、この季節になると道ばたに賣りに出てゐるのはよく見かけるが、私はこゝで、ついで今迄見かけなかつた苗を見たので、札をのぞいて見ると、ナタマメと書いてあつた。

一寸大の肉ぶとの豆は、兩に開いて真中から雙葉がキリリと立つてゐる。豆は成長してゆく雙葉を護つていかにしたものも、さうに見えたので、六本十錢といふのを、幼稚園の分と自分の家とに買つて歸つて、家のはすぐに植えておいた。

幼稚園に持つて行つたのは、手近に置いて育てたいと思つたので、大きい空箱にどろを入れて、窓下においた。雙葉は榮養を十分に攝つて、すん／＼のびて來た。新しい莖が成長するにつれて、あれほど勢の

よかつたもとの豆はだん／＼萎んでいつて、いつの間にか地面に落ちてしまつた。

私も今迄なた豆の、あの細長い莖の豆だけは知つてゐる。漬物にしても、なか／＼ぬかみそになぢまないで青くさく、氣長につけておかなければならないといふことや、子供のころ福神漬が出ると、なた豆ばかり拾つて食べたことがあつたりしたが、それがこんな大きな豆をつけてゐる苗だとはちつとも知らなかつた。

幼稚園の子供達は知つてゐるわけもないけれど、誰をつかまへても、是れ何だかわかつて、ときいて見ると、誰も知らない、それで私ばかりでは無いと安心した。あんまり、しよつ中私が大事にしてゐるので、子供のお母さんにまで、先生、これは何でございますかと聞かれて、答へるのが自分ながら可笑しくなつてしまつた。

やがてこの新しい莖が一尺近くものびて來たころ、風のたんびに、たよ／＼としたはじめたので、おてのものゝヒゴで、てを立て、おいた。すん／＼のびると、これで

はヒゴもろ共たわ／＼として來たので、どうしようかと思つてゐたところ、いつも手入れに來てゐる幼稚園の植木屋さんが、見乗れたのであらう、廻天窓迄も届く割竹で、しつかりしたてを作つて呉れた。これで安心してか、たちまち窓の高さをこえてのびて來た。ジャックはイギリスにゐるとばかりは限るまい。もし鬼のお城に行くならば、日本のジャックさんよ、是れにお登りなさいと云はねばかりに勢よくのびていつた。

さうかうしてゐる中に花も見ないで夏休みになつてしまつたが、七月の終り頃講習に來てゐる間にうす紫の大きな花が咲いた。やがて實もついたと見えて、八月の終りには五寸位になつたと云つて、知らせて下さつた方がある。

もう四五日で夏休みも終る。脊丈けの伸びたみんなにあふことや、流れをつくられた庭を見ることや、子供と一緒に育て、來たなた豆が實を結んでゐること等、いろいろの楽しみが待つてゐる。(よしこ)

『系統的保育案の實際』解説 (一)

| | | |
|------|-------|--------|
| 生活訓練 | | 倉橋 惣三 |
| 誘導保育 | | 菊池 ふじの |
| 唱歌遊戯 | | 村上 露子の |
| 談話 | | 新庄 よしこ |
| 観察 | | 小島 光子 |
| 手技 | | 及川 ふみ |

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。昨年七月以來、既に多大の部數が、全國保育界に普遍し、熱心なる保姆諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼児の生活に出發し、生活に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められるところから、その實施に於ても新しい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。説いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものの立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第二保育期

——満四歳、満五歳——

生活訓練

第四週

こゝでは運動會の練習の時、たゞ競技運動の練習ばかりでなく、出入、集合、歩行等の訓練を與へるこゝになつてゐる。丁度秋も半ばに近く、こゝでも運動會が催されるであらうが、必ずしも運動會に限らず、かうした集合動作の訓練は、いつでもして置きたいこゝである。興味と興奮につられてのこゝではあつても、たゞ騒々しく、不規律に、亂雑になり易いのを、こゝかで引きしめておきたい。否、内から亂れない癖をつけて置きたい。

こゝで、そつといふ癖をつけるには、そつといふ機會を度度練りかへし／＼與へるのが第一であるが、その都度一番肝心なこゝは、先生の執る態度であらう。つまり、先生が

そわ／＼、ちら／＼、ちよ／＼してゐては子ぎもの動きもそうなる。先生はこゝまでも落ちついてゐなければいけない。こつしりこね。そして騒ぎ動くものがある時は、簡潔な言葉、簡単な動作で、それを押へるのである。一人が出過ぎたといつて、先生まで一々馳け出したのでは、全體がざわついて仕舞ふ。幼稚園の先生は、前かゞみに子ぎものに觸れ、子ぎもに語るのが常の態度であり、必要な態度でもあり、やさしい態度でもあるが、それは一人々々への場合であつて、斯うした全體的の時には、集團の中幹として、眞直ぐに立ち、首を屈めないで、子ぎもの方をして仰ぎ見せしめる位の方がいゝ。こゝいふこゝ大層つんゞして威張つてゐるやうであるが、そうして顔はやさしさにこぼれてゐら

れる。一人々々へ萬遍なく愛想をまき散らそうとする。まきめてゆく力が弱くなる。まきめ方さいふよりも、自分を中心になつて、自然に全體がまきまるようにするのが肝心である。

子ぎもだからさいいつて、皆が皆亂れるものではない。その中に特別のはしやぎ家、ちよこまかさんがゐるのである。それを自分の身近かに置いて、特別の注意を拂つてゐるこまは大切である。又、さいふ子ぎもその他の子ぎもこの列び方を豫めよく氣をつけるのも大切である。つまり、前以て工作を試みておくのである。これ等の注意が行き届いてゐれば先生はさうくこわい顔をして、にらみつけてゐなくもていゝであらう。若しそれでも騒ぎ亂れる常習犯が居たら、時にはドカンと一喝を落しておくのもいゝであらう。腹の中では、その子の無邪氣さが可愛いく、ほゝ笑ましさに笑つてゐても。

第五週

庭の花や木に水をやり、草をきるさいへば、花を摘みさらぬようにさいふ消極的公德注意を違つて、一面は植物愛

育、一面は小勤勞の積極的訓練に入つたのである。さいふ訓練が一層むづかしくなつたやうであるが、子ぎもさいふでは、消極的に訓練されるよりも、積極的に訓練される方が、その生活内容に於て楽しいのである。平な言葉でいへば、うれしがつてするのである。花をきるなよりも、花に水をやれの方が、自分でも一まかきのことをさせられてゐる喜びがある。草きりは、仕事としては消極的のこまだが、おゝきれになつたさいはれるところに積極味がある。そこで、折角くかういふ傾向が子ぎもの自然にあるをすれば、それを育てゝまめな性質に癖つけるこまは必要である。植物に對するやさしみの教育さいふやうな情味の方の教育價値の他に、生活態度の傾向を積極的にする點に於て、一層の訓練價値があるのである。

そして、この訓練では、すなはち生活態度の積極的訓練には、先生が自らさいふ態度を以て誘導するこまが何より有效である。先生の性質がさうく一々子ぎもにうつるこま限らないかも知れないが、少くも、まめな先生も、不精の先生もでは、その幼児がちゃんこ其のお弟子になるから

怖ろしい。口でばかり上手に指導して、自ら手足を動かさない先生の組子には、口さき達者の不精者が多くなる。幼稚園の先生は工事人足の現場監督ではなし、立つて見張つてゐるのでは何んの誘導にもならない。

第六週

まだく前からのこまが、よく癖づけられてゐない。

第七週

砂場の砂を外へ持ち出さないようにこいふこまは、持ち出したからこゝで悪い譯でもないのを止めるので、子ぎもこしては、何故いけないのか合てんに苦しむかも知れない。砂がへるからこいふのが一つの理由、外がよごれるからこいふのが一つの理由、多分その他に理由もないと思ふが、こつちの理由にしたつて、スナ、スナ、スナと大聲にわめき立てる程のこまではない。海岸の子ぎもでなくても、此の夏を海岸で過した子ぎもなら、幼稚園は砂ひきにぎりにも小やかましいところだなと思ふに相違ない。だから、だからこいつて無暗に砂を選び出されては困るこまに相違

ないので、よく譯を話し(幼稚園の會計の内幕まで話さなくてもいい)だらうが)て、そうしないこまにして貰ふこまである。少くも、そういふ氣持ちで出るべきである。一人々々が砂を持ち出すこま、あまが少くなつて遊ぶのに困るからね。こまでも理解を求めて。

一つ思ひ出した話がある。餘程以前のこま、大阪江戸堀幼稚園で、私の砂禮賛説に従つてこいふ譯でもないが、まあそんなきつかけもあつて、砂場に大に力を入れられたこまがあつた。私の持論の砂場天井をつけたりして、設備もよくされたが、第一砂を豊富に入れた上(當時の幼稚園には、砂場こいつても砂の浅い、潮干でなく砂干のような貧弱なのが少なくなかつたのである)、砂箱こいふ名で、小箱に砂を入れ、幼児銘々にあてがふこいふこままで奮發せられた。奮發こいふこ可笑しいようだが、あの大阪西區江戸堀では、砂一升金一升でもあるまいが確に奮發の部に入るこまなのである。そこで話は少し後になつて、こまです。子ぎもは大よろこびでせうねこま私が尋ねるこま、其の園長の膳さんが、あのふくよかな童顔を一段こまにこやかにして、

え、大よろこびで御さいます。うちへまで持つて歸ります位でござへられた。その話を壓縮して、手つこり早くいへば、幼稚園が幼児の家庭にまで砂の供給者になつたのである。ハンカチへ包んだりして、もて歸りますのや、軽く大阪辯のまぢつた、なごやかな答をきいて、流石に膳さん(あの元老の膳真規子女史)だ、私は大に敬服したのであつた。——何も皮肉をいつてるんじやありません。たゞ一寸思ひ出した砂場美談の一節だけのこと。

第八週

席を立つた後、椅子を机に引き寄せておくことは、椅子生活としては、極く當りまへの一作法である。椅子から立

誘導保育

第四週

おもちゃ屋

蟲への興味も薄らいで來た。お神輿の騒ぎも沈まつて、

ちつばなしなんていふのは、談判破裂の時かなんかのこころである。第一、立つ時一寸手を椅子にかけるのが普通で、さうすれば、その力で一寸もこへ引きつけるこころになるのである。こころが、椅子は脚の仲間だ、こでもいふこころか、手なごかけないで(勿論お客様が食卓へおつきになる時にはボーイが來て椅子を引く)一切の仕末を足で扱つて仕舞ふ流儀もある。あの流儀でいけば、立つた後の始末も、足で器用にするこころになるのは自然だが、あれは甚だでよろしくない。犬じやあるまいし、そんな後足藝アトケなんか覺へさせなくてもいふ。いくら先生がお上手、否お上足だつても。：いやこれは失禮。

今度は落ちついて仕事の出来るものが好ましくなる。そこでおもちゃ屋が計畫された。

先つお店が作られなければならない。店は間口ニメートル

ル奥行一・五メートル高さ二メートル位の大きさにし、主として先生が作る。この大きさは子供を本位にし決めた。次々さまざまな玩具をこしらへて陳列して置く。最後に自分の組或は全幼稚園を相手として賣り買ひ遊びをしてこの遊びの期待効果を全うする様にする。

この主題の期待効果は期待効果欄にある通り、各種材料による製作、陳列に依つてものゝ整理、賣買遊びに依る社會生活興味、觀察。

繼續作業時間は九週間。

此週は

鳥の玩具

蛙の玩具

(以下作り方は凡て手技の項参照)

唱歌遊戯

第四週

遊戯 五回

第五週 おもちや屋つゞき

魚

國旗

てんとう蟲

第六週 おもちや屋つゞき

きせかへ人形

でんく蟲

第七週

首かざり

こま

日の丸行進

小學校と合同であるからには、迷惑をかけない様に殊

に出入、集り方、歩行等についても或る程度まで統制された訓練が必要である。年少組には最初さうか知らさつたが、實際に幾度も練習してゐる中には餘り苦勞もなく小學校について出来る様になる。

遊戯の練習

なるべく年長組と一緒に練習の機会を多くする。

第五週

遊戯 五回

運動會の練習

運動會は全校合同で舉行されるので、與へられた時間内で總べてが進行出来る様に準備もし、練習もしなければならぬ。

「オサル、ヒヨコ、蓮の花」をそれごとく二回宛して、それに運動場への出入の時間を入れて十分間で出来る様に、全幼兒が集つて幼稚園の庭又は本校グラウンドに於て練習する。

グラウンドへ行つたついでにかけっこもしやう。スタートでは合圖より先きにさび出さない様に、決勝點前で速

力をゆるめてしまはないで終りまで一生懸命に駆け出すこと等注意をする。

まだ秋の陽ざしも強いので、外へ出る時には必ず帽子をかぶらせること。

第六週

運動會の練習

日の丸行進、遊戯、かけっこはそれごとく十分以内で出来る様になる。

全校の運動會豫行演習

運動會(於明治神宮外苑)

いよく運動會の當日、幼兒は午前八時集合、午前十一時三十分解散。

プログラム作成の時に、幼稚園は人知れぬ苦勞がある。わづか三つの種目を配置するにも、先づ用便に差支へない様に、飽きさせない様に、又見物の方々が揃つた頃に可愛いのをする様に云ふ注文もあつて、なか／＼の苦心だ。準備として、遊戯及び日の丸行進の圓の縁をはつきり描いて置く。

かけつこは轉んでも危くない様に芝生の上でする。轉び係まで控へてゐるから大丈夫。途中にボールを幼児の數だけころがしておいて、それを拾つて馳ける。馳けた子供はみんな御褒美にそれをもらふ。その上一着から三着まで本校と同様に賞さしてメダルを頂く事になつてゐる。

遊戯は眼鏡形に二つの圓に分かれてする。皆事故もなく無事に済むミほつこする。

第七週

唱歌 三回

カケッコ(エホンシヤウカ)

「アカフレ シロフレ……」の所は、カケッコの應援を
するつもりで元氣よく節をつけしないで云はせる。

ねここねずみ(幼稚園唱歌)

遊戯 三回

ねここねずみ(記事参照)

子供たちの大好きなあそびの一つ、先生も子供も一緒に
なつて面白く遊ぼう。

第八週

唱歌 二回

ギッコン バッタン(エホンシヤウカ)

大きなお日様(をさなごのうた)

運動會も済んで次第に子供たちの氣持も落付いて来る。

靜かに歌ふ様な時を與へたい。

明治節の歌

先生が歌つて靜かに聞かせる。

カケッコ 戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 一列圓形を作る

アカボウ

各々右手にて右隣の者の左肩を軽く二回たたく、

顔もその方にむける。

シロボウ

今度は各々左手にて右隣の者の右肩を軽くたたく。

カケッコダ

元氣よくかけ登で手をよく振り乍ら

自分の周圍を一周りする、

ウラノハタケデカケツコダ

圓周に沿つて元氣よくかけ登でゆく。

アカフレ、シロフレ

圓心を向き、立つたまゝ両手を高く上にあげ、左右にふる。

アカフレ、シロフレ

拍手四回行ふ、

ねここねずみ

戸倉ハル氏振付
幼稚園唱歌

準備 一列の圓形を作る、豫め猫になる子供一人、

ねずみになる子供一人或は二人定めておき、ねず

みは圓の内に、猫は圓の外におく、鬼ごっここの形

を遊戯化したものとして扱ふ。猫やねずみになる

子供は一回毎に交代する。

ネコノココネコナハオズオズヤオズ

圓周上を手をつないで左に進む。

クビワノズガ

止つて、

両手を胸のまゝところに前足の如き形におき、次第に腰をかゞめてしやがむ様にする、體は圓心にむけたままで。

まで。

チリリンリン

各々両手を床につき、匍ふ様にして自分の周圍を一周りする、

ネコノココネコナハオズオズヤオズ

圓周上を手をつないで左に進む

シズカニイツテネズミトレ

やはり圓周上を手をつないで左にすゝむが、ぬき足さし足で出来るだけ靜かに進む、足を高くあげ爪先からそつこおろす様にして。そして最後に圓の中心に向つて腰をおろし、ねこは、ねずみを追ひかける、

圓周上の者は圓形の籠を作つた様な形になり、ねずみをよく逃がしたり中に入れて守つたりして、猫の入る事を防ぐ。ねずみがつかまつたら又ははじめからくりかへし行ふ。

ギッコンバツタン 戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 二人づつ組み、自由な位置又は圓周上に位置をきる。

ギッコンバツタン

二人向ひ合ひ、左足を一步前に出し、爪先で軽く床を四回たたくと同時に右手を斜下の前に出し軽く上下に足に合はせてふり乍ら人さし指で右足の爪先をゆびさす。

オモシロイ

前ミ同じ動作を左手、及び右足で行ふ。

アガツタトオモヘバ

一方の者は高く上にあがつた様子をする。踵をあけ背のびをし、両手は胸のまごころにあげ、拍手四回する、そして下にさがつてゐる者の方をみる。一方の

談話

第四週

者は下にさがる。力を入れてしやがみ両手は握つて體の側面の床の上につける。そして上になつてゐる者の方をみる。

マタスゲサガル

前ミ同じ動作を反對の者が行ふ、上になつてゐる者は下にさがり、下になつてゐる者は上にあがる。

サガツタトオモヘバ

やはり前ミ同じ動作を前ミ違つた方が行ふ。

マタスゲアガル、

同じ動作を代つて行ふ。

ギッコンバツタンオモシロイ

二人両手に向ひ合つたまゝ、まゝりスキップで一周りする。

「真黒なお馬の黒さんが、今夜もまたバカくバカく
さ廣いく野原を歩いて来たんですよ」

斯う云つて、黒のお客様の話を始めるさ、私にはほんま
うに、月の夜道を黒が歩いてゐるその姿が見えてくる。話
を進めてゐる中に、だんくあたりの情景が、はつきりし
てくる。荒く伸びた夏草をふみく、黒は月あかりをたよ
りに、バカくバカく歩いてゐるさ、俊雄さん、秀子
さん、犬や子猫や、鶏や栗鼠さいふわけで、お客さんは背
中にもう満員だ、それでも連れて行つて貰ひたいさねだつ
た白鼠や、鶉に相應の席を探して、互ひに譲り合つて、仲
よく野原をゆられてゆく。黒は黙々としてみんなを月の御
殿に連れて行かうさ歩いてゐる。ほんまに、今でも、何所
かで黒がかうして、みんなを喜ばせてゐるように思はれて
ならない。動くシルエット(影繪)をころろにうかべずには
ゐられないさいふのは、私ばかりではあるまい。

さて、子供にお話をしようさ用意する時、あまりお馴染
の材料ばかりで、——子供の方は年々變るので、いつも始
めて聴く話さして聴いてはくれるが、——さうかき云つて、

それに甘んじても居られないから、何かの童話集や新刊も
のをさがして見るさ、なかくいゝ話は見つからないもの
だ。讀んだ時は左程に感じなかつたものが、實際に話を運
んでゐる中に無理が出たり、味氣ない話になつてしまつた
りするこもあつて、

あら、先生、それほんま？

さうしてそんなになるんでせう。

なま、他愛の無いさ思はれる聴き手から、虚をつかれる
こも無いさも云へない、そんな場合、辻褄を合せて、さ
うにか始末をつけるにはつけても、内心の苦しいこも、ぢ
つさり汗の出るこもある。

そんな話に比べて、この黒のお客様の、何さ素直なよい
話であらう。話してゐるながら、黒さんの善良が先生にも子
供にも、滲みこんでゆくような氣さへしてくる。是さ同じ
ようなよい話さいふのは、あきに出てくる「ねんくねむの
木」であらう。この二つは幼児向き童話の珠璧さして並べ稱
されるものさ云ひたい。

猿さ玉葱 吟誦

一皮むいても

實^じが出ない

二皮むいても

實^じが出ない

何の木の実か

知らないが

むいてもむいても

出るものは

やつぱり同じ

皮ばかり

おかしな木の実も

あるものご

玉葱片手に

お猿さん

小首かしげて

思ふよう

こんな厚着で

ゐるからにや

よつほぎ寒い

北ぐにの

山のみやげか

さもなけりや

さむがり育ちの

弱むしの

意氣地なしかも

知れないぞ

猿の滑稽味たつぷりな可愛いらしい動作が、玉葱を對象

として、たくみにうたはれてゐる。これは話の形になほし

てきかせても面白い。猿が玉葱を拾ふところから始つて、

最後に玉葱をつぶして涙をポロ／＼流すこゝ等敷衍して。

吟誦の仕方は前出。これをくり返してゐる中に、すつか

り覚え込んでしまふが、猿の動作を眞似て、皮をむいたり、不思議そうな顔をしたり、首をかしげて考へたりしながら吟誦するこゝもあつて、一つの遊びになるこゝもある。

明治十一年ごろの幼稚園の室内遊戯で、雨風の歌があつた。それを復誦しながら、椅子を動かして風の音をたて、両手を上から下に下ろして雨の降る様子をあらはし、そんな動作をしながら、遊んださいふ記録を讀んだ。

この玉葱の歌を誦みながら、めい／＼獨特の動作を考へ出すさいふようなこゝもあつて、雨の日の室内遊戯にも面白いであらう。

第五週

平三さんご權藏さん

二人の名の選び方がまことにいゝし、この二人が、虎のお腹の中で活躍するのは、まことに愉快な話である。但し、それが虎のお腹の中でさいふ場所の觀念をはつきりさせないで、折角の話の面白さが生きて來ない。

「平三さんの話は面白い、こんな話を作つて貰ひたいものだね」男のお子さんを幼稚園によこしていらつしやつた

某先生がおつしやつたこゝがあつて、よくわかつたお父さんだと思つたこゝがある。

第六週

運動會について

年々明治神宮外苑で、全校合併の大運動會が開かれる。

この季節にもなれば、お兄さんお姉さん方の學校でも運動會があつて、話を聞いたり、見にも行つたりしてゐる子が多い。その上練習々々で、今に自分達の運動會があるこゝを豫想して楽しんでゐる。そこで、先生も共に待つこゝろで、今迄の様子なごを話して聞かせ、その日を楽しみに待つようにする。

さうかするに、この時分迄遊戯をしない子がゐる時もあるつたりして、この運動會を好機に、苦もなくみんな一緒になれたさいふ経験もある。今迄は、遊戯室で一人だけ別に居てもさし支えなかつたが、運動會ではさうはゆかない、仲間外れが、はつきり自分にわかる。みんなが旗を持つて樂隊に合せて行進したり、御褒美にゴム毬を頂いたりするのに誘はれて、仲間にはいつて見れば、らくらくさやつて

のけてゐるに云つたのは度々見受ける。先生もこの機を逸せず、面白く運動會の日の話をして聞かせ、當日は仲間外れにならないやう、楽しみを是非みんなと一緒に味はせたものである。

第七週

ねんくねむの木

今月はいゝお話がつゞく、いゝ話に云つても、この保育案に配列したのは、いろくの意味でよき話を選んだわけであるが、中でも、このねんくねむの木、黒のお客様、平三さん權藏さんはすぐれた童話であらう。

筆者が草花より多く木に咲く花を好ましく見るせいもあるが、合歡の木が葉もこまかく、花も細々してゐながらも、しつかりした幹に支えられてゐて、繊細な感じがしない。これは地に見る花では無く、空に見るからであらう。

この淡紅色の花に慕ひよつて来て、

ねんくねむの木 ねんねの木

ねんねにおいで ねにおいで

さいふ唄に誘はれてゆくものは、鬼でなくとも、小鳩でな

くさも、うつまりさして吸ひ込まれてしまふのも無理はない。

作者が、いたづら者の木つゝきに、こんないゝ唄を歌はせてゐるので、可愛いゝ動物の子供達をだましてゐながらも、却つて道化役者の一役をふりあてられてゐてにくめない。

お茶の水の古い建物の頃であつたから、それからもう十四五年も経つたであらう。こんなこゝを思ひ出す。修了の日で、ぎの組の子も、みんなその日を幼稚園のお別れで、歸つて行つてしまつた。

常の日は違ふその日の静けさの中に憩んでゐた時、倉橋主事がいつていらつしやつて、かうおつしやつた。

観 察

第四週

すゝき

この月は年少組も年長組も植物材料が多い。花に、實に、

「あの室で、いゝお別れをしてますよ」

。それは、その室では、「ねんくゝねむの木」のお話をし
てゐられたのであつたさいふこゝを、あゝできいた。この
頃のように、修了の日にはいろくゝの催しがあつて、その
日にお話なきゝは思ひもよらないが、その頃の修了の日が、
いかにも、のんびりしてゐたさと思はれ、又ねんくゝねむ
の木を選ばれた保姆さんの人柄なきもさすがに思はれ
て、今でも時々忘れがたく思つてゐる。

なほ、これを書くに當つて、この作者を知り度いと思つ
て、心あたりを問ひ合せてゐるうちに、作者は平井泰太郎
氏ですきいふはがきを倉橋主事から、海岸の出先で受け
つた。

秋酣の今を表すものに植物が手近に多いから是非もない。

お月見頃よりかへつて今時分に澤山穂を出す。禾本科の
多年生草本、穂を尾花と言つて秋の七草の一つであるこゝ

は周知の事である。この様な材料は観察の機会を多くもつものでその情景を澤山考へる事が出来る。が観察させ度い所は二つある。一つは穂、他の一つは葉である。穂はよく開いた時これが其の花である事を話す。葉はふちのかたいさげ／＼を注意して山なごで手を切らないように話すのもよい。こんな材料は得てして理科教授になり易く、しかも面白くない。それよりもすゝきの穂でつくつたみづくの玩具なごをみ乍ら観察させるこゝそ面白いま思ふ。

第五週

ほうせん花

鳳仙花科の鳳仙花一名「つまくれなひ」又は「ほねぬま」こいふ處もある。印度原産の植物である。花の色も子供の好ましい色が種々あつて幼稚園の花壇によい花である。もうこの頃では花はおしまひに近い。花の観察はもう少し早いがよい。こゝでは主として果實の観察である。花壇を訪ねた時子供達こゝしよにしゃがんで實をみらう。そつこ取らうとさわる途端にバツミはぢける、はぢけて黒い種子

を出す。はぢけたあごの面白い形、これ等を観察させ乍ら收穫する。動的な面白い観察材料である。

第六週

さんぐり

さんぐりは穀斗科植物の櫟、檜等の果實である。今更ここに取立て、説明する迄もなく多く遊ばれてゐるし、一層斯うした自然物で遊ばせたいと思ふものである。

松茸

秋の食品の王座をしめるものだこ或人は言ふ。観察材料としても亦珍らしく面白いものである。きのこは一般に観察させる事が少い、こいふのは有毒茸を殊の外おそれる爲であらう。若し自然に茸の生えてゐるのを観察出来たらこれに越した事はない。それが無い時は、形のいゝ松茸を三つ四つ用意して自由畫の寫生材料にしたり、粘土でつくらせ乍ら色、形、かさの内側のひだ、香等を観察させる。若し粉のおちるのを氣がつくこごもがありそれに不審をもつならば、花の種子のやうに、これがこぼれるこ、きのこが出

來る事を話してやる。粉は小さいものであるから蟲眼鏡があつたら一そうよいであらう。松茸に限らず椎茸、しょうろその他庭に生える茸類を口へされ入れねば恐ろしいものは少い。折にふれてみせ、これも草や木のような生きてゐるものである事を知らしめ度い。

第七週

菊、コスモス

秋は菊、菊は秋、で今迄に菊科植物は數種出て來たかも知れないが秋こそ菊の觀察シーズンである。一般に菊もしてよりもコスモスさいふ様な一つから、種類をあげて觀察

手 技

第四週

自由畫 二回

四つ切大の白の構造紙、或はうす色の包紙の廢物なごを利用してよいが、それに毛筆で自由畫をかゝせる。始

させ度い。春に蒔いたコスモスが今は花盛りである。朝こぎも達こその枝を花瓶にさす爲取り乍ら、又花瓶に生け乍ら花の觀察をさせる。少し散りさうになつた花をこつて花瓣一枚のやうなのをぬき小さな花になつてゐる事をみせる。小さな花が一ぱい集つてゐる事をみせる。大きき花がいくつあるかを數へさせる、これはいくつ、それはいくつ、こ數へ乍ら數の比較をさせる。そしてコスモスはこの菊の親類、こ言つて他の菊の花も同様に觀察させる。菊の花のよい香もこゝで忘れず嗅がう。そして菊の花はどれもきれいで香がよくていゝ花で皇室の御紋にもなつてゐる事も話してよいこ思ふ。

めて筆をもつ幼兒たちのためには、穂先のこがつたものよりも、少し書き切れのしてゐるものゝ方が使ひよい。そして腰の強い筆がよいので水彩繪具筆や、大人の使ひふるしの筆でよいので、紙も筆も廢物で充分であつて、

毛筆で書く繪の面白さを充分に味ふ事も出来、又一方その畫きゆく途中の幼兒の精神的の訓練にもなる事である。たゞ墨をすつてやつたり、筆の數なき制限のある事であるから、一三人交代にして、他の幼兒はその外の遊びをしてゐるやうな方法でこの毛筆畫をかゝせたいものである。

製作 おもちや屋

年少組第二回目の誘導保育案である

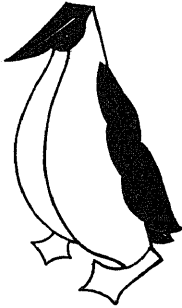
鳥のおもちや 二回

ペンギン鳥、ベリカン、なぎ形の面白いもの、或はヒョコ、ハトなぎミよく幼兒に親しみのある鳥なぎの簡単なものなるべく立體的につくつて、車で引く様にするか立たせるやうにつくる。その一例としてペンギン鳥のせておく

第五週

自由畫 二回

この週も毛筆でかかせる事をつゞけ



る。同じ自由畫でも二三人は毛筆でお部屋の片隅に靜かに畫く様にし、他の大勢は一かたまり、或は數團になりてクレヨン畫をかくのでもよい。

粘土、自在 一回

製作 おもちややつき 三回

魚つりおもちや

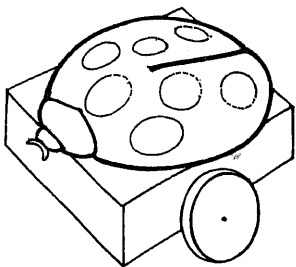
第一期のお魚の小さいのをつくり、空箱の内部を水色なごの模造紙ではり、その内にお魚を入れてヒゴのさきにつり針をつけたのをそへておく。

日の丸の國旗

白の模造紙或は半紙を臺紙にして、赤の模造紙を丸くきりぬきはりつける。竹のごく細いものを竿にする。

てんさう蟲

てんさう蟲の形を畫用紙に形ざりその羽の模様、(斑點の數)地



色の赤黒は幼児のこのみにして、クレヨンで畫かせる。

これを一センチ半位の浅い箱にのせて兩方へ二つの車をつけて前に絲をつけてひく様にする。

第六週

自由畫 一回

松茸の出る時節であるから出来だけ實物を見せたり傘のひらいたものや、まだひらかないものなごこりませて用意して、これを見ながらかゝせる。

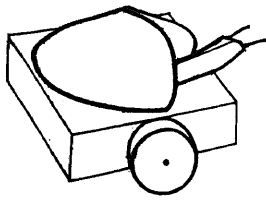
粘土 一回

自由畫のまきによく觀察が出来てゐる筈であるから容易に出来る。乾けば茶色の泥繪具でぬる。

製作 おもちややつゞき

人形 花子さん

人形の形をボール紙を心にして少しかたくつくる。大體の形はつくつて眼鼻などは幼児にかゝせてもよい。畫用紙に模様をかいて洋服や着物をつくつたり、



千代紙でつくつたりする。

でんく 蟲車

でんく 蟲同様にでんく 蟲を畫きそれに觸角なごつけ、箱の浅いものゝ上にのせて兩方に車をつけてひく様にする。

第七週

自由畫 一回

毛筆にて畫くこみをつゞけるだんくくに毛筆畫が出来てくるからお部屋にはつて觀賞する。

ぬりゑ 一回

ハツカダイコン、これはその名の通り早く出来るから幼稚園に植ゑておくこよい。實物を見ながらぬり、あまは おまゝここの材料にして遊べる。

製作 おもちややつゞき 一回

首かざり

麥わらに花、蝶なごの型をつなぎ合せて首かざりにしてもよいし、又輪つなぎ、じゆず玉、梧桐の實なごをつなぎ合せて首かざりにしてもよい。

こま

年少組のごく始めの材料として説明してあるのではぶく

第八週

自由畫 一回

魚の繪をかくために出来るだけ魚の繪をあつめて幼児にみせる。この日はみるだけでもよい。

鋏仕事

この時期にはコスモスは切り花としてお部屋のかざり、或は庭にもあることなればよく幼児の眼にふれてゐるがあらためて花數輪を花瓶などにさしてみながら鋏をまらせるまよい。この頃には糊も幼児自身につけさせてはらせる。

粘土 一回

お魚

この週のはじめに魚の繪の觀賞あり幼児の魚に對する大體の觀察も出來てゐるのであるからごく簡單なものあまり大きくないものをつくる。大なものとはこはれやすい。乾かして繪具をぬる。

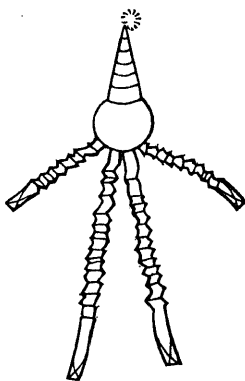
ぬりゑ 一回

飛行機

製作 おもちやつつき

ピエロ人形

畫用紙で直徑二センチ位の圓の顔にする。これに組紙なごのあつき色がみにて手足をつけ、帽子をかぶせる。



年長組、第二保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第四週

人の話をよく聞きこるこゝは、實用から言つても、禮儀から言つても、極めて大切なこゝである。しかも、その癖が往々にして缺けてゐる。所謂うはの空さいふ程ではなくとも、しつかり人の話に耳を傾けないのである。非常な惡癖であり、下品極まるこゝである。ひゞり差向ひの時は勿論、大勢で集つていつしよに話を聞いてゐる時でも同じである。その人の目をぢつとよく見つめながら、しつかり聞きこるやうに、いつの場合でもしつきたい。かういふ訓練は、すれば誰れにでも出来るこゝであるし、心もちさへそうならば態度も自然そうなるこゝであるから、充分嚴重に行はれていゝこゝである。訓練の中には、相當子さ

の氣もちになつて、思ひやりからお手やわらかに出たいこゝがあるが、かういふ種類のこゝは手加減なく、しつかり實施したい。子さもだからさいつて、ゆるせない心の不作法だからである。それは、先生に對しての場合のみでなく、友達同志の間でも同じである。假りに目下に居るものに對しても同じである。

たゞし、これは小さい聲でそうさ申すこゝだが、子さもが一々そう眞面目に聞き取つて呉れるこゝになるさ、その顔に對しても、つまらない話は出来ないこゝになる。

第五週

登園前及び歸宅後の家庭での挨拶のいろくを教へるこゝも、今までだつてしてゐたこゝであらうが、念のため

要である。家庭でも教へてゐるに相違ないが、幼稚園で先生からいはれたことは、親のいひつけよりもよく守ります。親の方でいつもいふのであるから、手傳ひの意味で訓練したい。但しかういふことをする時、餘り叮嚀過ぎる言葉使ひなき教へて、形式に流れてはいけない。作法教授にさうもさういふ弊があつて困るのであるが、要は氣もちの訓練であるから、言葉使ひなきは、なるべく單純に子ぎもらしいのがいゝ。父上さま母上さま、私儀幼稚園に登城仕るで御座ります、まさかさいふ人もあるかも知れないが、お行儀々々で凝り出すと、ついこんな具合にならないことも限らない。お早うで澤山なのをお早う御座いますと無理に言はせやうとするのが、もう即ちそれだ。

それから、かういふ訓練に就ては、家庭の方をよく打ち合はせて置かなければならない。折角く子ぎもが、行つて参りますと頭を下げた時、おや御叮嚀だねとか、アハ、、、そんな口上きこで覺えて來たね、なんかミ言はれたらぶちこわしである。幼稚園で習つたのかね、感心々々。なんかは、からかひよりは、譯だが、全く餘計なことだ。子ぎ

もが折角く言ふ挨拶には、こつちも正しく挨拶を以て應待する外あるべからざることではないか。そこらも、豫め打ち合はせてないで、つい行き違ふであらう。

第六週

第七週

生活に中止ない限り、生活訓練にも中止なし。

第八週

自分製作品に對して、子ぎもはさういふ態度をこるべきか。——他人の製作品に對しては、そまつに見、そまつに扱ひ、況んや悪口をいつたりしないことは分りきつた心かげである。たゞ、さうもさういふことが多いいもので、つい、けなしたりする。子ぎの場合、大人の場合のやうに深い心からのことでないが、さうした態度が快心を與へるやうな癖がついてはならない。子ぎもだからさういふ、人の製作品に對する敬意はもつていゝ。必ずさうあらせなければならぬ。ところで、この訓練のために何より有效で、何より必要なことは、先生がいつも斯ういふ態度を以

て、幼児の製作品は勿論、一切のものに對するこゝである。これつまりらないのね。へたくそね。なんていふ辛辣な言葉が一度でも先生の口から出るのを聞いたら、こりや痛快だし、子どもの心はいらぬ味を覺へて仕舞ふであらう。

さて、こゝろで、今度は自分の製作品に對する態度であるが、これは、大人の場合こちこ違つて、そうく謙遜し、つまらないもので御座いましたか、お恥しい次第で御座りましたか、そんな態度をこつては却つて子どもらしくないであらう。あんまり自慢高慢も無邪氣過ぎると思ふが、七分の自慢、三分のきまりわるさこいつたこゝろが子どもらしい自然であらう。子どもの性質によるこゝで、一概には

誘導保育

第四週

敷物つゞき、粹ぬひ、かなり大きい布地に、みんなで六周りの枠縫をせねばならないので、今週一杯は充分かゝる。

男兒も女兒も殆んど残らずに參與した。

いへないが、自ら輕んじさせる風は決していゝこいへない。殊に實際の取扱ひに於て、自分の製作品だからこいつて、無暗に捨てたり、破いたり、こわしたりするやうなこゝはよろしくない。それは作法的でないこゝいふよりも、心のすさみを思はせるこゝ、又心をすさませてゆくこゝで、堅く注意したい。

この問題は、またゆつくり研究して見たいとも思ひますが、皆さんも是非充分によく考へて見て下さい。形でなく、ほんこゝに心持ちの問題として、幼稚園訓練問題中、恐らく最も意義深く味はひ豊かな問題こいつていゝでせう。

果物模様ぬひひ込み、果物の輪廓をそれ／＼の色の布地に

描かせて切り抜き、之をズックに布ごみ縫込むのである。

前週に種類、大きさの大體の概念をつけて置いたので無駄なく出来る。模様は、大人がズックに假縫をしてやつて

おく。布ごみ縫込む仕事ではあるし、ズックも相當の大きさなので子供の手におへない場合が澤山あるので、布を持つてやるさか、糸のもつれを直してやるさか、細々の注意を拂はねばならない。縫込みには毛糸を用ゐた。布ごみも色を用ゐた。配合のいゝ異つた色を用ゐる方がすつこ引き立つのであらうけれど、澤山の果物の種類があるし、それの全體のうつりのいゝ糸を選ぶのは仲々六ヶ敷いので、却つて無難な方がいゝと思つて。

額 之も前週下繪を描かせてあるので、その多くの中から額にふさはしい、殊にこの人形のお家の額にふさはしい繪を選ぶ。この時は、繪の具で彩色した、エンジの洋服を着たお嬢さんの繪が選ばれた。

第五週

敷物つゞき 前週の様にしてつゞけ、この週で出来上らせる。

衝立 繪は前週書いた下圖の中から、衝立の繪としてふさはしい繪柄を選ぶ、この時は秋でもあつたしするので、葉がい頭ミ柿の繪をこれにあてた。この衝立は人形の家ミ

しては、お座敷ミ臺所の間をしきる爲に使はふと思つたので、横二尺五寸縦一尺八寸位衝立を計畫した。紙は片側はクリーム色のラシャ紙、之に葉がい頭を、片側はネズミ色のラシャ紙を用ゐて之に柿の繪を描かしめた。兩側もクレヨンで濃く塗らせ油繪の感じを出させた。

柿は保育實習科の生徒ミ受持保母ミの協同製作。鋸ミシンを思ふ様に使ひ、出来上りを塗つて大人の満足のいく様なものになつてしまつた。

野菜、臺所にミ思つて大根、人蔘、葱、きゃべつ、馬鈴薯、みつば、松茸、茄子、栗等の野菜を作る。大根、人蔘、みつば等は模造紙で、葱、きゃべつ、松茸等はクレールペーパーを用ゐて。馬鈴薯、茄子、栗等は粘土をもつて。作り方は、さういふ風にして等いふ形式を全然超越して、さうにでもして、人蔘に見える様、大根に見える様にミ言つた調子で作り上げた。

第六週

衝立つゞき 今週で仕上げ。

魚介類 之もやはり臺所用にミ思つて拵へた。子供達の

知つてゐるお魚や貝類の名を黒板に書いて置いて。お魚は水族館の時の様の中に綿等を入れて両面を作り、蝦は折紙で折るのを畫用紙で折つて彩色した。貝等は粘土を用ゐた。

鳩時計 ペニヤ板に可愛いらしい鳩時計の輪廓を子供に描いて貰つて大人が鋸ミシンで切つてやつた。松の實をフンドクにしたのは面白い思付きであつた。全體を茶色に彩色して、白の繪具で時間や、時計の針を書く。こんな仕事は皆子供にして貰ふ。

植木鉢カバー、客間の出窓にベコニヤ等の鉢を置くにしても、鉢をむき出しではこいふのでカバーが計畫された。四面の繪は子供に描かせる。彩色して輪廓を焼き繪にする。上にニスを塗つた。四面を太絲で組み合せたり底を入

唱歌遊戯

第四週

唱歌 三回

れたりする事は大人がした。

第七週

鳩時計つゞき

植木鉢カバーつゞき

カーテン、テーブル掛け、クッション、何れも金巾又は天竺の布にクレヨンで繪を描かせた。普通のクレヨンは、色は鮮やかで強烈であるが、變色したり、クレヨンが剝落ちたりするし、ユウゼンクレヨンと言ふのは、一度顯してアイロンをかけるミ、長い間變色はしないが、色が地味で子供にはさうかと思ふし、両方の短所を補ふ良い染料が出てくれるミと思ふ。

兄弟雀(井上武士曲集)

最初の音が低くて少し聲が出しにくい。練習によつてよ

く歌へる様になる。

遊戯 五回

運動會には汽車ポッポ、ひよこ、兄弟雀の三つをする事に定める。

兄弟雀(記事参照)

三人一組で脊の高い順に並ぶ。これは最初から何處でも自由な方向に取扱ふ。三人宛になるのは六ヶ敷い様だけれぎ、AちゃんBちゃんCちゃんの三人はいつでも同じ組ミ云ふ様に、初めから仲間を定めていつもその通りに練習する。大變都合よく出来る。兄弟の雀が、それぐ兄弟さん雀の後を探して飛んで行く所等は殊に嬉しさう。遊戯はいつも圓形で同じ振りをするものだ。きめてしまはないで、運動會にも、ひよこの様に自由表現を主としたもの、兄弟雀の様に自由な方向に進ませるものを取り入れて見た。但し自由な方向にばらばらになつた場合、それが終つた時には合圖によつてすぐに元の圓形に歸れる様に練習する事が必要。運動會當日はグラウンドに線を引きからその上に乗る様にさせる。自由な體形は最後

にするさよい。

第五週

唱歌 一回

お月様さあそぼ(童謡唱歌名曲全集)

お月様さかくれんぼして遊ぶ子供の様子がよく表はれてる。て可愛らしい歌だ。歌ひ易い。

遊戯 五回

お月様さあそぼ(土川五郎氏振)

運動會の練習

年少組と同じ様な注意が必要。

昨年一度運動會の経験もあるこゝまで、練習の時も年少組の間に入つて世話をしてもらふ。

汽車ポッポ兄弟雀は一回宛、ひよこは十回(一曲一回)して(やはり十分以内にする様に)。

兎ミ龜の競争

一、兎組ミ龜組ミに分けて普通のリレーをする。兎は耳のついた鉢巻をし、龜は脊中に龜の甲を(ボール紙で作る)つける。

二、もう一つの方法として、兎組と龜組とそれ／＼圓形を作り、各自の圓周を一人づゝ兎は兩足を揃へてビーン／＼跳ね、龜は四つ這ひに這ひながら競争する。一人が圓を一周するに隣りの人の肩をたゝいて代る。濟んだ者はしやがんで待つに云ふ様にするに大變興味がある。

第六週

運動會練習

豫行演習

運動會

年少組と同様

第七週

唱歌 一回

かけっこ(を)をさなごのうた)

遊戯 一回

今まで運動會、運動會と云つて子供たちの氣持も落付かない。濟んでほつと一息と云ふころ。靜かなものを選

んであつさりすること。

第八週

唱歌 三回

猿蟹合戦

物語り風の歌で相當に長いから、歌詞を黑板に書いて暫く消さないでおく。三回位に分けて歌ふ。

飛行機

輕快に歌ふ様に。

明治節の歌

明治天皇の御事を話した後でも先生が歌つてきかせる。明治節の式場へは年長組だけ出るこゝになつてゐるので、子供たちの知らない歌でも靜肅にきく事が出来る様にした。

遊戯 二回

猿蟹合戦(記事参照)

猿蟹合戦の遊戯をしませうと面白くお話をしておいて、何になりたいか希望をきいた上、めい／＼にお猿、親蟹、子蟹、柿の芽、白、栗、蜂の簡單なお面を作らせる。

番簡單なのは畫用紙に描いて切りぬき紙テープをつけたもの、又はボール紙を切りぬいてゴムテープをつけるかする。お面が出来上るに大喜び。僕は白になる私は芽になりたいた等ミそれ／＼お面をかぶつて早速遊戯にまゐりかか。七人で一組。他の者はその間は見てゐて歌を歌ふ。そうして交代する。さうも進んでお猿のなり手があまりないので、これは元氣な子供にたのんで、代り／＼にしてもらふ事にする。子供たちはお面をかぶつただけで、もう本當に蟹になりきり白になりきつて愉快にするころに、今までの遊戯と違つた樂しさ、嬉しさを感じる。演出遊戯と云つても見せるためのものでなく、子供たちはまごころまでもして樂しむのである。

飛行機(記事参照)

今回文部省の尋常一年の體操要目に加へられたものである。戸倉先生に伺つたところ幼稚園でも決して差支へないとの事。全體を通じて軽いランニングステップで、實に氣持よく出来る。

お互にプロベラー(兩手)がふれ合ふに飛行機が墜落する

こきを話し、墜落しない様に上手に舵をこる様にする。一層面白い。手のふれた者は圓の中央に出て來て、坐つて相手してゐるこき。幾度も繰り返す中に誰れが降りまで落ちないで残るか?

兄弟雀 戸倉ヘル氏振付
井上武士氏曲

準備 三人づゝ組み自由な場所に位置をこる。

前奏

三人前後に並び、兩手を左右にひろげ羽の如く上下に動かし乍ら曲に合はせて前進する。最後の音で兩足揃へてこまる。十一歩進み、十二歩目の足を揃へる。

コーエダ

三人の中先頭は手を腰に、後の二人は前の者の肩に軽く兩手をのせ、三人共そろつて右斜上を見乍ら左足を一步前に出す、體重は前の方にかゝる。

ニーイ

前のまゝの姿勢にて、三人揃つて左斜上を見、右足を一步前に出す。

コーエダ

前と同じ。左足を一步前、右斜上を見る。

ニ

前と同じ。右足一步前、左斜上をみる。

キョウダイ

手は前と同じにて、左足を一步前に出すと同時に先頭は右側から後をふりむき、後の二人の顔をみる。

後の二人はやはり右側からのぞき込む様に前の者の顔をみる。これが同時に行はれる。

スズメガ

前と同じで、右足を一步前に出すと同時に左側から前の者、後の者を見合ふ。

サーン

キョウダイの時と同じ。

バ

スズメガと同じ

ニイサンスズメハオコメズキ

先頭は自由な場所にスキップで喜んで行く。後の二

人は先頭を見送り乍らその場にしゃがみ拍手してゐる。

ナカノスズメハコノミズキ

中の者が先頭の喜んで行つた所にスキップで喜んで行き、先頭の後にしゃがむ、その時残された一番後の者が先頭はしゃがむで拍手してゐる。

オトンボスズメハムシガスキ

残された最後の者が前の二人の行つたところへスキップで行き、前の二人はしゃがむだまゝ拍手してこれを迎へる。

ゲマツテ

先頭だけ両手を左右に羽の如くのばして元氣よく立つ。

サンバガ

中の者が羽をのばして立つ、先頭は前に立つたまゝ、手もそのまゝ。

ナラン

前の二人は立つたまゝ最後の一人が手を横にのばし

て立つ

女

三人揃つて右足の爪先だけ一步後につけ、両手を斜後にのばす。

後奏

前奏と同じ。

猿蟹合戦

準備、猿、大蟹、小蟹、栗、蜂、臼、芽等豫めきめておく、一列に横に並んでゐる。

一、ムカシムカシソノムカシ、カニガオサルニダマサレテ、サルノヒロツタカキノタネ、モツテカヘツテウエマシタ

横にならんだまゝ元氣にうたをうたふ。

二、ハヤクメラダセカキノタネ

芽になつた者が前に出てしやがみ、両手で芽の形を作る、大蟹になつた者は芽の方に目をくばり、相手

しながら芽のまはりを廻る。

ダサヌトハサミデハサミキル

止つて、右手で鋏を作り軽くなつて切る様子をする。

ハヤクキニナレカキノメヨ

前と同じに芽のまはりを拍手しながらまはる。

ナラヌトハサミデハサミキル

やはり同じ指で鋏を作り切る様子をする。他の者は一列に自分の位置に並むだまゝ合唱隊をうたつてゐる

三、ドウダカニサンアノカキハ

猿が前に出て来る。他の者は自分の位置にかへる。

猿は右手にて右上の柿の枝をさす、次に左手にて左上の枝をさす。猿が出て来るに同時に蟹が列の前に猿に向ひ合ひの位置に出て来て猿の動作を見守る。

ミテサヘホガオチソウダ

猿は両手で頬をおさへて顔を左右にうごかす、蟹はこれを見てゐる。

サアサアトツテアゲヨウカ

猿は蟹をおいたまゝスキップで稍々離れたところへ飛んで行く。

オイシイオイシイオイシイナ

猿は夢中になつて柿をたべる様子を、蟹はそれをみてゐる。

四、ソナニヒトリデタベナイデ

蟹は前の位置にしがむだま、猿に向つて右手で招く様子を、

ココヘモヒトツクダサイナ

蟹は先づ右手を掌を上にして差し出し、次に左手をさし出し、次に両手を揃へて上にあげ同時に頭を下げる。

オマヘノヤウナヨハムシハ、カキニウタレテシヌガヨ

イ

蟹は横ばひに猿のミころまで匍つてゆく、猿は蟹を目がけて柿をぶつける様子を、二人共すぐ元の位置に戻る。

五、モシモシカニサンコガニサンナンデソナニナイテ

井ル

小蟹が前に出て来てしやがみ、泣いてゐる、するミ

他の全部(猿も大蟹も)が手をつないで小蟹のまはりをつりまく。

六、カナシイコトニカアサンガカキニウタレテシニマシ

タ

小蟹は立つて皆の者に向ひ話す爲に涙をふく様子を、他の者は周囲にかこむだま、靜かにきいてゐる。

七、ヨシヨシナクナコガニサン

小蟹は又しやがみ泣きつゞける、周囲の者は皆小蟹の傍によつて頭をなでてやる。

ソナサルメハヒトウチニ

小蟹しやがむでゐる、周囲の者は手をこり後にさがる。

コノハチ

皆右足で強く床をつたゞく同時に右手を握つて強く下にのばす。

コノクリ

前と同じ動作を左に行ふ。

コノウスガ

握つた兩手を強く下にのばすこゝしよに腰を半分程
かゞめすぐ又のばす。

カタキヲウツテアゲマセウ

各自、自分のまはりを拍手し乍らまはる。皆圓を解
いて前の位置に戻る。

八、ズドントトビツククリデッパウ

一列に竝んだまゝ前に四歩さぶ、兩足をそろへ、元
氣よくさび出す。

チクリトツキサスハチノヤリ

兩手でやりを持つた様子をし、チクリチクリみつ
きさしながら前にすゝむ

アハテニゲダスカドケチデ

大急ぎで後向きになり自分の元るた位置にスキップ
で歸る。

トウトウカタキヲウチマシタ

拍手しながら自分の周圍をまはり最後に萬歳ミ手を
上にあげる。

ヒコーキ

準備 一列圓形を作る

、ヒコウキヒコウキララララララ

圓周に沿つてすゝむ、兩手をひろげ、翼にして元氣
よく進む。翼ははじめは圓の中心に傾け、次は外側
の方に傾けながらすゝむ。

アタマノマウヘオミヤノマウヘ

圓の中心を向け、すぐに左廻りで自分の周圍を一廻
りする。翼はひろげたまゝ、次にすぐ右廻りで一廻
りする。

ドコカヘイツタ

圓の中心を向き、足ぶみをし乍ら元氣よく拍手する。

二、ヒコウキヒコウキララララララ

一番さ同じ。

ムラカラマチヘ

圓心に向つて宙返りしながら突進する。

マチカラクモヘ

後すざりに宙返りし乍ら元の位置に戻る。

談話

第四週

富士山の話

こゝでは是非富士山の話をしなければならぬ云ふわけでは無いが、四季を通じてこの頃が一番晴れの日が多く、よい機会と思はれる。何かキツカケがある時なら猶よい。

例へば誰れかゞ富士山のこゝを云ひ出すか、又はよく撮れた寫真をか繪があつて、衝立にでも貼つておいて二三日の後さかいふ場合。

元寇

わが國威を輝した外國との戦であるから、勇ましく、話してきかせる。元の國云つても、それが今この國であるかといふことは説明する必要はない。敵は元の名で終始すればいい。日本人の武勇や、神風については、力を入れて話しておいた方がいゝ。

一番と同じ。

犬と雀

これを読んだ時に、犬と友達になつた雀が犬の爲に大そう盡力する。利害を超えて徹底的に犬を助けるのに心を惹かれて、犬が又、いろ／＼の目に遇ふ筋も面白かつたので、こゝへ選んだ。

第八週

天狗と平助

内容は、日本昔話の中にある誰も知つてゐる話である。第五週の雨漏りと同じく、滑稽昔話で、可笑し味の溢れてゐるのが極上のいのちであらう。さうかする馬鹿聲の話のように可笑し味はあつても、いかにも品が悪くて用ひられないものが多いが、その中では内容が無難である。さすがに菊池寛氏が多くの昔話の中から童話讀本の中に採録された所以のものであり、又氏の筆のあらはし方は、吾々の學

ぶによい書き方である。

よく考へて見るミ、先生ミ子供ミが一緒に聲をたて、笑ふミいふ場合は、さう多くあるものでは無い。製作ミか、觀察ミか、遊戯ミかの場合に笑つてはゐられない。まつ談話の折が最もよい機會であらう。何かにつけてユーモアの含まれてゐるのは、すべて事がなめらかに運ばれてよいので、お話の折には内容からでも、又は話方にでもこれを留意しなければならぬと思ふ。

第八週

栗 吟誦

小さな緑の家^{ウチ}があり

小さな緑の家の中に

小さな茶色の家があり

観 察

第四週

小さな茶色の家の中に

小さな黄色の家があり

小さな黄色の家の中に

小さな白い家があり

小さな白い家の中に

小さなころろがあつたさ

これは謎である、片カナで、黒板に書いておいて、みんな一緒に讀んで見る。この頃になるミ、しきりに字を讀みながら、一人で讀んでゐるのも見かける。

謎ミ云つてもたゞこれだけ讀んでゐるのではすぐわからないので、終りに小さく、「タリ」ミ添へ書きしておく。

そして、幾度もこれを繰り返してすつかり覺えてしまつてから、栗の中の小さなころろが何であるかを聞いて見たりする。

ふらふら

他の果實ミ一しよに寫生なごし乍ら比較して觀察させる。

コスモス 年少組参照

第五週

野菜

誘導保育で野菜を作るここからさせる觀察である。花ミか果物は觀察の機會に恵まれるが野菜はそれ程でない。八百屋ごつこなごすれば必然的に出来る觀察であるが、そうでなくミも一度は都會の子供には野菜を手につてみさせ度い。特別珍しいものでなく最も普通なものを。そして食べるこご、結びつけて、ごごをたべるか、(根ミか葉ミか實ミか)何んなにして食べるか等話合ふ。この場合は製作だに寫生させてもよい。

第六週

ダリヤ

菊の觀察の時ミ同時にしてもよい。若しお庭に咲いてるなら球根をほり上げる事を子供ミ一しよにしてダリヤのお芋も觀察させやう。

時計のいろく。

誘導保育で鳩時計をつくる事から時計の觀察をする事になる。年長組のこの頃になれば時刻に關心を持つ子供も多くなるし時計のわかる子供も出て来る。時計の見方は殊更に教へなくても遊びの中に時計をこしらへてその針をうごかして、今何時ミいふ遊びをしてるミ自然によくおぼえられるものである。鳩時計も一種の特別な時計であるが時計では形のいろくちがつたのがあるこは子供達もよく知つてゐる。それで子供達の知つてゐる時計を書かせて見る。お家にどんな時計があるかみていらつしやいミ豫め言つて置いてか、せるのもよい。又幼稚園の中にある時計を順にみて廻る。そして比較觀察させる。若しも子供達の中にづくり度いミいふものがあれば、文字板ミ針だけの時計をボール紙でつくらせるのも面白いおもちやミなるであらう。

第七週

草花のたね

春の種まきミ秋の取入れは一對の連絡ある仕事である。

春まいて伸びるのを見、花を樂しみ、結實を知ればたねを取るのには當然のこゝみである。子供達はその各々が新しく別な經驗であるにしてもそこには仕事として連絡のあるこゝみであつて全然別のこゝみをしてゐるのではないのである。コスモスにしても朝顔にしても、今は取入れを待つてゐる。

午前中一ぱいをお部屋での仕事に過した日の午後なご、みんながお庭に出て取入れをしよう。それには豫め小さな箱なり、袋なり數種用意し、取つた種子を別々に分けて入れる様にする。取る時、種子の入り方をみせて置き、きり方を注意する。そして草の名と種子の形を結びつけて見させ、各々の形を比較させる。全部取入れられたら後の草の始末も一しよにしよう。そして片附けが済んだら各々の種子がいくつ取れたかを數へる。松葉牡丹の様な細い種子は出來ないけれど、朝顔やコスモスの様なものは出來る。朝顔は一つ果實に種子がいくつかを取る度に數へさせるこゝみ、以下の數の比較をさせる事が出來る。あんまり數多く四十五十になる場合は勿論先生が主になつて數へるのである。斯うして數へたものは少しを幼稚園に残しみんなで分けて

もつて歸るのも子供達にしては大きな喜びであらう。

稻と米

稻を知らない都會の子供が可成りある。御飯になつたものでなければお米も知らない子供があるかも知れない。理科教授的に皆お米の出來る草をいきなり持出すのもさうであらうか。これも話合ひの間に計劃して觀察させるこゝみであらう。月曜日の朝なご、折から秋晴れの野山をハイイクするによい頃であるから日曜日のこゝみなご話し乍ら「先生はきのふ……」といふ様に、一本の穂をつけた稻をみせて穂を見せ、中のお米をみせ、玄米と白米を手短かに、この中の黒っぽいお米は皮をかぶつてゐてかたいからこの皮をこつてみんなのたべられる様な白いお米にするといふ事を白米と比較して見せて話す。こんなのも一つの方法であらうと思ふ。序にいなごなきもみせてもよい。

建築中の建物、起重機の昇降

ぐつと異つた趣をもつ觀察材料である。機械時代に生れた子供達、都會の子供なら一層機械に興味をもつてゐる。

これは附屬高女の校舎を建築してゐたので近くに全くよい場所があつたわけである。一日中ガラ／＼大きな音をたて、昇降する起重機はうるさいといへばそれ迄であるがみてゐるに建設の雄々しい力強さが迫つて感じられて来る。大きな鐵骨が不格好に荒つぽくたてられてゐるのが次第にセメントをつめられて建物が形づくられて行く。これを仕事の邪魔にならぬ様な位置で時々子供達を一しよに見

手 技

第四週

自由畫 誘導保育案による人形の家の額の畫をかく

鉄仕事 一回

コスモス 年少組にもこの材料にて鉄仕事をしたが年長組にしてそれよりも、稍々細かく花の數、葉の數なども多くする。

製作 人形の家のつゞき

數物 前週のものつゞき 四回

る事は口に言へない近代的な息吹を感じるものである。こんな時は言葉少なく唯見てゐる丈けでよい。質問に確實に答へられる様な用意があつて問ふた事に答へてやる丈けで説明は殊更にしない方がよいと思ふ。

自然觀察とは別な意味をもつた斯うした物といふよりうごき、情景の觀察を機會ある毎につかまへてさせ度いものである。

果物の下繪だけ出来上りその上に別の布に各種果物をつくりて大きな數物の布にぬいつける。一の數物でも大きなテールの上のせて四方から仕事をするわけである男女兒入りまちつて、ぬつてもよいし又女兒だけでもよい。

第五週

自由畫 三回

衝立の畫用としてかゝせる、額の畫なき、同じ幼児の作品にならないやう、又材料なきもなるべく異なつたもの

を選んで畫かせるやうにする。額、衝立なぎ、大きなものを畫く時はクレヨン畫よりも毛筆にて線がきをし、繪具で彩色した方が出来ばへがする。

粘土

自在 自由製作として幼児の好むものをつくらせる。

製作 つゞき 四回

敷物のつゞき

臺所用野菜づくり

大根

白の模造紙に綿を心に入れて大根をつくり、みぎりの色模造紙などで葉をつくる。はじめは出来るだけ簡單なものを保姆がつくつてみせて、後で幼児にさせる方法をこつて見る。

人蔘は大根と同様なつくり方で色だけかへてつくるこよい。

栗は粘土でつくつて乾かして色をつける。

第六週

製作 人形の家のつゞき

衝立

衝立は保姆と幼児との共同製作として木でつくる。新らし木片でもよいし、木の空箱をくずしてつくつてもよい。あみでマンローなぎの塗料でぬる。

魚介類

おもちややの魚つりよりもずつと大きくお魚をつくる。かに、えび、貝なぎもつくられ、ばよい。

植木鉢カバー

木で組み合せてつくり、鉛筆で下繪をかき焼繪なぎにするこ面白。

鳩時計

木でもボールでも三〇センチ前後の箱をもミ、してつくる。この四角の上に屋根をつけ箱の底を時計の字をかくこころにする。筆で123の數字をかき、箱の少し下の方に鳩の首を出す穴をあける。

第七週

人形の家のつゞき

自由畫 四回

カーテン

クッション

テーブル掛け

生金巾なごの様に少し黄色がかつたものがよい、それを用布としてクレヨンで幼児に交代に繪をかゝせる。模様風にしてもよいし單に自由畫にしてもよい。洗濯したり、濡れる事もないのであるからクレヨン染の様なものを用ひずとも普通のクレヨンで畫いてよい。

製作 三回

植木鉢カバー つゞき

鳩時計 つゞき

第八週

自由畫 二回

自在 一回

動物畫 一回

動物玩具をつくる準備として幼児と一緒に動物畫を見る

ぬりえ 一回

キキヤウ

製作 二回

ラヂオ

これも鳩時計同様に空箱をもつてつくる。ごく簡單なものでよい。箱の中の機械なごは別につくらなくてよいのである箱がラヂオの箱らしく見えればよいのである。

遊戯の歌と曲

「系統的保育案の實際」の中の遊戯の歌と曲を全部便利に一まごめに致しましたものを筆記代用としてこしらへました。附屬幼稚園にて用ひてをりますが、まごごに重寶でございます。御希望の方には實費金五拾錢にておわけいたします。當協會宛にお申込み下さい(代金引換、但し郵券代用にてもよろし)。

又この夏の講習の折の遊戯曲目、多少残りがございます故御希望の方は御申越下さい(金五拾錢)。

保育案

夏の講習の速記

倉橋惣三

一 保育案の變遷

- (一) 保育案問題のない時代
- (二) 保育案が起つて來る
- (三) 中心統合保育案
- (四) 自由遊戯保育案
- (五) 生産保育案
- (六) コンダクトカリキュラム

二 保育案の立て方

私の本年の問題は「保育案」云ふ事になつて居ります。保育案の問題は幼稚園に於きまして極く大切な事であり、皆様も色々御苦心になつて居る事と思ひますが、今迄もいろいろの場合に於きまして、保育案單獨の題目ではなくとも、屢此の問題に觸れましてお話を申上げました。今回はそれを少しまとめてお話ししたいと思ふのであります。

其處で第一の問題としては、保育案に對する色々の苦勞を言ひますか、研究を言ひますか、試みを言ひますか、保育案云ふものに就て從來、或は今日、色々の考へが行はれてゐます。其事に就て先づ一互り辿つて置き度いと思ふのであり

- (一) 保育案と自由遊戯
- (二) 保育案と實際生活
- (三) 純生活指導から設定保育へ
- (四) 期待效果に就て
- (五) 誘導保育案
- (六) 課程保育案
- (七) 結語

○參照 日本幼稚園協會編「系統的保育案の實際」

ます。

一 保育案の變遷

(一) 保育案問題のない時代

一體この保育案云ふ事は幼稚園の保育に於て、何う云ふ所から苦心され始めたものでせうか。極く初期の時代に於ては餘り問題になつて居なかつたのではないかと思はれます。フレーベル自身、又其後各地に出來ました幼稚園に於ても、勿論色々立案された事はありませうけれども、今日言ふ様な特別な問題としては、苦勞されて居なかつたのではないかと察せられるのであります。之には別に昔は保育案を苦勞しなかつた云ふ事が書いたものがある譯でもありませんけれども、餘りさう云ふ論が出てゐないのであります。即ち幼稚園の事を書きました古い本では今日言ふ所の幼稚園の目的や原理や保育項目その方法云ふ様な事が主に論ぜられて居りまして、保育案云ふ事は餘り書いてありません。之には昔の人がさう云ふ事に就て不用意であつた云ふよりも、別の理由が考へられるのであります。

その理由も色々ありませうが、一つは昔の幼稚園云ふものが極めて規模の小さいものであつた云ふ事が一つであります。幼児の数が少なかつた。その小さい幼稚園に於きましては、先生は別に際立つた立案を用意する事なく、何ミか——何ミかではない、恐らく相當旨く——一日が経過されたてありませう。それから第二の理由としてはフレーベルの残しました方法、即ち今日言ひます所の恩物であるミカ、或は「母ミ子の遊び歌」であるミカ、所謂フレーベルの傳統を其儘、機械的にやつて居りました。此のフレーベルのやり方を傳統的にやつて居つた事がいかか悪いか云ふ問題は兎に角、傳統的ですから立案の苦勞もいらなかつたのです。即ち保育は斯う云ふ事をするんだ云ふ一つの型を子供の方に持つて行

き、極端に言へば子供の方に押付けて行くだけで、済ましたのです。即ち子供の方の事を餘り苦勞しなかつたのです。フレール自身は申す迄もなく子供の方をよく考へ又味はつてその方法が出来て居るのであります。けれどもそれから後の先生は親譲りのやり方であつた。しかも、本當の保育云ふものは子供に保育目的の間に挾つて苦勞する所に行はれて來るのでありまして、皆様の如き幼稚園實際家云ふものは幼稚園の目的に子供の生活そのもの、間に挾つていつも苦勞してお在でになる。中には餘り苦勞なさらぬ、少しも板挟みにならないで私のやうに肥つてお在でになる方もありますが、實際は兩方からギリ／＼に攻め付けられて瘠せる思ひをなさるのが皆様のお役目である。それをフレール先生が斯うやつて居られたから斯うやる云ふ事で行きます場合は、極く素直に言ひますか、樂々して居る言ひませうか、兎に角く子供の方を考へませぬから其處で保育案が問題になつて來ない。幼稚園は斯くの如きものである云ふ定りをやつて居るだけで、保育案の研究がないのであります。之も一つの理由ではないかと思ひます。

それから第三の理由を考へられますものは、今度は子供の方を見るのではなく、子供の生活を見て居ります云ふ云ふ、實に氣樂で面白可笑しく其日を過して居る。其處でその子供の生活があつて云ふ氣樂な、水の流るゝ如く風の動く如く自在に流通して居るものでありますから、それを保育して行くにはその流通の中で、然るべく行當りばつたりでいゝんだ、と言つた様な心持です。誰も少し考へのある人が自分のする事を行當りばつたりでいゝと思ふ筈はないのであります。苟くも保姆先生云ふ様な方が行當りばつたり言ふ様な事で自分の仕事をやつて氣が済む筈がないのであります。何分にも相手の子供があつた通り一寸見る言當りばつたりで暮して居る様に見える。即ち偶然生活の連續言ひますか、さう云ふ風に見えるものでありますから、相手があんなに偶然なならば此方も偶然でいゝんじやないか、云ふ様な考へ方、考へ方云ふよりも心持ちであります。妙な例でありますが所謂漫談云ふものがありますけれども漫談云ふ事は

聞く人が漫然として居る時に漫談をするので、私も若しも皆さんが漫然として聞いて居て下さるならば、氣が向けば聞く：氣が向かなければ眠る：或は外の事を考へる：「それはさう此雨は何うなるだらう」云、私の話とは別に連絡のない態度でお聞きになる云すれば、此方も漫然たる態度でやつて行けば宜しい。皆さんがチャンとお聞き下さる云ふので仕方なく私も順序立ててお話しします。聞く方が順序立てるから言ふ方も順序立てる。それと同じ様に幼稚園の子供が如何にも漫然たる態度で暮して居る云ふ所から保育のやり方云ふものは全然漫然たる態度でやつて行けばいゝんだ。スーッとして行つて、其のあは其の時の風の吹廻し次第。それでも別に濟まぬ譯でもなし、此方も氣も咎めないしそれで一日々々が濟んで行くんだ。こんな風な考へ方々が保育案云ふものを考へさせなかつた第二の理由が思ふのであります。ところでこの漫然たるものに向つて漫然たる態度でやつて行く云ふ無案保育云ふものはその實際に於きましては必ずしも悪いとは限らない。恐らく世の中に一番危険なるものが偶然であつて、一番いゝものも亦偶然の中にあるかも知れない。人間の思案してやつたなんて事はそんなにいゝ事もありませぬが、そんなに悪い事もない。そんなにへまな事もないが非常にいゝ事も少ない。人間の考へた事云ふものは大體いゝにつけ悪いにつけ底の知れたものであります。ところがブラッとして行つて漫然たる子供に漫然としてやつて行く時はこんな素的な思ひ掛けないゝ事が出来るかも知れません。天才保育でも言ふものですか。皆様の中には天才保育を以て任じていらつしやる方も尠なくないと思ふのであります。「なまじつか考へたのではないわよ」「考へない方が案外行くわよ」云ふ様な事で自己を以て天才に任じていらつしやる方もあるかも知れない。ですから昔の方が子供の生活に則して漫然保育案無しでやつて居つた時に、その實際が一夕悉く悪かつた云ふ事ではありません。事實子供の数が少い場合に於きましては、それでも却てよい事が行はれたであらうと思ふのであります。そこで保育案が無かつた時代の保育は悉く悪かつた云ふ事では決してな

いので、保育案が無かつた時代にはそんな理由で無かつたらうに横から眺めて見るだけであります。

(二) 保育案が起つて来る

ところが之に對して保育案云ふものが段々に必要になつて來まして、必要に感ぜられて來ました。皆さんの中にも口を聞けば保育案を何うしたらいいか云ふ事ばかり考へて在らつしやる方もあるかも知れません。ところが、夫れ程保育案の必要をお考になつていらつしやる方に、少々皮肉な言ひ方の様であります。何故貴女はそんなに保育案を必要とお考へになりますか。お尋ねして見たら、黙して答へない方があるかも知れませぬ。黙して答へず云ふ事は餘り失禮な事を言ふミツンミ横をお向きになるのかも知れません。又、「保育案無しに濟むなら、之に越した事はないが『保育案々々々』」皆んなが言ふから私も『保育案々々々』云ふのである。「幼稚園協會で何だか『保育案』云ふ薄つぺらなものを出して皆んながそれを見て居るから流行の浴衣と一緒に、値段も丁度同なし位だから買つて見た」ミ斯う言ふ様な方もあるかも知れない。又中には、御自身保育案の必要を少しも痛感なさらないで、「さう、その案でやるの」なんて言つて人の保育案を一寸寫して見たりして「之でやつておきやあいゝのね」云ふ様なあつさりした方もあるかも知れません。しかし、私は保育案の善惡、つまり云ふ保育案によるべきか云ふよりも、何故保育案云ふものが必要なのか、云ふ事の方が先づ先きの問題ではないでせうか。そこで「何故保育案が必要なのか」云ふ事を理論的に論じてゆくのもいゝでせうが、それよりも先づ「何故保育案云ふものが段々求められる様になつて來たか」云ふ事實に就て、その來歴を辿りながら此の問題を考へるのも意味のある事ではないかと思ふのであります。

(三) 中心統合保育案

さて、私達の知つて居ります限りでは、保育案ニ云ふものが初めて一つのしつかりした問題にされましたのは、アメリカに於いてヘルバルトの教育學説が幼稚園の方に影響をした頃からであるを考へるのであります。勿論その以前にもそれぞれの保姆さんがそれらの保育案を御自身の問題として考へては居られたでせうし、書付けたり覺えを自分の机の前に貼つておいたりされたことはあると思ひますが、幼稚園教育界の一つの問題になる様になりましたのは、ヘルバルトの影響以後の事に見られるのであります。

御承知の様にヘルバルトの教育に及ぼしました顯著なる點は教育の方法ニ云ふものを確かりました秩序立つたものに仕上げたニ云ふ手柄であります。一般教育學の方で教授法ニ云ふ様なものが大變に克明な順序を以て考へられる様になりましたのはヘルバルトの影響であります。即ちヘルバルトはキチン／＼とした形を教育に與へたのであります。このキチンキチンとした形を與へた、丁度茶をたてます立前が斯うして／＼／＼ニ云ふ順序、あゝしなくたつて幾らも茶の立て方があると思ひますが、あゝ云ふ様にやればちやん／＼順序よく行く／＼後の人が決める様になりました。その様に教育ニ云ふものを方法的に組織立て、來たのであります。この組織立てたニ云ふ事が教育の上に非常な進歩を與へたことは確かであります。しかし又多少の害もしました。そのヘルバルトが教育の上に與へました長所、之を非常に禮讚しました時代があつたのであります。その中の一つとして中心統合主義ニ云ふやり方が一般教育の方で大に流行しました。

此中心統合主義ニ云ふものは昔、教育學を學ぶ人は誰でも學んだのであります。今日では皆さんはそんな事は餘り御聞きになつたことのない方が多いかと思ひますが、學校教育に於いて、あの色々の教科の教材ニ云ふものを、何かある一つ

の中心に向つて統合して行く云ふやり方であります。學校で教へられます所の澤山の教材がバラ／＼になつて居てはいかん。之を何さか統合したい。纏め度いと思ふのです。纏めるに就ては互の間にそれ／＼連絡をつけるだけでも多少いゝでせうが、ヘルバルトは一層之をガツチリした纏め方にしたいとして、或る中心教材に向つて統合させようとしたのであります。さてその中心には何課をするか、ヘルバルトとしては凡ゆる知識の中で倫理的の知識が教育上一番大事なものであるに考へて居ますので、統合の中心にも修身課を用ゐました。即ちその中心の教材へ他の教材を丁度太陽系に於ける中心へ色んな星が惹付けられて居ります様に——惹付けさせよう斯う考へた。従つて形こしましては、ある知識へ他の一切の知識が統合せられるといふ組織になつて居るのであります。このヘルバルトの中心統合主義云ふものは實に非常な勢力を以て全世界に普及致しました。其時の世界中の教育者の心持を私は察して見ますと、斯う云ふ氣持じやなかつたらうかと思ふ。吾等は今迄色々の知識を子供に授けて居つた。併しながら如何にも雜然として居つた。全く非系統的漫然たるものであつた。之は甚だ——その次の言葉が大事なんであります——、甚だ物足りない事であつたと思つた。然るに此處に萬有百科の知識を子供に授けるに就て、一つ／＼中心に統合して授ける云ふ方法が示された。之はわれわれに今まで物足りなかつた事を物足りさせたのである。物足りさせるなんて言葉は日本語にも何處の言葉にもありませんが、之にかく斯う云ふ感じがしたと思ひます。ところで、それはたゞ氣もちですが、私はそれをもう一つ斯う云ふ風に解釋する。教育云ふ事は本當は相手の爲にして居る。言ふ迄もありません。皆様大教育者のお揃ひであります。毎日やつていらつしやる保育全體云ふものを自分の爲にしていらつしやる方はないと思ふのであります。中には健康の爲に一寸幼稚園に行つて來る云ふ方もあるかも知れませぬが、何處迄も教育云ふものは相手の爲にやつて居るのである。之は言ふ迄もありません。併乍ら教育も又人間のして居る事であります限りに於ては、他のためにしながらも自己の手應

へを求め度いのが通有であると思ひます。私は餘りに人に擲られた事はありませんけれども、擲る云ふのは相手を擲る事でありませぬ。けれども時々非常な力でもつて、そんなに力を出さなくも宜からうと思ふ程擲つて居る人を見ます。相手に對して擲つて居るのだらうか、擲り加減云ふものを自己に感じさせて居るのかと思つたりします。又私はさう人に可愛がられた事もないと言ひます。可愛がつて呉れた人に對して相濟みませんけれども、その可愛がつて呉れる人が、私を可愛がつて呉れるばかりでなく、私を可愛がる事を自己に感じる様にやつて居る様に思ふ事もあります。私此處で講義をして居りますのは皆さんに講義をして居るのである事は勿論、私は今朝随分天候が悪うございましたから、今日は皆さんお休みかと思ひ、さうしたら私も休まうと思つた。皆さんがお休みの時に之れ(マイクロフォン)に向つて頻に「アー」なんてやる事は……。一々委しくいふまでもなく、皆さんにお話をして居るんですがその實、相當私は私に話をして居る事を見逃し得ません。皆さんへ話して居るんですけれども皆さんにお解り願へばいだけじやなくて自分にこつて心ゆくばかり話したがつてゐる點は可成ある。「もういゝ」を仰有つても、もう一言言はして下さいと言つたりする。斯う云ふ風に、人間のする事は相手の爲にする事でありながら併し自分の爲にする事でもあります。教育云ふものも人間のして居ります事であつた限り、相手の爲にして居る事でもあります。共に、自己への手應へ云ふ事を大變求めるのであります。その程度は性分により多少の違ひはありませうが、中には非常に強く自己徹底を求める性分の人もありませう。

そこで、ヘルバルトが教育の方法を斯う云ふ風に組織立てたのであります。之は相手の爲にさう云ふ風に組織立てたに相違ない。相手に教育がよく徹底する爲に教授段階を立て、教材の中心統合主義を考へたに相違ありません。ヘルバルトは——頭のいゝ人の常にやりさうな事でありまして、——相手の爲になつて居る筈だ、云ふ事は自己を大に物足りさせるのだ。斯うも言へると思ふ。ペスタロッチになります。そんな小さな物足り方を求めずに、子供に向つ

てジツト黙つて居ても、子供に解ればいゝ様なやり方をやつて居つたのでありますが、ヘルバルトはさう云ふ自己への徹底がほしかつたのだこもいへませう。

其處で子供の方から言へば——此處が大事な事であります——之を之で與へ、之を之で教へられて平然として居る。朝顔の話聞いて、其次に花火の話聞き、その次に箱の話聞いて別に矛盾も何にも感じない。朝顔は朝顔、花火は花火で濟んで居る。所が先生の方が頭がいゝ爲に、その朝顔と花火と箱とを何と斯う纏まりを付けなければ自分の頭が承知しない。つまり三題漸に仕組みあげないで物足りない。其處で今、朝顔の話、花火の話、箱の話、共に開くものである、何か何と云つて纏まりをつけようとするのであります。しかも、いづれも開くものであるぞ、と言つたつて朝顔は朝顔、花火は花火、箱は箱なんです、此方だけのシステムが立つて居るような氣がする。此方の満足がある。この中心統合主義はヘルバルトの様な偉い頭にまつて非常に溜飲の下る事であるに相違ない。このやり方を教へられた世界教育者が——何かに實はそれ／＼餘りいゝ頭じゃなくて長い間、星は星、花火は花火、朝顔は朝顔と子供同様にやつて居た人なんですけれど——此頭のいゝ人の話を聞きます、即ち此處迄組織立てられて見る、今迄やつて居た事が物足りなくなつて来る。其處でヘルバルトのこの考に教育界全體が支配されて、實にまあ凡ゆる教科をこんな風に組織立てたのであります。之が幼稚園の方へも影響して來ました。私は小學校でさへも餘りに之はわざ／＼しき組織立て方だ感じるんですけれど、せめて小學校の所ならば未だ宜かつたと思ひますが、幼稚園迄もつて來て了つたので困る。其處でアメリカの幼稚園教育者がヘルバルトの影響で中心統合主義保育案と云ふものを作り出したのであります。この中心統合主義保育案と云ふものを説きまして何處の幼稚園でもさう云ふ事をやり出した。今迄は子供の其時の興味に懇へ、其子の興味に懇へて保育をして居つた人が、新たにこの組織興味によつて保育をする様になつたのであります。さて、この中心統合主義保

育案云ふものを此處で全體的に批評しようとは思ひませぬが、斯う云ふ事だけ茲で見度い。即ち幼稚園の先生が漫然と其時の興味に即してやつて居つたのが、何か其所に或立案的なものがあつたならば……考へ出した事はこの新保育案の功績であります。保育案としての内容の功績じやない。斯う云ふ事を考へさせ出して來たこの功績であります。けれども、漫然はいかぬ考へたのに對して、漫然の反對は何でもかんでも中心統合主義だこいつに固めて了つたのは、誠に頑固な狹隘な話であります。ですからこの中心統合主義云ふものは斯う云ふ風な事を氣にし始めさせた事に就て非常に手柄があり、それに拘泥させて來た事には非常な弊害が伴つたのであります。その中心統合主義がさう云ふ風な意味で一時期非常に行はれて、保育案と言へば盡くこれであつた時代もあるのであります。所がこの中心統合主義保育案云ふものは今日では皆様が直にお心付きになります如く、組織は理窟的には大變うまく行つて居りますけれども、これ／＼の一つ一つ云ふものは實に獨立性を失つて了ふ。子供が自由なる生活を、あの新鮮なる興味を以てやつて居ります。その一つ一つの興味に就て少しも認めなくなつて了ふ譯であります。但し、昨晚一昨晚あたりは、色々な事は一切大事じやないのでありまして、なんでも皆防空へ統合して居る。防空に關係のある事であれば問題でないのであります。或は何か身體の悪い人が養生で物を食つて居る云ふ時には矢張り斯う云ふ形になります。何を食ふにしても胃の爲になるか云ふ事で、汁粉を見ても胃袋に統合させぬから食ひたくない。そんな不味いものでも、胃の爲にいつから食へたい。斯う云ふ事になるのでありまして、統合そのこゝにも理窟はあるが、一つ／＼の興味としては獨立の自由云ふものが無視されつちまふ。即ち、先生の組織慾に對しては誠に大きな満足を與へるでありませうが、子供の自然なる生活に對して、果して適切であるか云ふ事は疑問であります。そこで中心統合主義云ふものが、若しも、餘り強烈でなく、餘りいつ／＼なく、餘り機械的でなく行はれましたらそれ程缺點が出来ないかも知れませんが、この調子でぐんぐんやつて行きますこ

子供の生活は——極言すれば、死んで了ふのであります。斯う云ふ事で、中心統合主義保育案が盛になるにつれて、大切な子供の生活が殺されて行く危険が起つたのであります。

(四) 自由遊戯保育案

そこでその反動を起つて來ましたものが「自由遊戯保育案」であります。この自由遊戯保育案は今お話しした事で既に分つて居ります様な工合に、中心統合保育案云ふものが子供の自由、新鮮なる興味を輕視して、それに即してゆくよりも、先生の組織慾に即してゆくこゝの反動ですから、自由遊戯保育案云ふものは只管子供の方につくのであります。先生の組織で保育案を立て、行くのは不可ぬ、子供の自由遊びのまゝでやつて行くのがいゝのである云ふ立て方であり、我國でも自由遊戯主義云ふ名前でも屢々言はれますが、これがアメリカで起りました順序は我國の行き方は少し違つて居りまして、我國では、教育全體の中に自由云ふ感じが非常に強く起つて來た後、斯うなつたのであります。アメリカの場合に於ては寧ろこの中心統合主義の組織過度なるに對して反動的に起つたのであります。一種の反逆性をもつて起つたと言つてもいゝ位のものであります。實際の事實としては、この自由遊戯保育案云ふのはこれを理論的に基礎づけましたものはスタンレーホール一派の人でありましたが、その以前之れを考へたのはカリフォルニアの若い保母さんの、子ぎもに即せる體驗からだつたのであります。

斯う云ふ順序で、保育案云ふものはたつたこれだけの事に就きましても、實に大きなでんぐり返りをやつて居るのであります。何にもなかつた……所謂保育計畫を持たずしてやつて居りました永い間の漫然保育。多分漫然保育云ふけれども却々一人々々の先生は考へて居つたのかも知れませぬ。又偶然の中に立派な事が行はれて居つたのかも知れませぬが、

兎に角く先生の方に案を立てる云ふ事のなかつたのが、ヘルバルトの影響に依りまして極度の組織主義に變つて來て、それがもう一度極端な反動をして自由遊戯保育案に變つて來たのであります。斯う百八十度の變り方をしたのであります。この自由遊戯保育案が段々行はれて居ります間に第三の傾向が起つて參ります。この第三の傾向は自由遊戯保育案の自然主義的やり方に對してもう一度物足りなくなつて來たのであります。物足りなくなりましたが、中心統合保育案の様な工合に、たゞ自分のやつて居る保育は組織の立つて居るものだ云ふ先生の心持を満足させることにあつて戻りさせよう云ふのでなくして、何か別の方へゆかなくてはなりません。

(五) 生産保育案

ところで、教育も現代の社會的趨勢に伴ふて、實生活に向つて役に立つものでなけりやならぬ云ふ事が大變強くなつて來たのであります。これは社會全體の考へ方云ひましては所謂 pragmatism——實際主義を譯しませうか、さう云ふ思想が大變強く起りまして、それが教育の上にも及び、現實的、實際的な生活云ふものに對して教育が大變に目ざす様になつて來たのであります。その時代でありましたから、自由遊戯主義の物足りなさを、何う云ふころから物足りなく感じたか云いふこと、(組織が立つて居ないから物足りない感ずるよりも)、それがたゞ遊び的に過ぎるじやないか。何の生産性を養ふものでもないじやないか。教育云ふものは人生の實際に向つて、もう少し結びつき、結びつく云いふ程でなくとも、その方を指さなくちやならぬものであるのに、自由遊戯保育は、たゞ自由な興味だけで遊んで居るに過ぎないじやないか。そこで、幼稚園教育を小學校の教育の様に、生活に役立つものにしてしようじやないか……迄考へたのではありませぬけれども、教育全般の傾向を餘り離れて、氣樂な呑氣な興味本位に遊んで居る云ふ丈では物足りない感じ

て来たのであります。そこで幼稚園の中にこの現實性の形を取入れる事は出来まいか考へて、遊びの中ではあるけれども何かを生産させる事にしたら何うであらうかといふことになりました。遊びに云ふ中に色々な種類があるが、生産する形の遊びを主にして行つたら何うか云ふ事になつて来たのであります。これが即ち生産主義保育案、或は産業主義保育案です。かう名をつけるに大變大きな言葉になりますが、さう云ふ名で現されて来たのであります。

その生産保育案の場合に於きましては、例へば幼稚園の色々の項目の中で、何かを造り出す……その造り出す云ふ事が、少し極端でありますけれども丁度世の中の生産場で造つて居る意味合を主にして……今日、手技に云つた様なものも、あれは一種の造り事でありませぬけれども、あつてもつこ、或は芋を煮て食物を拵へるこか或は菓子を拵へるこか何にかさう云ふ事。それももう少し規模を大きくすれば世の中の産業に直ぐなる様な傾向の遊びを重んじて行かうとしたのであります。

さて、以上三つの保育案につき、私はその現れて来た順序に依てお話いたしましたでしたが、次のが現れた時に、前のが必ずしもなくなつて仕舞ふに云ふものではありますまいから、實際は三つがそれぐいゝ加減にませぬにされてゆくのであります。ところで斯う云ふやり方は、段々研究されて居りましたが、其後に至りましてずつと又變つた問題が起つて参りました。即ち、近代に於きまして、小學校の改造はカリクラムの改造から云ふ事で、それが大さう考へられるようになり、それと引つゞいて、幼稚園の方のカリクラムも何うしたら宜らうか云ふ問題が起つて参りました。小學校のカリクラムの論に連れて、幼稚園のカリクラムが起つて来た譯です。それについて、千九百十九年であつたかと思ひますが、アメリカの幼稚園界の有名な人々が命ぜられて、その調査委員會が作られ、幼稚園カリクラムに云ふものを制定したのであります。それ迄は各幼稚園が勝手な事をやつて居つたのを、兎に角、アメリカで——政府に云ふ譯でもありませんが——

委員會でさう云ふものを一つ拵へて見よう云ふ事になつたのです。その委員會で出来ましたカリキュラムを、ずつ以前に、日本幼稚園協會で「米國幼稚園協會保育案」云ふ題で翻譯して出版して置きました。そのカリキュラムでは色々の教材の方を大變に細かく考慮して、即ち今日言ふ所の保育項目の研究を深く致しましたのがこのカリキュラムになつて居るのであります。これは今までのプログラムの方はずつ違つて居りまして、何週に何をやる可きか云ふ、所謂配當ではなく、その保育項目を何う云ふ風な意味でやる可きか、何う云ふ事を狙つて保育項目をやる可きか云ふ教科課程論が大變發達して來たのであります。これが詰り先程申しました三つのプログラムでやつて居りました幼稚園の保育案に對しまして、内容の方はずつミカを盡して來た一つの變化であります。内容の方で力を盡した丈で、餘りプログラムの事は論じて居りませぬ。プログラムの方は内容を論じて居りませぬから、これで補ひがついて來たのであります。所が、この補ひをつけてくれましたけれども、その内容の立て方云ふものが相當これは新しい考して行はれたのではありましたが、れども、少し：何ミ申しませうか、學科的である。所謂カリキュラム云ふ言葉に捉はれたのじやないかと思ひます。教科課程云ふものに基いて、學科的教科的に少しなり過ぎて居る傾きがあるのであります。

その教科的になり過ぎて居りますのに對して更に次の階梯にして起りましたものが、コロムビア大學で試みました所謂コンダクトカリキュラムであります。

(六) コンダクトカリキュラム

このコンダクトカリキュラム云ふのは、千九百十九年に作りましたカリキュラムが餘り學科的で、子供の實際の動き、實生活云つた様なものが取入れられてありませぬ。言ひ換へれば、少し知識的、技術的に偏して居るのであります。

當り前に普段の生活云ふものをこの中に取入れてない。勿論この千九百十九年の委員會も、それを幼稚園として尊重しなかつたのではありませんまいけれども、このカリキュラムの上に表はすに就きましたは、其方の事は餘り論じて居ないのであります。その點に對してコロムビア大學の幼稚園に於ては、さう云ふ文學とか言語とか或は音樂とか云ふ様な色々の知識技術に即します事の他に、或は靴を脱ぎかへるとか帽子を何うするとか外套を何うする、お辨當を何うする、或は楊子を使ふ、手を洗ふ、お庭の掃除をする、即ち日常の仕事動作に重きを置いてカリキュラムを作らなければ幼稚園の生活カリキュラムにはならぬのである云ふ考でこのカリキュラムを作つて居る。この翻譯が大阪市保育會で出来まして、多分フレール館の出版部で賣つて居る筈であります。これは非常に貴重なる材料でありまして、まだ御覽になりませぬければ一應御覽を願ひ度いと思ふのであります。

(七) 結びをつけて

以上お話は極めて粗雑で、保育案の變遷の來歴をざつと辿つたに過ぎませぬが、私は茲で今日の午前の時間の一つの結びを立てたいと思ひます。即ちこの保育案がいゝか悪いかといふ各論の外に、斯くも保育案の工夫が色々こされて居りますのに對し、保育項目の漫然たる羅列で保育をして行く云ふ事は餘りに呑氣なことではないか。長い間吾々の先輩が苦心してやつて來ました保育案の問題に對して、餘りに心ないやり方ではないか云ふ事が一つの結びであります。

それから、以上の色々な變遷にあらはれた、それらの案の長所短所云ふものを批判する時に、吾々の今後作るべき保育案に對して大變いゝ參考を與へられることです。所謂漫然主義ではいかぬ。統合を必要とする。統合を主にすること自由なる生活が殺される。自由なる生活許り生かす云ふ單なる個人的遊びになつて所謂社會生活云ふものがそこに

入つて來ない。所が社會生活を餘り取り入れようとするに遊びの自由さがなくなる。もう一つこれが子供の生活に云ふ方に即して行く工夫はなからうか、斯う云ふことを考へさせられる順序になつて來て居るのであります。

次に又結論の第三として入れて來なければならぬことは、歴史に依て辿りました斯う云ふ保育案の色々の後で、私は何うしても今ではもう漫然保育に云ふ事は出來ないのであります。漫然保育が出來ないと思へば何うしても或立案計畫に云ふものが必要として來る。これが吾々に保育案に云ふものが必要であるに云ふ事を思ひ至らせるものであります。しかもその保育案に云ふものが小學校——小學校も段々變つて來るでありませうが、所謂スクールカリキュラム通りではいかぬので、茲に幼稚園に特別なるものが必要になつて來るに云ふ事を感じるのであります。即ち吾々は子供の生活に即して漫然としてやつて居る丈ではいかぬし、吾々の教へむとする目的に即して學校の様な立案丈ではいかぬし、そこに何うしても幼稚園獨特の保育案に云ふものを作らなければならぬに云ふ事に結論されて來るのです。明日のお話は、こゝから出發します。

二 保育案の立て方

前段は保育案に就て從來の色々な主義を大要歴史的に辿つて見たのであります。

そこでさう云ふ變遷の後を受けまして吾々は保育案に就て何う云ふ風に考へて行くのがいゝであらうか云ふ謂はゞ本論に入る譯であります。前にも一寸申し上げて置きましたが、保育案に云ふものゝ苦心をしないやり方云ふものは要するに保育項目を適當に羅列——私の所謂羅列主義であります。——その羅列した場合に於きましては或はあの色々な保育項目を何う云ふ割合に羅列すべきか云ふ事が一つの問題で、又それを何う云ふ時間的順序に羅列して行く可きか云ふ

事が一つの問題、更にその保育項目の中にあります細目を申しますか、材料の選び方、これも問題であります。そこで羅列主義も雖も相當に苦心さるゝ點もあるのでありますが、私はこの羅列主義を云ふものは如何に苦心されたにしましても、それは此方から與へる事に就ての苦心でありまして、子供の方の生活を云ふものをてんで考へて居ない。勿論保育者自身として子供の生活を無視さる譯でもありませんまいし、又そんな事は出来ないのですが、その保育案の立て方そのものに於ては子供の生活の方は考慮に入つて居ないのであります。丁度、何う云ふものを食べさせようか色々料理をする料理人の様なものであります。料理人は色々なものを適當なる材料、分量、順序に於て提供する事を職掌柄苦心するのでありますが、母親はその料理人の作りましたものを子供の腹加減、或は又子供の其時の食慾、或は子供の趣味を云ふ様な事に然る可く適合させて行く。そこに苦心するのであります。その意味に於て羅列主義保育案は單なる料理獻立である。私は斯うまあ言つて見度い。如何にして子供にその食慾を腹加減を趣味に即して本當の食事、たらしめるか云ふ事は料理獻立の中には少しも入つて居ないのであります。これを苦心するのは母親の問題であります。保母さんは即ち母親の様な位置に於きまして何うしても子供の方を考慮してやらなければならぬ。斯う云ふ事であるにしますれば羅列主義なるものは私は決して保育案を言はる可きものじやない云ふ風に先づはつきり致して置き度いのであります。

(一) 保育案と自由遊戯(生活指導)

そこでその保育案を何う云ふ風に立てるか云ふ事を先づ考へるに於きまして、あの自由遊戯主義保育案を云ふもの、これを先づ私は問題にして見度い。この自由遊戯主義保育案なるものは昨日も申上げた通りヘルバルト流の餘りに拵へ過ぎた形式的保育案に對して反動を起つたものであります。その反動の仕方は何所迄も子供の生活の方に即して行かう

ミする行き方がありますから、そこに今吾々が考へて居ります子供の生活を主にするミ云ふ趣旨に於きましては、この保育案よりもこれが非常にその點に於て意味の深いものを持つて居るのであります。たゞ自由遊戯主義保育案ミ云ふ名前に於てそれで一切をやつて行かうミ云ふ事、言ひ換へれば自由遊戯主義そのものだけで幼稚園保育の計畫の全部を占領させて行かうミ云ふ事に就ては問題が起ると思ひます。ですからあのサンタバルバラの幼稚園の若い保母さんが舊式なやり方に反抗して、共に遊ぶミ云ふ事に於てやり出しましたあの心意氣だけは私達は充分買はなくちやならぬ。その意味に於て自由遊戯ミ云ふ事で保育案の全部を立てようミはしませぬけれども、自由遊戯ミ云ふものが保育案の重要な一部、殊に基礎的部分に取入れられる事はこれは認めなくちやならないと思ふのであります。この點に就て、一般の保育案に於きましては、保育案ミ言へば自由遊戯ミ云ふものは外に出されて居る。殊に羅列主義保育案なるものに於ては料理獻立の仕組の方を主にして居りますから、子供が自分でやります様な事はその中に入つて居ないのであります。即ち保育案ミ云ふものは自由遊戯ミ云ふものは、絶縁して居る程でないミしまして、兎に角主なる考慮の中に入れてあります。これが従來の保育案の一つの形かと思ひます。何處の幼稚園を拜見しましても「保育案は何うしてお出でになりますか」ミ言へば、色ミ御苦心の結果が示されますけれども、其中には自由遊戯は入つて居ないのであります。自由遊戯は自由遊戯で子供のする事、保育案は保育案で先生の企み——計畫、斯う云ふ風に非常にはつきりした線を引いてあるのであります。ミころが、あの自由遊戯主義保育案の苦心を見ますミ、自由遊戯そのもので保育案全體を拵へ様ミする程、兎に角く勇敢に試みて居るのであります。吾々はそこまで勇敢に自由遊戯一天張りでゆかうミはしませぬが、保育案の中に是非これを入れなくちやならないミ云ふ事が一つの主張であります。即ち新しく考慮せられるべき保育案では保育案ミ自由遊戯ミ云ふものが別個のものでない様にする建前が是非採用せらる可きものと思ふのであります。

たゞ此所に問題が起つて参ります事は、成程自由遊戯ミ云ふものを大いに考慮するが、それは何所迄も自由遊戯じやないか。保育案は計畫である。自由遊戯は子供が所謂勝手にする事である。其日、其時、其事の色々な自發的の自由遊戯が始るミして、これを豫め立案して置くミ云ふ事は不可能な話じやないか。又若しも自由遊戯ミ云ふものを立案的に、今日はこの自由遊戯をしる、明日はこの自由遊戯をしるミでも言つたならばこれは自由遊戯そのものでなくなつて了ふのではないか。斯う云ふお説は當然出て來るのであります。

そこで、自由遊戯は保育案の中に取り入れたし。たゞじやない、取入れざるべからず。併し自由遊戯そのものは保育案ミ云つた様な立案的性質ミ違つたものであらう。その關係を何う考へるかミ云ふ事が問題になつて参りますかミ思ふ。これに就きまして色々な事を考へ得るミ思ひますが、第一は子供が自由遊戯をするミは言ひましても、大體に於てさう甚しく思ひ掛けない様な事が子供に依て遊ばれるものでないミ考へていゝかミ思ふのであります。成程指導されて居るのでない。況んや課題されて居るのではない。子供自身は自由にやつて居りますけれども、その自由遊戯なるものが無制限に多種多様にあるのじやない。殊に季節等の關係からその子供達の致します遊ビミ云ふものが凡そは定つて居る……言つては言ひ過ぎるかも知れませんが、或範圍内のものであるかミ思ふのであります。若しさう云ふ事が言ひ得るならば——もう一度繰返します。此方で範圍を定めるのではないが、自由ミ言つたつて子供が幼稚園の中でします自由遊戯ミ云ふものは凡そ大體には定つて居るものじやないか。そうしたらそれを充分に先生が心得て置くミ云ふ事は出来ることです。そこで今日此頃はこんな遊ビをするであらう。去年も大體こんな遊ビを今頃はしたミ云ふ様な見當が先生に立つて居りますならば、これは先生の方から作り出した立案計畫ではありませぬけれども、幼稚園生活に對する先生の用意ミ云ふものにはなつて來るミ思ふのであります。抑々——なんミ言ふミ偉いのであります——保育案たるや立案ミは言ひますが御承

知の通り先生の用意であります。それを必ずきちん／＼子供にさせる云ふ事が主であるよりも、不用意に子供の中に
出て行かない云ふ所に保育案を先生が持つて居る心強さが必要で周到さがある譯であります。若し保育案全體が用意さ
云つた様な意味であるとするならば、子供の自由遊びに對して凡そ見常をつけて置く云ふ事も、これも用意云ふ意味
に於て保育案の性質を帯びて來るものではないかと思ふのであります。吾々が、何か會でもありまして、皆様が私に「さあ
歌でも歌へ」と言つたことを。——何んかすゝめても決して歌はない云ふ見當がついて來ましたし、萬一歌はれたら暑く
てたまらぬ云ふので、さう云ふ事を言ふ人もありませんけれども、「お歌ひなさい、まあ何でもお歌ひなさい」と言つて、
或はピアノを用意し、或は三味線を横へて待つて居る人があつたことを。さあお始めなさい。何でもお始めなさい」と
言ふのですが、それならほん／＼に何でもいゝか言つて見た所で、實は大體見當は定つて居ります。エチオピアの都々逸
を急にやり出すものではない。大抵、時の流行物もありませうし季節柄もありませうし、何でもいゝか言ひ乍ら、實は
いつものおきまりの二つの中の何方かをやるにきまつて居ませう。子供達も自由遊びと言つて放任されて居るが、それは
心的態度に於て放任されて居るので、する事自體に於ては凡そ定つた事をする。その定つた様な事に對し見當がついて居
りますならばそこから先生は色々な事が出来る。即ちその遊びに對して色々な意味に於て用意が出来るのであります。

私は時にこんな事を思ふ。保育案に就て周到嚴密なる計畫を立て、居る先生が、まあ然し此方の思ふ事ばかりやつては
いけないさうだから暫く汝等の自由を許すといつた意味で自由遊びをさせて置いて、その自由遊びを何等先生の用意に結
びつけず全然打ちやり放しにする……これは私は間違だと思ふのであります。サンタバルバラの若い保母さん達は、あの
報告に依て見ますと、今日は子供を連れて海岸に出てマーチをした。或は、何時から何時迄木の實を拾つて遊んだ。云
ふ報告が出て居るのであります。即ち子供がする生活そのまゝの記録の様でありますけれどもその子供がする生活に對し

て先生が何さうまくちやんさ用意をしてあるか云ふ事が感心される。

先生に何等用意がないならば自由遊びを幼稚園で尊重して居る事は言へないのであります。若し今日あたり幼稚園が開かれてゐたらば子供は防空演習の自由遊びをするのでありませう。その防空演習の自由遊びを始めた時に「まあやりなさい。さうせ假想である、何でもやりなさい。時々私はサイレンでも鳴らさうウー」。これはまあ餘程いゝ部でせう。明日は子供が防空演習をするだらう云ふ心構へに於てサイレンの用意がしてあるのです。若しその上先生がマスクをかけてのこに出て行けば大傑作であります。之れは一例ですが、私は、自由遊びを用意を以て迎へる云ふ事は既に立派な保育案の中に入るこさださ考へるのであります。皆さんの中には、用意した以上は何でもかんでもやらせる。用意して置いてそれが用ひられなくてはつまらぬ事である、斯う云ふ風に仰言る方もあるかも知れませぬが、私はさう云ふ譯のものじやないと思ふ。勿論保育案の或部分では用意したものを此方から何かさすべく色々手を盡して行きますやり方もあり、或は自由を尊重する吾々の保育に於きまして、子供に「さあ斯うなさい」云ふ位の心もありますけれど、自由遊び云ふ事に於てさうはなれない。ですから折角さいろいろ用意してゐられたのに何うした風の吹廻しか、今日は全く違つた事を子供が始めるかも知れませぬ。その時私の處に「何うしてくれる」に抗議を申し込んでいらしても私に責任はない。若し間に合ふなら飛んで行つて「君、折角先生が用意して居るんだぜ、何方も自由なら此方をやり給へ」に仲裁しても宜しいがさうもいきません。尙又私は考へるのですが用意がたつた一つだつたら外れる事があるに相違ないに、けれども、用意が一通り充分出来て居たら、これもこれもが無駄になつて、手を空しうして居なければならぬ云ふ事は割合にないのではないかと思ふ。氣の利いたおつかさんが子供にお八つをやる時に——お八つは本當は「何を上げませうか、何が喰べ度いのか？」と言つてやるのが本體である。貰つたカステラがある中は是が非でも「一週間カステラを食へ」になつては、子供は「お

八つだぜ、覗いて御覽、カステラがあるから喰はずんで俺達が喰ひ度いから喰ふのではない。まあ我慢しろよあこ二日間だ」なんてこゝになるかも知れません。カステラはまだ結構ですけれども、母親が衛生お八つを工夫して、じやがいを皮を剥くミ何ミかなくなるとそのまゝ鹽をつけて、しかもボツ／＼ミ熱いのを食べさせるミ澤山食べぬミ云ふ風のは計畫お八つである。それに對し子供が「お母さん一緒にデパートの食堂に行きませうよ、連れて行つて下さいよ」。ミ言ふのでせうか。お母さんは「家に何でもお前の好きなものがあるじやないか」ミいつても、連れてゆけミいふ。何故そう行きたがるかミ言へば、其處のが美味いからではなく、其處ではなんミ食ひ度いものが選べ、れ得るかミ云ふ事でありませう。それが愉快なのです。しかもその自由に選ばれ得る處に行つて子供は何を選ぶでせうか。大體家で食つて居る様なものしか選びませぬ。私達大人は殊によるミまるつきり家で食つた事のない様な變つたものを好奇心で食べるかも知れない。けれども子供があれを選びこれを選んで、結局はいつも家で食べて居る様なものを食べる。「何だねこれならおうちにもあつたじやないか」ミいはれますが、問題はそれを與へられるか、自ら選んで取るかの違であります。それが大きな相違なのです。

そこで自由遊びは、自由であるミ云ふ事から、いやに無制限で手もつけられない様に考へるあの考へ方を改めたいのです。そして子供の生活態度ミしては自由だが、その品目に就いて豫め此方に見當がつく。つくなら用意が出来るミ考へてゆきたいのです。さてその用意ミは……

(二) 自由遊びに對する用意

一つはその自由遊びに適切なる場所を用意する事であります。幼稚園の場所を、斯う云ふ遊びが流行つて居ればさう云

ふ遊びが出来る様に工夫する。次にその自由遊びに用ひられる所の材料を用意する事、これももごよりであります。今日は何をさせようか云ふ事に就ては大變苦心なさる方が、子供がこんな事をするだらう云ふので材料を用意なすつて居ることは意外に少ないのではないかと思ふ。ところで此の二つは物のこごですから簡單ですが、第三に、子供がやりま
す遊びに就て、先生がその遊び方を充分に用意して置く事、これこそ最も大事なこごであります。私は何時か幼稚園協會
あたりの講習會で、自由遊戯講習會云ふものをやつて見度いと思つて居る。(笑) そこでは、戸倉さんが考案されたあの
立派な體育的藝術的遊戯ではなくして、子ごもが平常してゐる自由遊戯許りする。この講師を誰に頼むべきかは腹案が立
つて居りませぬけれども、その自由遊戯講習の細目を見ますと、ジャンケンボンの仕方、石けりの仕方、かけつこの仕方、
旗取りの仕方、ばつたの捕り方、云ふ風のもの色々やるのであります。皆さんはお笑ひになるが、私はこごいふ講
習が案外必要じやないかと思ふのです。自由遊戯に關する限り先生より子供の方が屢々上手いのであります。「おぎきな
いよ、ばつたは私が取つて上げる」なんと言つて先生が飛出しますが、子供の方がごんなに上手く取るかも知れませぬ。或
はジャンケンするつたつて、皆さんはお上手でせうが、何處かの幼稚園主事の如きはジャンケンが上手く出来ません。私
は子供に本當に自由遊戯の中で遊ぶ。——自由遊戯指導と言へば、自由遊戯の中で或保育をする事直ぐお思ひになりま
すが、——たゞ自由遊戯そのものを子供と一緒にするのも、相當の用意を要するかと思ふのであります。一つの幼稚園
で子供の人氣のある保母さんがあります。その人はきまつて自由遊戯の名人であります。ピアノに合せる調子外れであ
る。むづかしい遊戯をさせるこごごちない。けれども、石けりごなるご何ご夢中であるが、實にさう云ふ先生こそ眞の自
由遊戯生活指導者である。教育的指導云ふ事ご純生活の指導云ふ事ごは少し意味が違ひます。教育者が指導と言ひま
すご、直に教育的効果を引出して來るこごいふ風に考へるのであります。しかし、先生が一枚入つて來る事によつて、

その遊びがずつ面白くなり、ジャンケンにもさう云ふ仕方があるのですか、石けりにもさう云ふ仕方があるのですかといふことで面白くなる。之れこそ立派な指導だと思ふのです。私は幼稚園の子供がいつも同じ様な事を繰返して居るのを見ます、保母さんはもう少しその遊びを指導して、内容を豊にしておやりになる事が出来ないのか、悲しく思ふのであります。ところで、こゝにいふ指導を行つても、決して自由を妨げるものではないと思ふ。今度の石けりは號令でやれ、こゝに云ふ事になつてはいけませぬけれども、石けり遊びそのもの、本質の中に於て先生から「斯うやつて」「こゝに教へて貰ふのは、何も生活の自由を妨げられることではない。決して先生の押つけることじやない。しかも、それでゐて、幼稚園の保育としての立派な用意であると思ふのであります。

(二) 保育案と實際生活(生活訓練)

幼児の生活には自由遊びの外に、實際生活があります。實際生活云ふ言葉は強過ぎますけれども子ごにもこつては實際生活です。幼稚園に這入ります。先づ帽子を脱ぎます。遊戯じやありません。勿論元氣潑潑たる子供が帽子をボンと投げる。前日輕業でも見て來ようものなら帽子脱ぎ自由遊戯云ふものが始まります。しかし兎に角も、帽子を脱いでそれを帽子掛けに掛ける。或は履物を履き換へる、之は本當の必要であります。或は御飯を食へる。此爲にはお辨當を何うする、御湯を何うする、御箸を何うする、色々の實際があります。斯う云ふ風に、幼稚園の中で子供が或必要云ふことに基いてやつて居ります實際生活、之は自由遊戯に對立してゐる所の生活であります。その中にも色々種類があります。此方で必要を課して行つた場合、必要を自身から出て來る場合、併し之をしろ云ふ言はれたからいや／＼する一番自然の實際生活、此方から課した事は少し自然じやない様であります。

のではなくて、其必要を感じてその行動が生れて來るのでありますから、全然の他律的行動は譯が違ひます。其處で色の指導が出来ると思ふ。之を生活訓練と私は名付け度いのであります。生活訓練と云ふ或人は斯う考へる。訓練がしたいのが目的で、訓練をするのに生活の中でやる。斯う云ふ風に考へる人があります。之も立派に成立つ一つの考へ方ではあります。殊に私は大に共鳴する所もある。子供の今やつて居る生活と無關係な訓練といふものは、幼稚園では出来るだけ避け度いと思ふ點です。之は訓練一般論として又別の問題になりますが、成可く今の子供の生活範圍内の事で訓練をしたい。將來市民としての心得を學ばなければならぬ。選舉の稽古をやつて呉れ、なんて事は幼稚園では要らぬ事でありませう。或は女の子に「貴女大きくなつてお母さんになつた時に何うする」なんて事も要らぬ事でありませう。更に高級なる精神的訓練等は幼稚園では、——したい事はしたいが——子供の今の生活と餘りに離れて居る事です。つまり、私は訓練と云ふ問題から考へて見ました時に、成可く、手近の生活の中で出来る訓練がしたいと思ふ。即ち私が生活訓練と云ふ一つの名前を特に提唱致します所以は、訓練の目的で生活を何うする、利用する、斯う云ふ意味がなくて、その生活の中に其生活を生活として完成させることを主にしてゐるからです。訓練は道德目的があつて、道德要素があつて、我國の幼兒は斯くくくくくたるべき事、と云ふ道德目的があつて。夫を生活の中でやつて行かうと云ふ風な方面のことでなく子供の實際生活を見て居りて、子供が如何にも實際生活の必要を感じ、その生活をチャンとした氣持でゐるところに出發するのです。例へばお部屋に這入ります。そのドアを一寸開けて這入ります。その中で仕事をして居る人が居るのに、ドアをバタンと閉めてガラ／＼と馳けて這入つて來た子供は何う云ふ氣持がするか。勿論色んな場合があると思ひますが、斯う云ふ二つの場合を考へませう。自己の目的自己の必要で、何かをお部屋から持出して來たいので、自分の仲間が靜かに晝を書いて居ると云ふ事が眼中に這入らない程熱心に馳けて來て馳けてゆく場合もありませう。さう云ふ

時には私はガタ／＼と馳けて行つた子供に向つて、さう攻めるべきでない様な氣がするのであります。道徳訓練目的から言へば、如何なる時にも靜かに出入し、人の妨害をしない様にすべきであります。が、太郎ちゃんがあんなに一生懸命に外へ遊びに行かうとするのならば、先生はスーツミ迎へてドアの所へ行つて子供を出してやつてドアを閉めてやる。云ふ事をすればいゝので、もう一度やつて御覽、何でも訓練である、出来なければ遊ばせない……。そんなことだミ、子供泣き出して仕舞ふ。「先生ミは私の訓練の爲に私の生活を無視して了ふ。恨めしき人かなミ思ふのであります。しかし又ある場合には子供が急いで馳けて来て又急いで馳け出して行くにも、「御免よミ言つた様な事を言つて行くことがある。その時には訓練が出来ます。其子供の氣持の中には既にその生活自體ミして人を妨げまいミ云ふことが、心の中に仄かに現はれて居るのであります。幽かながら現はれて居るのであります。さう云ふ時にその生活を「あなたさう云ふ時にはドアをチャンミスうすればいゝよ」斯う云ふ事を教へてやれば其處で訓練になつて来る。子も「さうね」ミ言ふでせう。子供自身の生活に這入つて行けたのです。水道を開けて手を洗つて居ます。「ジャー」ミ出る。「先生撥ねるね」「面白いね」。あたりにはねかります。「撥ねるね」なんて言つて居る。子供が聊か困つて居るのを先生が一寸捻つてやる。その時、子供は何も水道の使ひ方を稽古して居るのでなく、實際上撥ねて困つて居るのである。其處の所を「一寸斯うすればいゝじやないの」ミいつた事が先生によつて與へられるのであります。即ち生活そのものゝ中でその生活が完成されて行くのです。道徳目的を先きにして生活を利用してゐるのミは違ひます。自由遊びそのものを本當に豊かに楽しくさせて行く爲に指導してやつた如く、生活を生活ミして完成させて行く爲の色々方法がある譯ミ思ふのであります。又そこに生活訓練ミ云ふものゝ要目も出来て来るのであります。之も子供がいつぎんな生活をするか知らん、ミ言つてゐたらきりがありません。ぬが、幼稚園の中で毎日やつて居ります實際生活は自由遊びよりも更に大體決つた様な事でありませぬ。大體同様な事

をやつて居ります。その同なし様な事をやつて居る中で、先生がその時その時の指導の仕方云ふものは、充分豫め用意出来るものと考へるのです。

此實際生活訓練が、保育案のいろ／＼の中でいへば、一番終ひに擧げましたコンダクトカリキュラムの主旨に似て來ます。似せた譯ではないが、そうなつてゐるを、斯う言つて宜しいかと思ふのであります。

扱てその生活訓練を今言ひました様な意味に解釋しました時に、此處に特に注意して置き度いことは、訓練を外^{そと}からするんじやなくて子供自身の實際生活そのものをチャンさせ、完成させて行くのですから子供はその先生の要求せられる様な事をチャンとする事によつて必ず快感が起るのであります。愉快が起るのであります。この愉快云ふものを充分満したいと思ふのであります。一體さうも訓練云ふ事は苦しい事のように思はれてゐます。苦しくなくては訓練じやない様に思ふ人さへある。勿論お互の様に既に変てこになつてゐるものには訓練は苦しい。しかし、生活が完成されることは苦しいことではない筈です。例へばこの間或外國人と一緒に御飯を食べました。其時にその外國人の小さな坊ちやん。幾つだか年は聞きませぬが、此方で言へば小學校の四年位の子供、その子さもがテーブルについて居りまして、實に何ミチャンミテーブルマナーをやつて居ります。ナフキンの掛方、スーブの吸方からスーミやりまして、小さな聲で話をして、……その子供が實に立派にやる。吾々があの年齢の時にそれが出来なかつた。今も出来ない。さうもあゝ行儀よく、作法的にやれませぬ。それで私愉快かと言へば、まさか不作法が愉快な程に野蠻じやない。野蠻人はそれが愉快でせうがそれ程ではない。しかし、ほんさうに作法正しくしてゐることはなんミなく窮屈で閉口です。所がその子供は樂にやつて居る。樂にやつて居る云ふのは、叱られるからやつて居るのではない。小さい時からやつて居るからさうするるのが愉快なのです。これが吾々の國の子供でありましたらさういかない。さういかないのは、不作法でない事の愉快を

餘りにも知らない譯なのです。つまり、訓練され次第のことです。

子供に齒を磨かせる。含嗽をさせる。その齒を磨かせる時に、衛生上大事である、之をチャンミすれば蟲齒が出来ない。老後もいゝ齒になるといふのでなく、この口の中がモグくするがいゝ氣持になる。さあ氣もちがいゝから致しませう。又、それでこそ、眞に訓練が生活的にされてゐるものといへるでせう。言ひかへれば、吾々が道徳的を氣持がいゝと思つた時に私の生活の中に道徳が沁込んで來たのであります。

(三) 純生活指導から立案保育へ

この後に來るものが所謂先生の計畫の方からして行く所の保育案であります。それは狭い意味での保育案で、廣い意味の保育案は必ずしもこの後の事ばかりでなく、今言ひました様な事をも重要な要素として取入れて置き度いのです。しかも又之だけの事で終つて了つていゝならば、幼稚園云ふものは、實に何と申ませうか、子供の生活が其儘ふわりと行はれるだけの極くならかなものになるかと思ひます。家庭では學齡前の子に對しては、大體斯う云ふ事だけをやつて居るのであります。母が子供の保育をすると言ひました所で別にピアノを弾いて何うするか、臺所の板の間に行つてダンスをするとか云ふ事はないのであります。子供の自由遊びの相手をしてそれで生活を豊富にし、又子供の實際生活に對して、隨時に斯うした方がいゝ、斯うしませう、實際の訓練をする。之が先づ家庭的な場面でありませうところがそれが幼稚園になります。所謂教育者として色んな目的を立てゝ居る。目的は、言換れば、子供に何う云ふ結果を現したいか。その目あてが先生の方にはあるのであります。そして、斯うく云ふ結果を來らし度い云ふ事から、色んな保育項目も選ばれて居ります。あの保育項目云ふものは勿論先生がつくり出したものぢやない。子供の生活を見てその中に

あるものを保育項目として用ひたのである。しかし一寸他の方から申しますと、その子供の生活を見て居て、その中から拾ひ出して来るに云ふだけならば、それだけならば、先程申しました自由遊びの中で吾々が自由遊びの色々なるものを用意するに云ふ事と變りはないのであります、或人は保育項目に云ふものの子供の自由遊びの中にある畫を描く事、歌を歌ふ事、ダンスをする事、それには何處か違ふのですと疑ふ人があります。子供の生活そのものを見て居つて、あれだなと云ふ事に於て保育項目を考へるにすれば、自由遊びの中に於て子供が畫を描いて居る、砂場でものを作つて居る、子供が歌を歌つて居る、それと少しも變りはないのであります。しかも、特に保育項目に云ふものが子供の生活の中から取つて來ただけでなくて、今度それが保育手段として用ひられて來ますには、即ち特に保育項目にされるのには、子供に斯う云ふ結果を來してやり度いと云ふ目的が主になつて來て居るのであります。其目的をもつてそれらの保育項目を選んだのであります。子供が歌を歌つて居るからあゝ一緒に歌を歌はうと云ふのが先程申しました自由遊戯の中で子供と一緒に遊ぶに云ふ事です。しかも唱歌に云ふものを特に保育項目に吾々が立てゝ來ましたのは、子供に情操の陶冶をしてやり度いとか、よき表現方を養つてやり度いとか、或は皆んな揃つて歌ふに云ふ社會的共同的生活をさせ度いとか、それらの目的がありました、そのために選び用ゐられてゐるのです。ですから保育項目そのものゝ眞の實質は自由遊戯の中から取つて來たものに他なりません、それを保育項目として用ゐるて行きますのは、所謂此方から教育者として期待する所のもの先づあり、それを實現すべき手段として、あれがいゝ、之がいゝと云ふ立場からやつてゐるのであります。ですからあの保育項目に云ふものは色々ありますが、そのやつてゐる事が主ではなくて、何時も私が申します通りやつてゐる事が主でなくて、それによつて到達する所の、それによつて成就する所の、それらの教育目的が大事なのであります。若し之れを私の言葉で言ひますならば、期待効果に云ふことが各保育項目の主點になるのです。もう一度繰り返していへば、吾々

の保育項目を何處から持つて來るかと言へば、幼兒の生活界から持つて來たのですが、何故唱歌を持つて來たか、手技を持つて來たか、觀察を持つて來たかと言へばこの期待効果をそれによつて實現し得るからであります。此期待効果のこゝを、昨日申しました一九一九年のアメリカの委員達はアッティンメント云ふ言葉で言つて居るのであります。即ち到達する所のものを意味するのであります、斯うすれば斯うなるこゝいふねらひです。所謂自由遊びを自由遊びとして完成させてやらう。生活を生活として正しく訓練して行かう云ふだけの時には、必ずしもアッティンメントを私考へて居りませぬ。アッティンメントを餘り強く考へるゝ生活その儘でなくなつて來るのであります。ですから今申した通りこの二つに於ては子供の生活に何處迄も即して、それを主にして、徹底的に生活を生活のまゝにしてやらせて行かうとする。それに對し、保育項目ではお互が教育を教育としてある期待効果を期待して居ります。この期待効果に基いて今度やつて行きますものが所謂普通の立案的保育になつて來るのであります。

其處でお互の研究をしましては凡ての期待効果を如何に何う云ふやり方で一番よく満足出來るか云ふその研究が先づ基礎にならなければならぬのであります。

(四) 期待効果に就て

其處で小學校に於きます所の「學科」云ふものには、夫々明かな期待効果がある譯であります。唯小學校の學科の場合に於きましてはその期待効果が、何と言ひませうか、小學校の方では「實質的及び形式的」云ふ言葉を使つて居りますが、其の學科の知識其のものが子供に與へられて行く云ふ事も一つの期待であり、及び其の學科を通して他の一般的精神陶冶の効果も期待されて居るのであります。兎に角期待効果云ふものが凡ての教育に缺く可からざるものである。

所で幼稚園の場合に於きましては、この効果を最も代表して居りますものが即ち「保育項目」である。保育項目云ふものは——もう一度繰返して申しますが——それをこつて来るには子供の自然の生活、恐らく「自由遊び」の中からこつて来たのでありますが、併乍ら何を標準にしてあつたか云ふものを選び来たかと言へば豫め子供を教育するに就て或目的があつたからであります。其目的に基いて選び来ました保育項目云ふものは一つ／＼が夫々特有なる期待効果を持つて居るのであることはいふまでもありません。

其處で或場合には、音樂では音樂それ自身、圖畫では圖畫それ自身、觀察では理科的知識そのもの、云ふ様な事を主にして保育項目を子供に與へる人も昔はあつたのでありますが、今日ではさう云ふ間違ひをする人はないのであります、凡ゆる保育項目云ふものはそれが表面に示して居ります知識の内容よりも、それによつて子供に與へられる色々の精神陶冶の効果を期待して居るものであるといふことは、よく理解されてゐます。又斯くてこそ保育項目云ふものが幼稚園に於て大事なものになつて来るのであります。自由遊びを主にしてやつて居ります時には子供の方で色々な遊びを始め。その遊びの中には夫々色々な効果が期待せられるのでありますけれども、併し之は期待する所あつてその自由遊びをさせて居るのでなくして、その自由遊びの中から色々な効果を導き出して来るのであります。之が自由遊戯の指導の一つの目的であります。この場合或特定の期待効果を以て子供の自由遊戯をさせて行く云ふ事は出来ませぬ。子供が自然に自由にやり始めます遊戯を側から見て居りまして、その中から色々な効果そのものを引出して来ようとする。ですから自由遊戯の場合に於ては効果はその生活の後に生れて来るのを待つて居るのであります、先きへその効果を期待して居る場合ではないといふことになります。

保育項目の場合と同じく遊びの中から取來つた材料に他なりませぬけれども、保育項目そのものゝ元來の成立ちが効果

を期待する事に於て造り出されたものでありますから其處でこの場合は先きへ効果が期待され存在して居るのであり、之が自由遊びも、保育項目を保育項目として子供にもつて来る時違ふ點であります。

幼稚園の保育が皆様の最も熟練したやり方で行はれ、單に熟練して居るのみならずその時の氣合が先生も子供も皆目調子が合つて行きまして、所謂その熟して来る、或は調子が乗つて来る。斯う云ふ場合に於きましては自由遊戯を指導して居る場合も此方で保育項目を與へて行く場合も、横から見て居りましては勿論、やつて居る先生にしても子供にしまして、餘り差別がない情景に達するのでありませう。之は皆さんの始終御経験になつて居る所かと思ふ。皆さんは保育の名人でいらつしやるから、却つて餘り始終で御分りにならないかも知れませんが、その反對の場合を考へて見ますと、皆さんの保育を始終やつておいでになる日々の状態に於て先程申しました調子が旨く乗つて來ない云ふ様な日があるかも知れない——皆様は名人でさう云ふ事はないと思ひますが、——この保育の調子が乗つて來ない云ふのはどんな時かと思ひ想して見ますと、例へば新入園児を取扱つて居る時は子供も皆さんもが慣れて居りませぬから其處で調子が旨く合はな
い。何だかそりが合はぬと言つた様な、何處どこか、ちぐはぐちぐはぐな所があると言つた様な、尠くも流れに沿つてぎん／＼流れて來る
さか、ぎん／＼平らな道を馳けて行く様な滑らかな行き方が行はれない場合がありませう。或は必ずしも新入園児も云ふ
様な場合でなくとも子供の方が非常に疲れて居る、氣分が悪い、云ふ様な時には矢張りその調子が旨く合ひますまいし、
名人が疲れて居る場合にも矢張り調子が合はぬのであります。斯う云ふ御経験はないかも知れませぬけれども、假にまあ
考へて見て頂き度い。「何だか今日は調子が合はぬ」さう云ふ時に限つて妙に保育が悪疲れをするもので、調子にさへ乗つ
て來れば非常に働きましたもさう疲れませぬし、或は自分にも思ひもよらぬ様な事がぎん／＼湧いて來る。ところが、その
所謂調子に乗つて來ない場合、何だか今日の保育は斯うちぐはぐで、何ドクツ處ツに斯う透聞だらけであるさか氣合が乗つて來

ない云ふ様な場合に於ては色々な缺陷が其處に起りませう。その缺陷にいろ／＼ありますが、其の一つは自由遊びを保育云ふものが非常に離れたものになつて了ひます。子供に自由遊びをさせて其中に此方から這入つて行く事、此方から保育項目を云ふものを立てゝおいて子供にはいらせて行く云ふ事、之がちぐはぐの場合に於きましては實に離れ離れのものになつて了ふ。さう云ふ場合に於ては流石の名人も保育項目を極めてぎぢぢないものにしてやられると思ふ。所が調子がぎん／＼乗つて來た場合に於きましては自由遊びを保育項目云ふものはさう區別の立たぬ様な形に於て與へられて了ふ。言換へれば生活の中に融けて行き得るものである筈であります。其の生活の中に融けて行つて、先生の方では保育項目に基いて保育を與へてお出でになりましても、子供の方では全く自由遊びの中の様な氣でそれをやつて了ふ様な工合で滑らかに行くのであります。併し其場合に於て其處迄、渾一に融合つた様な無差別の状態になりましても、自由遊びを保育項目によつてやつて行く自由遊びとは違ひがある。その違ひが先程申しました効果を後から然るべく收めて行くかうとする自由遊戯指導の場合、初めからはつきりした効果を以て臨んで行きますの、やつて居ります當人は何處だか譯らずやつて居りますすけれども、其處に理論上の違ひが何うしても抜き去る事が出来ないものであります。例へば吾々が不斷生活して居ります時に好き勝手な何の氣もない生活をやつて居つて、その中から或る健康の結果を得て來る場合、凡そ豫め健康のあれこれの結果を期待してやつて居ります場合がある。生活の調子が乗つて來れば區別はなくなつて了ふ。結果の爲に、効果の爲にやつて居るのか、自然やつて居るのか解らぬ様になつて來ますが、理論上に於きましては其處に効果が、生活の後に收められるか、効果が生活の先きに先づ期待されて居るか、は、はつきり何處迄行つても區別があるのではありません。

其處で斯う云ふ事を、こんなにグラ／＼と申しますのは保育項目の一つ／＼云ふものは假にどんな上手な與へ方をし

ましても期待効果が先きになつて居るものだ、斯う云ふ事をはつきりして置き度いのであります。

其處でその期待効果が先きになつて居ります保育項目云ふものは恐らくそれだけの教育効果を其處へ生み出し來る爲に最も有效なる保育方法に相違ない。

それに對し私が近年來誘導保育案云ふものを頻りに提唱する。さうするに保育項目の一つ云ふものを少し繼ぎ扱ひする様な趣きもありますが、その保育項目云ふもの、一つは今申しました様に、効果を上げる云ふ意味に於きましては非常な、力がある事なのであります。その保育項目が効果を上げ得る云ふ事、其處の點を強く考へました時に其處から却つて問題が起つて來るのであります。

一つ一つの保育項目が詰らぬものであるから誘導保育案の様なものを考へ出して來るのではなくして、一つ一つの保育項目が非常に強い効果を豫め期待して掛つて居る様なものであるから、其處に問題が起つて來るのであります。

その問題は何う云ふ性質の問題かと言ひますに、保育項目がそれ一つ一つとして與へられました時に於ては餘程調子のよい時でない限りは効果を期待する事が先きになつて居ります。生活の極く自然さ云ふものが損はれる、之が問題である。即ちその一つ一つの保育項目の持つて居ります教育効果の方が本來先きになつて居るものですから、効果云ふ事を先きにしないで生れて來るあの生なまの生活云ふものこそ一致して來ないのであります。之が保育項目を幼稚園に於て極めて大事なものだに承認し乍ら、保育項目に於て問題を生み出して來る基であります。若しも幼稚園教育者が子供の生活云ふ事に就てのその自然さ、言換へれば効果を期待する事なくして始まつて來る生活、それには後からは効果がその中から取得るでありませうが、効果の爲に出來て居るものじやない。一寸妙な例を引きませう。餘り暑いですから涼しい例を引きませう。水道の水云ふものはあればまあ生温いとか、何の彼の言ひますけれども、兎に角水道の水云

ふものは人間の使ふ爲に出て来る。其處であれを捻つて出て来る水、結構な水でありますけれども、其處には何うしても水の用途に云ふ事を先きにして出て居る水だ、云ふ感じがあるのであります。岩清水が自然に岩の間から流れ出て旅人がそれを飲む。云ふ様な時の水は水道の水の質に於て變つたものではありませんが、その岩清水に云ふものはこれに飲ませるに云ふ目的で出て居るのではない。出て居るから飲むだけでその岩清水が實にしんみり涼しい感じを與へる。或は水を入れました冷たい水道の水も味に於て變りはないですけれども、何處に岩清水に違つた所がある。その違つた所があるに云ふのは、水そのもの、性質ではなくして、効果が先きになつて出て来たものか、効果が後から生じて来るものか、云ふその微妙な違ひであります。所で「なあに、咽喉さへ濡ほせばい」云ふ單純なやり方で水を飲んで居る人にはそんな氣持は何等大した問題にしては起つて來ない。けれども若しもその微妙なその味を味はうならば其處に大變な違ひが感ぜられるのであります。岩清水を一度も飲んだ事のない人は水に云ふものは皆鐵管から出るものだと思つて居る。岩清水に云ふものを始終飲みつけて居つた人は同じ水であつても之が鐵管から人間に飲ませる様に運ばれて居るに云ふ事實がその水の味に言ひますか、自然に云ひますか、自由さ言ひますか、生ま／＼しさを失はせませす。製造した水に云ふ譯ではないのですけれども……。

さう云ふ關係が矢張り保育項目にもあるのであります。保育項目は自由なる自然の子供の生活から取つて來たに相違ないけれども、それは期待効果を基として子にも與へるべく用意されて居るものでありますから、水道の水の様なものである。之を先生の方ではそれを氣にしないかも知れませぬ。この先生に云ふのは何事にも期待効果に云ふ事が先きになつて居る様な人々であります。その子供自身の自然生活なんて事を餘り感じない人です。兎に角く教育をして居るんだに云ふ様な場合に於て、先生は保育項目の不自然さに極めて鈍感であり勝ちです。しかも子供の方では必ず、さぞかし、感

じるであらうと思ふ。詰り田舎の人が吾々の家に來まして、さうして、水道の水を氷で冷やして出したとすれば旨いと言つて飲むでせうが、之は鐵管で運ばれた水だと言ふ事を聞いた時に興ざめるかも知れません。それと同様に、子供は保育項目を保育項目として與へられた時に、その位其處の所に妙な感じを起すのではないかと察せられるのであります。

その問題を更に進めて考へて見まするに、保育項目が本來それだけの期待効果を基にして選ばれたものであります爲に、期待効果もそれだけのものを持つて居る。それだけの保育項目がそれだけの期待効果を充分に持つて居る。ところで、それだけの期待効果を充分に持つて居る言ふ事は、その一面としては、部分的と言ひませうか、局所的と言ひませうか、或は分解的と言ひませうか、兎に角全體的全面的ではないことであります。詰り保育項目の一つ一つは、或は注意力を養ふとか、興味力を養ふとか、何か色々の事が擧げられるのでありませうが、之は詰り局所部分的の効果であります。例へて言ひますならば、吾々が或る薬を飲むとしますれば、薬と言ふものは一々特定の期待効果を以て拵へられたものであります。薬にしてその效目無きは薬じやない。即ち彼奴の斯う云ふ所を癒してやらうと云ふのでお醫者さんが拵へられたものであります。其處で薬はそんなに上手に飲ましたつて、そんなに甘くつても期待効果が先きになつて居ると云ふ不自然さを免れません。良き薬は良き薬程、局部的な期待効果が多いのです。即ち風邪の薬、せきの薬、胃の薬、腸の薬、頭痛の薬、或は睡氣覺しの薬——只今之が最も必要の様であります——さう云ふものなのであります。ちゃんこ或る所を拵つて拵へたもので、萬病に效く薬と言ふものは實は藥らしくないのであります。其處で保育項目も先生が保育項目を色色な期待効果に於て工夫してねらひを付けて與へられ、ば與へられる程、その期待効果と言ふものは局部的なものになつて來る。之は免かれない事であります。

ところが、此處に幼稚園或は教育全體と言つてもいふのでありますが、殊に幼児の場合に於きまして、さうした部分的

局部的効果の外に、その子供の生活全體に及ぼす所の大きな効果を期待するこゝがあり、又さう云ふ効果を期待しなければならぬものである事は言ふ迄もないのであります。薬はそれ／＼の健康の缺陷を癒しませうけれども、薬そのものが健康全體をすつゝ増して來る言つた様な事は比較的少ないのじやないか。此頃さう云ふ廣告の出で居る薬もありますけれども、私は毎日飲んで居てもいゝ薬云ふのは薬の部には這入らないと思ふ。始終中喰^{じゅうく}べて居る云ふのは食物と薬の間様のものである云ふ様な感じが致します。さうも薬云ふものはある部分に効いて他の部分に害がある云ふのが多く、それが良い薬の持前ださうであります。他の部分に害がある云ふ様な事がないにしても全體の生活力を増して來る云ふ様な事ではない。又、他の例になります吾々が例へば散歩をしますならば、此處々々が何うなつた云ふのじやなく、健康が全體として増進する。或は非常にいゝ音楽を聞いたとしたらその音楽が耳を癒したとか腸を癒したとか言ふ事はありませんけれども、それによつて全體の生活力が増して來れば生活効果があつたこゝと思ふ。全體的生活効果、つまり、之が保育項目に於ては見られないのであります。而も之をこそ幼稚園教育に於ては非常に大切なこゝとして居るのであります。そして、實際上この二つの點から苦心する譯であります。保育項目は實にいゝものだが、さぞかし子供には不自然的の感じを免かれないであらう。又その一つ／＼の保育項目の課題が局部的には大變にいゝ期待効果を持つて居ても、全面的効果に於ては缺けて居る。之を何うしたらいゝだらうか。斯う云ふ事が當然苦心せられて來るのであります。之を考へない人は保育項目一點張で平氣にやれる。それは幼稚園の中の藥屋さんの様な人で、子供の此處を斯うして／＼斯うして／＼斯う考へる。中にはそんな事すら考へないで、唯保育項目といふものがあるから次々にやるのさ言つてやつて居る人もありませうし、私はぎの保育項目が得意だから言つてそれ許りやつてゐる人もありませうが、それは聊か氣樂く過ぎる話で、大抵は皆所謂保育項目云ふものを期待効果で考へ、それも大切だが、幼稚園教育としては、もつ

大きな、全體的効果を期待しなければならぬことも考へ、この二つの問題を何うしようか、云ふ苦心工夫がそこに生れて來ます。その一つの結果が即ち誘導保育案であります。

(五) 誘導保育案

誘導保育案云ふものに就ては、前にも數回お話した事があると思ひます。今日もそのお話と違つた事を言ふのではない。違つた事を言ふのではないけれども、その説き方は少し違ひます。即ち今までは多く自由遊びの方から段々段々來る順序に基いて誘導保育案を説きました。自由遊びの中にある自己充實であるとか或は充實指導であるとか言ふ事の次の段階として、誘導云ふ問題を説き、さうしてその誘導、即ち自由遊びの誘導から段々熟して來たものとして誘導保育案のお話をしたのであります。それを今日は逆に行つて見ます。保育項目の方を先づ立て、保育の方を主體としてその保育項目を何うして持つて行かうか云ふ行き方として誘導保育案云ふものを見て見ませう。即ち幼稚園の保育法の全體の極く自然な考へ方としては、私は自由遊びから誘導保育案が生れて來る云ふ考が當り前だと思ひますし、又私が誘導保育案云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日は逆に、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐるから云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日逆にして、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐるから云ふものを考へ出したのもそこからだつたのです。それを今日逆にして、皆さんが保育項目を虎の子のやうにしてゐる生活にもつてゆかうか云ふ方から説いて見ます。吾々の保育案が保育案にさういふ態度をこるか云ふ問題として。

其處である期待効果に於て選ばれてゐる各種保育項目を如何にして子供の自然生活に結びつけてゆこうか。あの局部的のものをさう用ゐて、生活に全體的期待効果を實現する様にしようか、云ふ工夫です。

そこで先づ、もう一度よく子供の遊びを見る。子供が彼處でまゝごみをしてゐる。それをジツト見て居ります。その

まゝごこの中に主題がある。テーマがある。その主題を實現して來るのに色々の計畫が行はれて居る。その計畫を實行するのに色々の材料が用ひられて居る。そしてあの通り見事に遊びが楽しまれて居る。所がそれを見て居りますご、じきに止めて了ふ。じきに止めて了ふ所が子供の自由遊びの面白さであります。やり出した以上は何時間やらなきやならぬ、ご云ふのは之は講習の時でありまして、自由な生活ではない。其處でまゝごこ云ふものは何時やめてもいゝのであります。その何時やめてもいゝのをジツト見て居りますご、何時やめてもいゝが、或る時までやつてゐる。しかもまたその中から吾々が強ゐて何か効果を捉へようとするご、じきに止めて了ふ。まゝごこの中から喧嘩が出る。そこに却つて家庭的情景が生きて來たごも皮肉られるかも知れませんが、實はごうぞあの平和なまゝごこ即ち家事遊びをやつて居て貰ひたい。そこで、そこを少々つくろつて、家庭遊びを主題にし、それに計畫をもう少し細かくつけてやる事したらご云ふので、そこで子供の自然の遊びの中から教へられて、誘導保育案が出來て來るのであります。ですから誘導保育案は若し極端に言ひますならば、子供が何の氣もなく唯やつて居ります自由遊びの中の各要素、主題ご計畫ご、及び期待効果ご云ふものを、自然のまゝ以上にはつきりさして來たものであるごもいへます。たゞそこで缺けてゐるのは一定の繼續時間で、之れさへ指導されゝばそれで立派な誘導保育案の特質を具へて來る。ご斯う言つていゝのであります。今日はそれを逆に言つて居るのですが、之はまゝごこから家庭遊びの誘導保育が始まつてくる自然に較べますご少うしベテン性を持つて居ります。少くも少々方法的です。即ち保育項目ご云ふ不自然なものを自然らしくする方法としての工夫なのです。から已むを得ません。之がごうも心苦しいごでもいふか、可笑しな氣持を免かれないのであります。くれごも、一體教育方法ご云ふものは何處かに少々ベテン的なごころがあります。生活の實に自然にして眞實なるに較べるご、ごうもそうです。少くも私達の様に、教育をし乍ら生活めかしくしようと思ふご、ごうしてもそうなるのです。皆様の中で白粉を塗つて居らつ

しやる方があるか何うか。元來お白いんだらうと思ひますが、若し非常にベタ／＼塗つて居る人を見るに、私は實に正直な人だと思ひます。白粉を塗つて居る事をチャンと明らかにしてゐるのですから、この位正直な人はないと思ふ。所が近來の化粧法では塗つてあるを見せずに塗つてありますから吾々は瞞されるのであります。それが御自分でも暑くなつて汗を拭くに地金が出ると言つた様な事もある。ですから幼稚園教育も、保育項目なんだよ。何だらうがやれ。子ごもが何と思はふに、こちらの考へたものを是非やらせると言つた調子でやる。實に正直なのである……。ところが期待効果で拵へたる保育項目をやるのに、それを少しも効果を期待してはゐざるが如く、自然さうに思はせてやるのでありますから、インチキミはれても仕方がない。而も又、そのベテン性を何故敢へてしてまで、私は誘導保育案を説いて來るか。自由遊びの方から説きさへすれば極く自然なのに何故保育項目の方から説くか。之にも一寸譯があるのであります。

その譯は之も私の餘計な思過ぎかと思ひますが、まあ近來御蔭様で——誰の御蔭様か知りませぬが——誘導保育案云ふものがちよい／＼行はれて參る様になつた。誠に御同慶の至りであります。ところが、誘導保育案が段々行はれて來た爲に、あのギゴチない保育項目の露骨な羅列でやつて居つたのにくらべて、幼稚園の生活が極めて自然めかしく、なだらかになつて參りました。これまことによるこばしいのですが、それを見て居て私に又別の苦勞が出て來る。それは誘導保育案の名にかくれて保育項目が留守になつてしまふ傾きのあることです。誘導保育案云ふものは保育項目に自然生活の間に挾つて居る様なもので保育項目そのものゝ期待効果を軽くして丁ひかねない。期待効果を主にして保育項目の方ではゴツ／＼やるし、誘導保育案の方では之は唯主題を與へてそれを何さなく繼續して居ればいゝんだ。さいふ風になつたりする。子供が何をしように、店遊びにさへなれば宜しうござんす。斯う言つた様な調子でやられることになる。之は實に新式誘導保育の様でありますけれども、私達はその中で折角くの保育項目を何う云ふ風に考慮されて居るか、その中に手

技が何う云ふ風に入つて居るか、店遊びへ談話が何う結び付くか、晝が何う結び付くか、斯う言つた様な保育項目のそれの效果に就て、聊かポヤツミして居る様な場合を感ずるのであります。其處では自由遊びの方から出て来た誘導保育案であつたミすれば、まあ之でも宜しいけれども、一體誘導保育案ミ云ふものが保育の設定計畫として立てられて居る。自然的ではあるけれどもちやんこ期待効果を持つてやつて居るものミしますならば、その中に保育項目が旨く含め入れられて居なければならぬのであります。其處で私が若し幼稚園視學になりました皆さんの幼稚園を視察する。さうするミきつミ今に倉橋が来るミ云ふので、急に誘導保育案の形態を作つて下さるかも知れない。歓迎の心持でそういふミきをやつて下さる方もあるかも知れない。「決して保育項目を保育項目ミしてやりはしませぬので、今此處に店を作つて居ります」。こいはれる。まあ誠に結構であります。私は其處で併し斯う聞くでせう。「この誘導保育計畫の中に保育項目が何う配當されて居りますか」。即ち今日今保育項目を主にして誘導保育案を説いて見て居ますのも、もう少し誘導保育案の生活形態が行はれる時に、保育項目がもう少し尊重されて来る事を進め度い譯であります。

そこでその結果ミして、誘導保育ミは各保育項目の詰合せ保育案であるミ云ふ事になつたら困る。もう少し生きて居るものであります。子供の方には呉れなくも項目ミ云ふ意識はなく、従つて各種期待効果でやられて居るミ云ふ意識は全く起させないのでなくてはならない。誘導保育案でやつて居たら側へ行つて「何う云ふ御計畫ですか」ミ言ふ。「まあ斯うやつて店の恰好でも作つて置けば繁昌致しませう。若し賣れなくなつたら止めます」、動物園を造つていらつしやるから「何う云ふ御計畫で行きますか」「色々やらうミ思ふのですけれども一匹や二匹逃げれば逃げたで揃へます」ミ言ふ。これは餘り誘導保育の自然生活形態が主になつてその中に立案保育ミして入れて行かうミする保育項目が軽く扱はれ過ぎて居るミ云ふことになるのであります。その心配から今日は保育項目を先にして誘導保育案を考へたのです。即ち、凡ての誘導保育案

の中には保育項目がされだけちやんこ入つて居るか云ふ事が大事です。たゞ誘導的である云ふ丈では、それは誘導保育案の形、誘導の仕方であつて、保育案なる爲には保育項目がちやんこ入れられてゐなくてはならぬのであります。若し誘導保育案の形の中では、保育項目がきちんきちんまう周到に考へられて居ない云ふれば、これは誘導保育案の名に於てやる單なる自然遊びであります。所謂各期待効果を行き當りばつたりに收めてゆこうとするのであります、自由遊戯指導もちつとも變らないのであります。形はすつかり同じでも、自由遊戯指導とは別の意味に於て誘導保育案云ふものを立てたいものにまつては、そこに多少の差別をはつきりつけて置かなくてはならぬのであります。

斯う云ふ意味で誘導保育案云ふものを保育項目の方から説いて行きます、そこには二つの缺陷がある。その一つは意識的に期待効果が先になつて居るのをカモフラージュしようとするこゝであります。ぼやかして了はうとするこゝであります。それからもう一つは、この保育項目が局部的効果を主にする事になりますので、生活全體の之に効果を期待したい云ふ意味で、それは保育項目別々には別なものが與へられる。これが誘導保育案の一つの性質であります。

(六) 課程保育案

そこで誘導保育案の事その事はもう幾度もお話を致しまして私の本(幼稚園保育法真諦)にも出て居りますから、そこを又申さうとするのじやない。それよりもお話を全く別の方に轉じて参ります。

以上の譯で誘導保育案が所謂保育項目を忠實に取入れて膳立されたならば、それでもう保育案は一應片づく筈です。即ちこの保育案(「系統的保育案の實際」を示して)の書方で言ひますならば、所謂保育設定案の欄には、誘導保育案だけで後は要らないじやないか云ふ論も出ます。この保育案を御覽下さつた方の批評も澤山ありますが、その批評の中で、此の點が

多く出そうです。「自由遊戯、生活訓練の他に保育設定として誘導保育を立てるこいふ意見ならば、それだけにして置くこ徹底的に新しい保育案になるではないか。殊に、誘導保育案に非常に力を入れて説いて居る以上、それで澤山じやないか。それなのに、これを見るこ、矢つ張り課程保育案の名で保育項目一つくがあるじやないか、之れは、唱歌、遊戯、談話、觀察、手技こ、まるで當り前の保育項目の羅列になつて居るじやないか。これは甚だ不徹底なやり方だ。誘導保育案の中でいゝ筈じやないか」。斯う云ふ批評をされる方がありそうです。之れこそ、吾々の考をよく見ての上になさう云ふ疑を持つて下さる批評だこ思ふのであります。何故ならば若し誘導保育案が完全に、保育項目を取入れたこして、尙その上に課程保育案こ云ふものが必要だこ云ふには、充分の説明がなければならぬからです。

これに就て色々な事が理由こして擧げられるのであります、その一つは、子供は所謂生活をするこ云ふ意味に於きまして、生活者であるこ云ふ意味に於きまして、或纏りのついた生活を喜ぶ事勿論でありますがしかし又、さう云ふ生活を生活こして纏つた興味でやつて行くこ云ふ事の一方には、單なる純粹興味こ言ひますか、別に或目的の爲にまこめられてやつて行くこか、計畫こしてやつて行くこか、斯う云ふ爲に斯う云ふ材料を集めてやるこか云ふのでなくして、その一つ々々に一つ々々こして強い興味を持つ事があるのであります。これは子供がこ言ひましたが、子供許りじやない、人間全部にさう云ふ處があります。一面から申しますれば人間の生活は常に生活こして全體的計畫の中に行はれて居る。私が今朝家を出まして此處に參りました。決して此處に來る爲に來たんではなくして、此處に來てお話をする爲に來たので、ましてや家を出て街を歩く爲に來たんじやありません。吾々の忙しい日常の生活は皆譯があつてやつて居るのです。しかしまた、われくはその忙しい生活の中で散歩するのであります。何の爲こなく、何の目的でなく、たゞ歩きたくなつて來る。さう云ふ點が吾々の生活の中にあるのであります。或は又それをもう少し高尚に言ひますならば、一面には商賣こか

政治ミカ産業ミカ云ふ様な生活に於て、一々目的があつて目的に向つて計畫されてやつて行きますが、藝術ミ云ふ様な方になつて來ますミ、別に何ウミ云ふ事なくインスピレーションが出て來て、描きたさに描き、歌ひたさに歌ひ、或はたゞ文學を創作する爲に創作して居るミ云ふ事は、之れ亦矢張り眞實な一つの生活の態度であります。

そこで個々の保育項目は餘りに個々的でありますから、これを全體の綜合の中に入れ込む事に依て生活の形にしようミ言つて誘導保育案を作りましたが、それ許りで押詰めたら子供は政治家であり、實業家になつて了ふのであります。これを一昨日のお話に歸しますミ、保育案の色々の中の比較の後に出ました生産保育案に對する最も手強い攻撃は、子供を餘りさう云ふ目的的生活のもミに教育をするミ、目的から引出される興味ミ云ふ方に許り向つて行つて、子供の本當の生きゝした純粹興味を無視する事ではないか、子供を餘りに生産者にして仕舞つて、藝術家ミ云ふ様な要素を失はせるものじやないかミ云ふ強い批評であります。ミところで、誘導保育案ミ云ふものは必ずしも生産保育案ではないが、お店がある、その爲に品物を作つて並べるミ云ふ事は多分に似たところをもつ。それで誘導保育案許りでは子供は満足し難い。所謂インスピレーションか何ウか知りませぬが、それはそれミして純粹の單一興味でやり度い事がある。何ミなく歌を歌ひ度い。何ミなく遊戯がしたい。何ミなく何か作り度い。さう云ふ生活の一面があるのであります。それで、それを満足さしてやり度いミ云ふのが、保育項目をそれ自體ミして保育案の中に入れて居ります一つの理由であります。

私のお話は實にぐるぐる廻つて居りました。初を言はなければ終ひまで言はなくつて済むのであります。初を言つたから終ひ迄言つて居る。そこで保育案ミ云ふものを立てるに就て、個々の保育項目を尊重する。さうするミ斯う云ふ缺點がある。その與へ方ミして誘導保育案を工夫する。しかも之れだけでは生活の様式がある。この外に、それ自體の活動、或は純粹活動ミ言つても宜しい。これも何處かでさせる機會がなければならぬ。斯ういふ順です。

それからもう一つの理由は、誘導保育案では、所謂誘導云ふ事に重きが置かれてあつて、子供の計畫云ふ生活的の處に重きが置かれてあつて、項目への周到的な注意が軽くなる風もあります。これが可成り注意されても、起りそうなことです。誘導保育案云ふものは保育項目の部分効果以外に、全體的綜合効果を非常に期待して居るのでありますから全體の綜合効果の蔭に、個々の期待効果が押され易いのです。すなはちその綜合保育云ふ所に非常に重きが置かれてありますから、保育項目をちやんさ與へてはありまして、その保育項目一つ一つの期待効果を餘り強くやつて居る譯に行きませぬ所があるのであります。これに餘り強く力を入れるに全體効果が留守になるこいふ心配がある。そこで誘導保育案そのものの中には保育項目をきちん片寄らぬ様に致して置きますけれども、その保育項目の個々の期待効果をもう少し徹底させようとする爲には、これを拔出して何處かでする必要があるのであります。詰り妙な例でありますけれども、誘導保育案は一つの大きな商業の様なものであります。その商業の中の一つ々々の商品云ふものは工場で造られるのであります。そこで簡單な場合には店で造つて賣つて居る云ふ事でありませうが、賣る方が忙しくなつて來るに、部分々々云ふものはそれぐの離れた工場で單獨にやらなければいゝものは出來ない。さう云ふ意味から誘導保育案の中に入つて居る保育項目を、それをもう一度拔出して、誘導保育案の中でやつて居る傍ら、それを拔出して此方でやるのであります。此方でやります事は即ち、個々としての期待効果を徹底させよう云ふのであります。例へば誘導保育案の方でお店屋さんの看板を作るにします。色々な繪を子供が描くであります。その時に看板の繪だから何うでもいゝ云ふ譯じやないですが、看板の繪云ふものはその時の子供の興味で看板らしくなればいゝ。その繪の描き方に就て餘り八釜しく言つて居たならば、それはお店屋遊びでなく看板屋になつて了ひます。そこでその看板云ふ事をそこから拔出して來て、描き方云ふことを別に置くのであります。

この二つの理由が、一方誘導保育案を立て、居り乍ら傍ら、又一方課程保育案を立て、居る所以であります。それで課程保育案を並べてあるのです。勿論若しも非常に理想的な場合を言ひましたならば、課程保育案が誘導保育案の中につきうつみ溶込んでゐながら、而も各保育項目がきちんとく徹底的に各期待効果を遂げ得る様に指導され、それが又更にその誘導保育が子ぎもの生活の方につき這入り込んで自由遊びと一緒になつて来たならば、それこそ實に天國幼稚園、理想幼稚園は斯う云ふのを言ふのであります。けれどもそれをたゞ形だけ真似て、「見て下さいこの自然さ。この自由さを！」と言つても、中味が實はぼやつきして、折角くの期待効果がちやんこ現れて來なければ全體としては甚だ微力なものになります。そこで効果ある保育にしようとするに抜出して來てやらなければならぬし、全體的の形にしようとするに効果がいゝ加減になる。そこに保育案のむづかしい問題があるのであります。

(七) 結語

そこでこの保育案を立てるに就て、若し茲に理想幼稚園の形態をするならば一筆だけで保育案が立ちます。この一本の線の中にすべての保育項目は自ら這入つて居るに云ふ事になつて了ふ。詰り手を舉げて全體がそこに示される様な渾然たるものになるのであります。斯う云ふ事は所謂お話を元にすつかり返しまして、皆さんも、保育が實に調子がうまく行つて居る。何だか今日は自由遊びだつたかしら、訓練して居たかしら、保育項目を何うして居たかしら、そんな事を一々考へる事なく、全體として一つになつて了つてホーッと一日を行はれたに云ふ事になる事を理想とするのであります。これは保育の實際の至境であります。けれどもその至境に云ふものはその時の生活の行き方如何で行くので、名人にして初めて實現するのであります。しかも、それ等を計畫して置くに云ふ意味の保育案では、何ミか分けて行かなければなり

ません。さうして、分けては置き乍ら、一つ々に強い線でしきれないで、分けては置き乍らずつミ連絡させて居る。但し、連絡するミ言つたつて、横にある觀念的連絡を探つて再び中心統合主義に陥らうミするのではないが、ここによつたらこれが一つになつて、この渾然たる至境に行くかも知れぬ様な竝べ方を特に作つて見るのであります。そこでこの計畫を私は系統的だミ言はうミ思ひます。系統的だミ言ふのは、自由遊び何分、それから生活訓練何分、それから誘導保育案何分ミ云ふ事で行くのじやない。出来れば、一つに纏つて了ふ事を可能ならしめる様な方針で系統保育案を立てようミするのであります。(終)

(文責在編輯部)

今月の學校放送の 幼兒の時間

九月二十二日 火曜日

童話劇 どんぐり

鈴蘭子供兒童會

九月二十九日 火曜日

童話 黒馬のお客様

檜山京子

いつの年よりも殿しい暑さがつきます。夏休みもすんで、どちらでも多事な第二保育期を皆様さぞかし張り切つてお迎へのことゝ存じます。夏休みに存分にお蓄へになつた「エネルギー」によつていよゝ御活躍をなさいますことを期待してをります。

×

×

×

今夏の文部省講習、本協會主催講習何れも炎暑の最中、講師諸先生と受講者の何れも熱のあるガツチリした取組みで暑さもむしろ快い程盛なものでありました。この時の御講義を頁數の都合上全部本號に掲載出来ませんでした事は残念であります。順次に筆記をのせる筈でございます。

(編輯部)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズルコトアルヘシ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズルコトアルヘシ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

| | | |
|------|--------|------------|
| 一ヶ月分 | 金參拾五錢 | 特等面一頁二等面一頁 |
| 半年分 | 金貳圓拾錢 | 金貳拾圓金拾圓 |
| 一年分 | 金四圓貳拾錢 | 金拾圓金五圓以下 |
| 拾貳冊送 | 料共 | 金拾圓金五圓以下 |
| 拾貳冊送 | 料共 | 金拾圓金五圓以下 |

廣告

神田區駿河臺ノ三品田廣告社に御申込下さい

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割にて御拂込下さい)
 昭和十一年九月十五日發行
 昭和一十一年九月十五日發行
 幼兒の教育 第三十六卷 第八・九號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 印刷者 柴山 則常
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

發行所

日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を捺捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

著名園稚幼の書圖洋東

好評八版
東京女高師教授
附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生著

四六判美本
口繪多數入
定價二圓五十錢
送料十六錢

幼稚園保育法と眞諦

▲著者は我國保育界の耆宿、本書は現代に於ける最も完備し且系統ある保育理論の幼種園保育法の眞諦を懇述し、秀なる新保育法を載せる多量最良の保育參考書。

【版三】
東京女高師教授
倉橋惣三先生
新庄よし先生
共著

和幼稚園史

判四六頁
價三、八〇
送〇、一八

苦心二十年の結晶完成、日本幼稚園史として比類なし。歴代皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の火記念誌である。

【版三】
東京女高師教授
附屬小學校主事
堀七藏先生著

幼稚園保育の諸問題

判四六頁
價二、八〇
送〇、一六

幼稚園經營並に保育實際に關する理論と實際の諸問題解決。小學校との連絡問題に付懇説。又保育實察に理論付けらる。

【十七版】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際

判三〇頁
價三、〇〇
送〇、一八

保姆檢定唯一の最良參考書、幼稚園書の王。内外の實際古今の理想悉く一卷に收められ、理論的形態完璧にて些の遺憾なし。

【八版】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

保姆教育學

判三二頁
價二、八〇
送〇、一六

保姆檢定試驗規則による1教育2兒童心理3教授法4管理法の大意を網羅せる保姆必須書。各府縣檢定指定の唯一參考書。

【六版】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園教育兒法

判七五頁
價二、〇〇
送〇、一二

育兒法は保姆資格試験の必須科目で、本書は其の唯一參考書、保姆養成所教科書。附録に健康保險法種痘法等掲載し懇切を盡す

【六版】
奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の經營

判四六頁
價二、八〇
送〇、一六

狭き方眼目・保育要目・標準施設・時間配當・託兒所經營等の重要問題を解決明示し、更に經營概論・保育諸問題等々懇説す。

東大 京阪 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區神安一丁目一丁目
大阪市南區寺堂一丁目一丁目
東京(替振) 一〇三〇七番
大阪(替振) 三九五六番

新刊 石井 漫著 子供舞踊

内地左右約八十五分紙張がワロニス本綴装復種並
 華内左右約八十五分紙張がワロニス本綴装復種並
 約二百四十枚、七十餘頁、人並に明瞭に描かれた
 定價金二圓五十錢 送料十錢

本書は野口雨情、葛原しげる諸先生をはじめ童謡大家の作品に、配するに小松耕輔、中山菅平の諸先生及新進作曲家の曲譜を以てし、著者がこれに獨特の蘊蓄を傾けて振付を爲し、懇切叮嚀に幼児舞踊の實際を指導せるもの。近時童謡踊りとしての指導書は尠しきもないが、多くは身振手振を歌詞に摸する弊に墮して、眞に幼児の純真明朗なる琴線に振れて高鳴る如き自然的流露を、律動的に、體育的に運動の均齊な情操の陶冶に統整せる指導書なきを遺憾として、滔々として舞踊氾濫の現代に、眞に舞踊の基礎に立脚し、幼児舞踊の基本的要素より一々手をこつて補導せるもの則ち本書である。收むる所二十曲目。幼児保育の重任にある皆様の御前に捧げる。



食館レベール社 株式會社

番七二八三(33)段九話電・二町保神・田神・京東 店 本
 番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)

昭和十一年九月十三日印刷納本
 昭和十一年九月十五日發行

臨時定價七十錢